

理學士 奈佐忠行監修

日本地理教科書

東京 六盟館藏版





臺灣諸蕃族



大のそぶ

蕃南卑(一) 蕃面線有(二) 蕃ノア(三) 蕃シリアツ(四)  
 蕃セルゲル(五) 蕃レイバ(六) 蕃眉阿(七) 蕃山里阿(八)

(東京帝國大學所藏) (鳥居氏攝影寫真ニヨル)

(小川一眞印行寫真版)



凡例

- 一、本書は、中學校・師範學校・其他中等教育の諸學校に於ける地理教科用に供せんがために編纂せり。
- 一、本書の内容を總論・處誌・結論の三に分ち、總論に於ては自然的日本を説き、處誌に於ては各地方に於ける自然上人事上の事項を記述し、結論に於ては一般概念を與へんとを期せり。
- 一、本書は力めて本邦地理の骨子のみを記述せり。是れ一は紙數を節すると、一は教師の講話に餘地あらしめんとに外ならず。
- 一、本書五號活字を以て記述せる所は、時間の都合と場



合とにより、或は省略すると、或は談話すると、或は又通讀せしむるとは、すべて教師に一任す。

一、本書齧頭に空欄を設けたるは、學生の摘要記録に供せんがためなり。

一、本書挿入の臺灣蕃族の圖は、鳥居龍造氏の實地探檢の際撮影したる者にして、東京帝國大學人類學教室所藏に係る者を、主任教授の許可を得て謄寫せる者なり。

一、本書臺灣蕃族に關する記事は、親しく鳥居龍造氏に質したる者にして、該記事の草稿は同氏の校閱を経たり。茲に明記して同氏に謝す。

一、本書臺灣山脉の名稱は、理學士石井八萬次郎氏の臺

灣總督府報告書に依る。

明治三十三年十二月

編者識



日本地理教科書序

頃日友人荒泰治君本書を余に示し添刪を囑せらる余公務の餘暇之を通讀するに材料饒多記事簡明頗る教科書に適するを喜ぶ余不學其器に非ずと雖も聊か取捨



を  
加へ  
書肆に  
勸めて  
梓に  
上ほさ  
しむ

明治三十三年十二月

東京に於て

奈佐忠行識

日本地理教科書

目次

總論

位置	一
廣袤	二
地勢	三
山系	四
水系	七
沿岸	八
氣候	一〇
天産	一二
區劃	一三



處誌

關東八州甲信越地方.....一六

概說

東京府 神奈川縣 埼玉縣 山梨縣 群馬縣

長野縣 新潟縣 栃木縣 茨城縣 千葉縣

統括

舊奧羽地方.....三七

概說

福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣

山形縣

統括

本州中部地方.....四七

概說

靜岡縣 愛知縣 三重縣 岐阜縣 福井縣

Handwritten notes: 12000, 12800, 12200, 12340

石川縣 富山縣  
統括

近畿地方.....六二

概說

滋賀縣 京都府 大阪府 奈良縣 和歌山縣

統括

中國地方.....七五

概說

兵庫縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 島根縣

鳥取縣

統括

四國地方.....八八

概說

德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣



統括

九州地方.....九五

概說

福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 大分縣

鹿兒島縣 沖繩縣

統括

北州地方.....一一一

概說

渡島 後志 膽振 日高 石狩 天鹽 北見

根室 釧路 十勝 千島

統括

臺灣地方.....一二四

概說

臺北縣 臺中縣 臺南縣 宜蘭廳 臺東廳

澎湖廳  
統括

### 結論

生業.....一三八

住民.....一四六

政治.....一五一

沿革.....一五三



# 日本地理教科書

理學士 奈佐 忠行 監修  
荒 泰治 編纂



總論

位置 我が日本帝國は、太平洋の西北隅に在る島國にして、東北より斜に南に延び、亞細亞の東岸に横はれり。

極東 千島國占守郡占守島東端 東經 一五六、三二度

極西 澎湖島花嶼西端 全 一一九、二〇

極南 臺灣南岬岩礁南端 北緯 二一、四八

極北 千島國占守郡アライト島北端 全 五〇、五六

西北の二面は、オホーツク海・日本海・東海に隔てられて、露西亞・朝鮮・支那の三友邦と相對し、東南は一帶太平洋に面せ



り若し東に航せば、北太平洋を横ぎりて、本邦最初の條約國なる北米合衆國に到るべく、南に進めば、南太平洋の大陸オーストラリアに達すべきなり。

島嶼の數二千有餘、一千二百餘里の間に連る。中に五大島あり、本州は中央を占め、北州其北に横はり、四國其南に横はる。九州は四國の西に當り、臺灣は遙かに九州の西南に在り、千島、豆南諸島及び琉球は、各數島連りて一列をなす。

廣袤 總面積大約二萬七千方里、之を四隣の面積に較ぶるに、我が國より小なる者は、唯朝鮮の一國にして、約本邦の二分の一に當る。他は皆我に數十倍せり。

日本帝國 一  
北米合衆國 二三  
支那帝國 二六

露西亞帝國

五四

又五大島の面積を較ぶるに、臺灣九州は略大小なく、各四國の二倍に相當し、北州は四國の四倍半に當り、本州は大凡四國に十三倍す。

四國 一、二〇〇方里  
臺灣 二、二〇〇方里  
九州 二、三〇〇方里  
北州 五、〇〇〇方里  
本州 一四、五〇〇方里

地勢 今四周の海面にして、六百尺低下したりとせば、北部は樺太より露西亞に續き、南部は九州より支那に續くべし。これに依り、本邦の地體は、本來亞細亞大陸に連續する者なれども、其の低き所は淺き海底となり、高き所は島となれるを悟るべし、故に各島概ね細長く、山岳連亘して、平地は全面



積の九分の一に過ぎざるなり。然れども、詳かに各島を見渡せば、其の太平洋に面する地は、傾斜稍緩かにして平地に乏しからず。唯臺灣のみは、全く之に反して大陸面に沃野を控ゆ。而して、土地の最も高峻なるは、本州の中部とす。一萬尺以上の高峰雲を凌ぎて群立す。本州北部・北州・四國の高地之に次ぎ、九州及び本州西部は山甚た高からず。臺灣の高地は、本州中部と匹敵せり。

山系　かく本州中部の高峻なるは、他なし、此の地方は、二大山系が互に高峰を起して相接したるが上に、接目を通じて火山の烈しき噴出ありたるに由るなり。二大山系とは、樺太山系・崑崙山系を云ひ、接目に噴出せる數多の火山をば、其の中最も秀でたる富士山の名を採りて、富士帶火山脈と呼ぶ。此脈は、日本海沿岸に起り、本州を横斷して、豆南諸島を噴

起し、遠く太平洋を南に走れり。

富士帶火山脈は、山嶮しく峯連りて、樺太・崑崙二大山系の分界をなすを以て、地理學の上にては、此火山脈以東の地を北日本と名づけ、以西を南日本と稱す。

樺太山系の主脈は、樺太より來り、北州を南北に貫きて蝦夷山脉と稱し、本州にては、北上山脉・阿武隈山脉となりて東岸を走り、關東山脉によりて中部に達す。其西に分水山脉あり。支那より來れる崑崙山系は、東海を渡りて二派となる。其の北なるは、九州の北部を過ぎり、中國に亘りて中國山脉と呼ばれ、中部に近づきて高峻なる美濃飛驒高原を起し、餘勢飛驒山脉となる。其南なるを九州南部山脉と云ふ。四國にて四國山脉と稱し、本州に入りては紀伊山脉となり、赤石山脉によりて中部に會せり。



火山脈も、富士帶火山脈の外數多あり。千島帶火山脈、那須火山脈、阿蘇火山脈、霧島帶火山脈等を主要なるものとす。千島帶火山脈は蝦夷山脈の中央に起り、此に北州の最高地を起し、千島列島を噴起して露領カムチヤカ半島に入り、那須火山脈は、北州の西南部に起り、分水山脈に沿ひ、那須岳を経て淺間山に至る。阿蘇火山脈は、九州の中央に於て有名なる阿蘇山を作り、四國の北邊を過ぎて本州に入る。阿蘇山の南に霧島山あり、霧島帶火山脈は温泉岳より此を過ぎ、薩南諸島、琉球の西側に沿ふて、台灣の大屯火山彙の方に向へり。此等火山脈の外、日本海岸に沿ひて數個の小火山脈あり。鳥海火山脈、白山火山脈の二脈稍著し。鳥海火山脈は岩木山に起り、中部に於て那須火山脈に合し、白山火山脈は白山より中國山系に沿ふて西に走る。

要するに本邦の地體は、樺太、崑崙の二大山系骨子となり、其大陸に面する所は、地體に變動ありて多く裂目を生じたるがため、火山多く列坐せり。

故を以て、太平洋面を表面又は表日本と云ひ、日本海面を裏面又は裏日本と稱し、其分界線を中央線と云ふ。中央線は凹地帯をなして存す。即ち北州にては蝦夷山脈の西を過ぎ、本州にては北上阿武隈、足尾關東赤石諸山脈の西、紀伊山脈の北を走り、四國を経て九州南部山脈の北を過ぐ。

水系 斯の如く、本邦は山脈國中を貫走するを以て、河流概ね短小にして、上流往々瀑布を成し、沿岸數不測の災に遭ふとあり。されど、傾斜の緩なる所、灌溉運輸の便を供する者亦少からず。石狩平野の石狩川、北上平野の北上川、關東平野の利根川、越後平野の信濃川、畿内平野の淀川、四國の吉野川、九州の筑後川等を最とす。



蝦夷山脈と千島帯火山脈とは北州の分水界を成し、分水山脈中國山脈及び紀伊山脈の支脈なる鈴鹿山脈は本州の分水界となり、四國山脈臺灣山脈は各、四國臺灣の分水を掌り、九州は南部山脈北部山脈により分水せらる。

湖沼には琵琶湖霞浦を最著名とす、猪苗代湖中、海入郎瀉、尖道湖、印幡沼等も稍運輸灌漑に便す。又火山脈中には、小湖多く存して到る所風色を添ふ。

沿岸 我が國が、山脈縱横に亘りて、彼我の交通を妨げ、河流あれども舟を行るに不便なりとは、諸子の己に學べる所なり。然るに、斯の如き地勢上の不利は、沿岸の夥しき屈曲出入によりて補ふことを得たり。何となれば、本邦の如く屈曲に富むときは、良港灣多く、海路の交通自在にして、貿易商業を盛に興すべく、文運の發達を促し、富國強兵の基を開き得べ

ければなり、本邦海岸線の延長は、實に七千五百里に達し、總面積に對する割合の長きを殆ど世界に類なく。而して、其稍日本海に短かく、太平洋に長きは、主もに地勢の日本海面に急にして、太平洋面に緩なるに由る。五大島中九州を出入最も多き地とし、四國之に次ぎ、北州、台灣を最も稀少なりとす。

北州島の屈曲する所は、斷岸直ちに海に臨み、海底に岩礁起伏し、一直線をなす所は、砂丘相連り、或は高地に接する所あり。本州の裏面は概して斷崖多く、岩礁の出沒すると北州の屈曲部に似たり。二三の良出入の外は、到る處怒濤岸を噛むの光景を見る。表面は砂濱多く、大岬小角或は犬牙の如く、或は鋸齒の如く出て、良港灣を抱く者多し。四國九州の太平洋岸は出入稍稀なれども、瀬戸内海は、中國山系、四國山系の谿谷に當り、岬灣出入して優に其不足を補ふに足る。九州の北西岸は本邦中屈曲最も著しく、中に數良港あり、臺灣の西北岸は、小出入われども、概ね遠淺にして、風波荒く、大船を泊するに便ならず。東岸は山勢急に海に逼り、數十仞の斷崖をなす所多



し。  
氣候 本邦の位置、亞細亞大陸に近接するを以て、氣候も其影響を受くるを尠からず。冬季に於ては、大陸非常に冷却して寒風常に本邦を吹き、本邦の溫度は著しく低下し、南西諸島を除くの外は、全國中氷點以下に降り、台灣地方と雖も時に降雪を見るをありざれど、西比利亞の黑龍江地方支那北部等に較べて寒暖の差甚しからざるは、海流の影響大なるに因る。蓋し此海流は、台灣の東南近海より來る黒潮の一派にして、對馬海流といふ。對馬海峽を過ぎて日本海に入り、本州・北州の海岸を洗ふ。溫度他海水よりも著しく高きにより、本邦冬季の氣溫を和らけ、且つ濕氣を多量に與ふるを以て、大に降雪の量を増し、日本海岸の地方に陰曇の日多からしむ。本流は、黒潮の外に黒瀬川又は日本海流と呼ばれ、九州

四國・本州の南を過ぎ、房總半島の北に於て、カムチヤカ近海より來れる寒流親潮と衝突し、太平洋に向へり。親潮は千島及び北州・本州の東岸を洗ひ、爲めに沿岸を寒冷ならしむ。夏季は又大陸甚だ熱するに因り、我が國も亦其影響を蒙り、溫度割合に高さも、太平洋より吹き送る涼風は、よく其苦熱を拂ふを以て、冬季の如く甚しからず。但南風は暖流を横ぎり來るか故に、夏季太平洋岸に多量の雨を降らす。殊に六月頃には梅雨と稱へ、十月頃には霖雨と稱して、共に降雨數十日に亘るをあり。本邦にては此期を最多雨の期とす。又夏秋の候、往々颶風の襲ひ來るとあり。實業家・航海者は懼れて警戒を怠らず。其風害の甚しきは、台灣・琉球・九州・四國地方なりとす。  
要するに本邦の氣候は、大陸の影響大洋の爲めに調和せら



れ、寒暖其宜を得て、文明國中稀に見る所の者なりとす。  
**天産** 本邦は右の如く善良なる氣候を有し、地勢狹長にして寒地より熱地に亘り、沿海また寒暖二流の流るゝあるに  
 より、頗る生物の發育に適し、又其種類に富めり、動物は、陸には、熊猪猿兔狐狸の類、山野に走り、林鳥は樹間に嘯り、水鳥池上に戯むる、海には、臘虎、膾膈、海豹、鯨、鯨鯨、鯨鯨等、寒流に群がり、鯨、鱈、鰻、鮭、鮪、鳥賊等、暖流中に産し、鯨は帝國の四周到る處に産す、植物には、トマ、マツ、エゾマツ、白楊等の良木、寒地に斧の來るを待ち、山毛櫸、松、杉、樺、檜、檜、檜、檜の如き良材、柑、橙等の果樹、本邦の春を装ふ、梅、櫻は、寒熱の間に茂り、椰子、芭蕉、榕樹、鳳梨、樟等は、琉球、台灣等の熱地に榮へり、ひとり、鑛物は、其産類少なく、頗る憾とすべし。文明の進否を卜すべしと稱ふる鐵及び貴金屬の金等は、多く海外の輸入にかゝる。されど

銀、銅、硫黃、陶土等は、稍豊にして、殊に工業を生むべき石炭の産出に富めるは、真に多幸と云ふべし。

**區劃** 我が國の舊制にては、全國を分ちて畿内八道とし、更に山河の形勢によりて八十五國に分ちたりしが、現今は、政治、上、北海道には一廳を置き、畿内及び東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海の七道をは、三府四十三縣に分ち、廳府縣の下に各郡市町村を配せり。新領地の台灣には三縣三廳を置けり。

**舊區劃**

畿内	山城	大和	河内	和泉	攝津
東海道	伊賀	伊勢	志摩	尾張	三河
	相模	武藏	安房	上總	下總
				常陸	
東山道	近江	美濃	飛驒	信濃	上野
	陸中	陸奥	羽前	羽後	下野
					磐城
					岩代
					陸前



北陸道	若狹	越前	加賀	能登	越中	越後	佐渡
山陰道	丹波	丹後	但馬	因幡	伯耆	出雲	石見
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後	安藝	周防
南海道	紀伊	淡路	阿波	讃岐	伊豫	土佐	長門
西海道	筑前	筑後	豊前	豊後	肥前	肥後	日向
	壹岐	對馬	琉球				大隅
北海道	渡島	後志	石狩	天鹽	北見	膽振	日高
	根室	千島					十勝
							釧路

現今の行政區劃

北海道廳	東京府	京都府	大坂府	神奈川縣	兵庫縣	長崎縣
新潟縣	埼玉縣	千葉縣	茨城縣	群馬縣	栃木縣	奈良縣
愛知縣	静岡縣	山梨縣	滋賀縣	岐阜縣	長野縣	宮城縣
岩手縣	青森縣	山形縣	秋田縣	福井縣	石川縣	富山縣
島根縣	岡山縣	廣島縣	山口縣	和歌山縣	徳島縣	香川縣
						愛媛縣

高知縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣  
 臺北縣 臺中縣 臺南縣 宜蘭廳 臺東廳 澎湖廳

本書にては、便宜により、全國を關東八州甲信越地方、舊奥羽地方、本州中部地方、近畿地方、中國地方、四國地方、九州地方、北九州地方、台灣地方に區分し、以て各地方の地理を觀察せんとす。

本州四國九州の地は、古の所謂大八洲の域にして、氣候風俗等に大差なく、人文風に開け、人烟も亦稠密にして、歴史上に於ても、地理上に於ても、甚だ親密なる關係を有するにより、殊に中域と稱し、北方に偏在して、開拓日尙は淺き北州をば北域と呼び、新領土臺灣をば南域と稱すべし。



處誌

關東八州甲信越地方

東京府

東京市 武藏八郡 豆南諸嶋

神奈川縣

武藏三郡 相模八郡

山梨縣 甲斐

埼玉縣

武藏九郡

群馬縣

上野

長野縣 信濃

新潟縣 越後佐渡

栃木縣

下野

茨城縣 常陸

千葉縣 下總六郡 上總安房

茨城縣 常陸 下總三郡

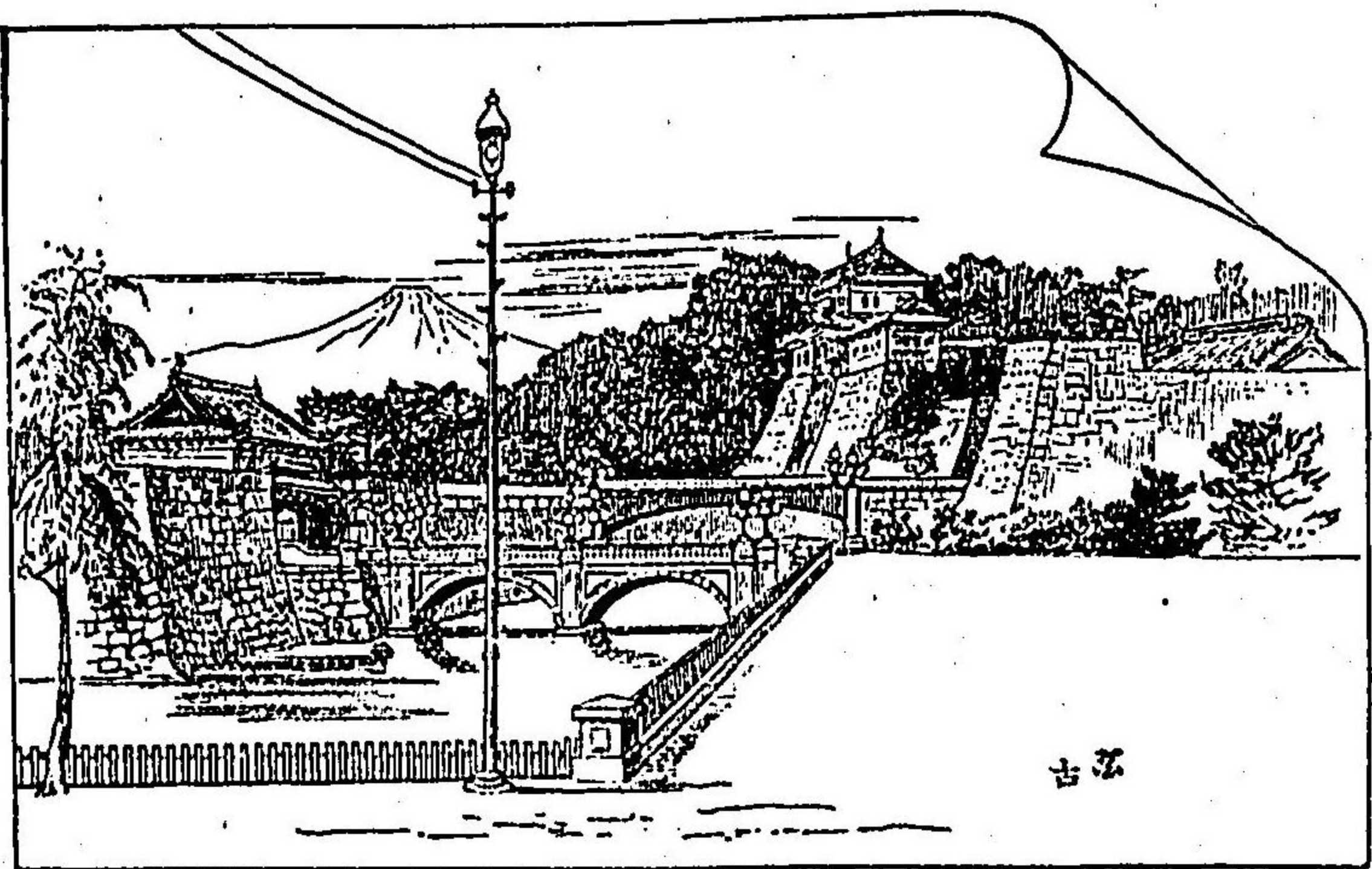
概説 長野山梨兩縣の域は、樺太山系と崑崙山系との衝突せし處なるにより、山岳重疊して本州の最高地方たり。馬入川・富士川・天龍川・木曾川・犀川・千曲川等此高地に發源して地方自然の通路となれり。高地の東方に關東の大平野あり、北は兩毛地方<sup>上野</sup>の山地に堺せられ、土地東南に低下す。利根川・荒川・那珂川等其間を流れ、阿武隈山脈の一部と、頗る低き房總山脈とを除けば、又眼を遮ざる者なし。關東平野の北に

方りて越後平野あり、信濃川・阿賀川の二流平野の間を流れ新潟近傍に於て海に入る。

本州中部を横ざりて、東西に通すべき要路三條あり、東海・中山・北陸の三道是なり。然れども、東海道には海道一の難所と稱せられたる箱根峠あり、中山道には木曾の險あり、北陸道には親不知の險路ありて、古來交通上の大障礙たり。富士帶火山脈の東西に於て、文化に大差ありたるは一は之れが爲めなり。

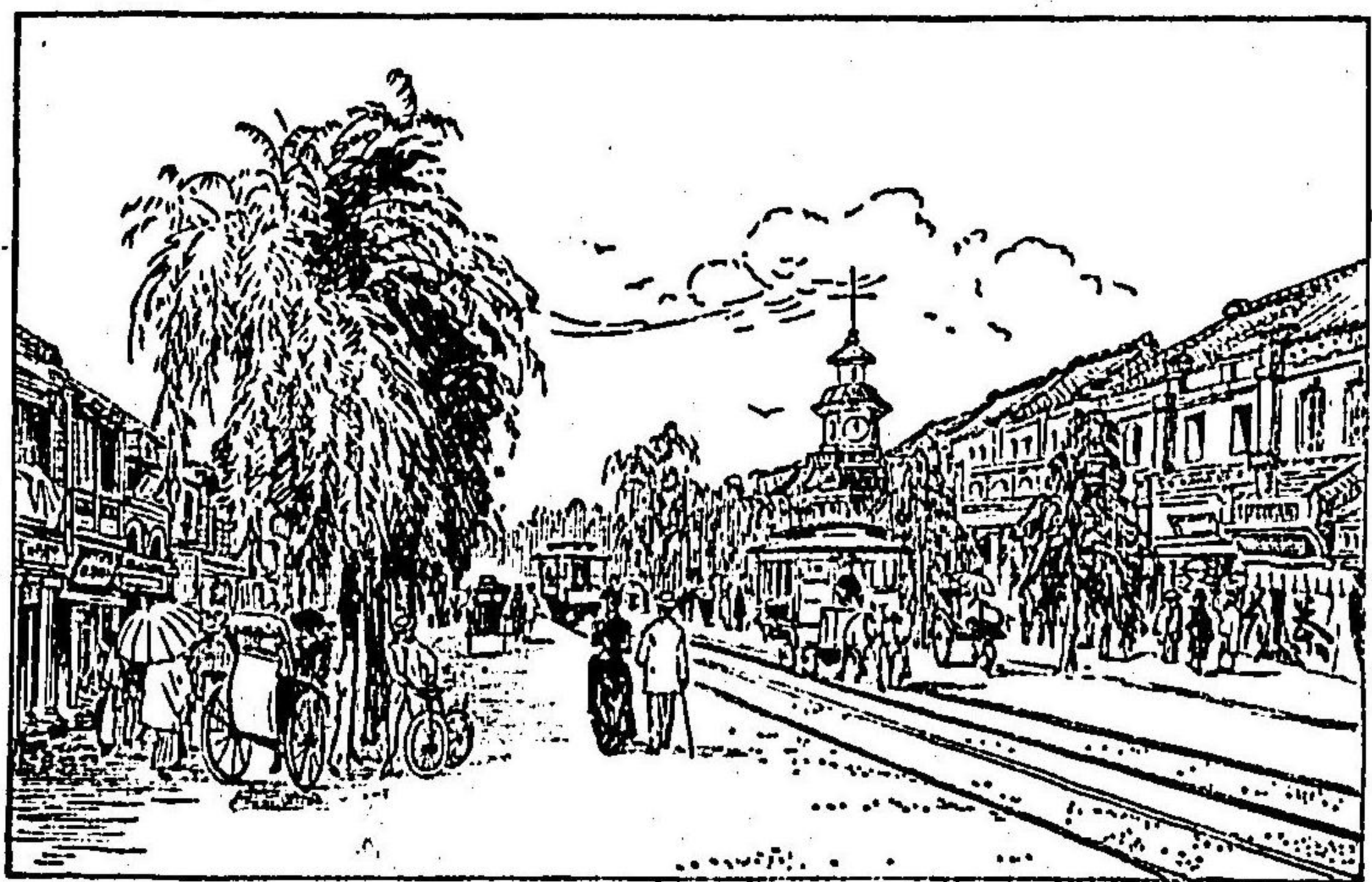
尙ほ本域の沿岸を観るに、三浦半島と房總半島とは、東京灣を抱きて關東平野に安全なる門戸を開けり。三浦半島の西は相模灘と稱し、房總半島の南端野島岬近海を房州沖といふ。房總半島の東岸と常陸沿岸とは、概ね平砂の濱にして、其間に犬吠岬出づ、此邊岩礁多し、黒潮は此に親潮と衝突して東北に向ふ。越後の沿岸は屈曲なく、日本海の常として冬期浪高し。其西部沿岸は斷崖多く、特に、飛驒山脈の海に終る所には、親不知の





險あり。佐渡には二つの灣入あり。  
 東京府 關東平野を益に喻ふ  
 れば、恰も其中心に當りて東京  
 あり。東京灣に臨み、荒川の下流  
 宮隅田川に跨り、四通八達の要區  
 を占めて商工の業盛に行はれ、  
 中央政府の所在地として施政  
 の中心となり、人口百四十三萬  
 城實に帝國の首府たり。全市を分  
 ちて十五區 麹町神田日本橋京橋芝  
 川本郷下谷淺 麻布赤坂四谷牛込小石  
 草本所深川 とす。本所深川の二  
 區は隅田川の左岸にあり、數大  
 橋によりて右岸と通ず。宮城は

舊江戸城の地にありて、市の中  
 央に位す。石壁高く立ち、青松壁  
 上より濠に臨み、正門には二重  
 橋を架す。内閣樞密院宮内省近  
 衛師團は城内にあり、内務外務  
 大藏陸軍海軍司法文部農商務  
 遞信の九省、帝國議會東京府廳  
 警視廳等其周圍にあり。大審院  
 控訴院行政裁判所會計検査院  
 東部都督部第一師團司令部諸  
 外國公使館等又本市にあり。  
 十五區中京橋日本橋神田三區  
 は、商業盛にして往來常に雜沓



東京銀座街



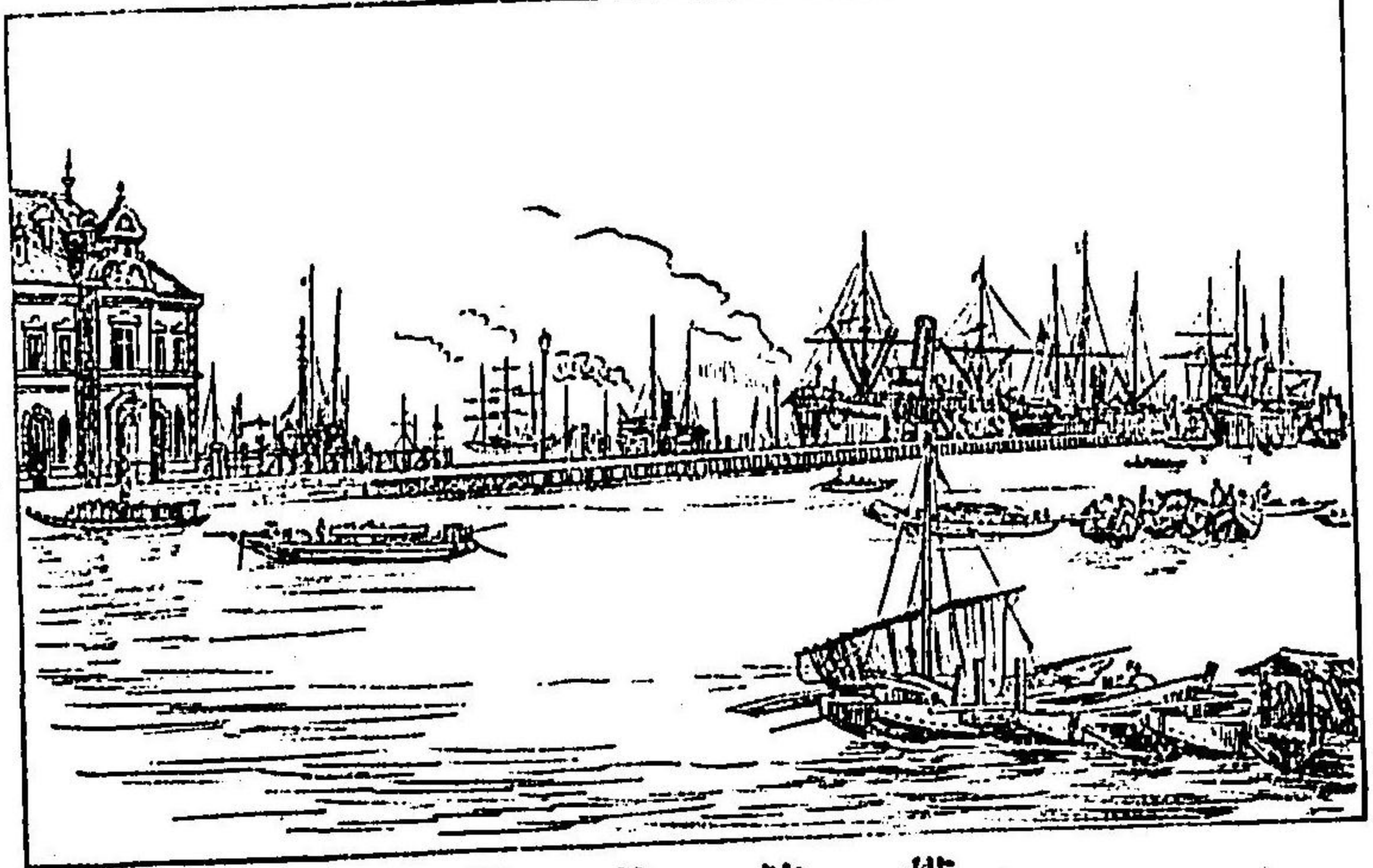
を極め、大小銀行の數百有餘に及ぶ。本所深川の二區は溝渠縦横に通じ、製造場多し。市の産物にはセメント・器械類・マツナ其他諸種の製造品あり。錦繪・紫染等は古來市の名産とする所なり。東京は又學藝の中心として、東京帝國大學・高等師範學校・第一高等學校・高等商業學校・東京工業學校・東京美術學校・東京盲啞學校・博物館・圖書館等備はるが上に、學習院・華族女學校は華族子弟の爲めに設けられ、陸軍大學・海軍大學・士官學校は軍事の教育に供せらる。市内又公園數所あり、上野・芝・淺草最も著はる。上野公園は、丘に據り、老杉櫻樹と雜はり、博物館・動物園・東照宮・寛永寺・西郷隆盛の銅像等其間にあり、不忍池丘下に湛々て風致多し。淺草公園には、淺草寺ありて士民常に群集し、芝公園には増上寺あり。九段の靖國神社・高輪の泉岳寺は、社寺の最も著はるゝ者なり。

本市市區改正の業も漸く其歩を進め、近時起工せる水道は已に給水を開始し、市街鐵道布設の計畫も成りたれば、數年を出でずして、帝都の威嚴更に大に加はるに至るべきなり。

千住(一萬六千)は、隅田川の枕み、交通の要路にあり。東武鐵道此地を起點として、今や久喜まで開通す。王子(一萬)は製紙・毛織其他の工場を有し、品川(一萬八千)は錨地にして又毛織・煉瓦の工場を有し、何れも東京に接す。八王子(三萬)は甲州街道にある小都會なれども、養蠶・製絲に名を得、織物を産出す。甲武鐵道東京より此地に來る。其北に青梅あり、石灰及び綿を産し、青梅鐵道によりて甲武鐵道に連絡す。

豆南諸島 は、伊豆七島・小笠原群島・硫黃島の三部に分る。伊豆七島大島・利島・新島・神津島・三宅島・御倉島・八丈島中、大島を最大とす。三原山活動盛にして噴烟の狀壯觀なり。八丈島は七島中の最南にありて、八





横濱埠頭

丈絹及び鯉を産す。小笠原群島は、島嶼凡三十、父島に島廳及び警備隊を置く、砂糖・蠟燭・珈琲を産す。硫黄島は未だ定住する者なし、明治廿四年我が版圖に入る。

御倉島八丈島間を流る、黒潮は、流勢頗る急なるを以て、一に黒潮川の名あり。

神奈川縣 東京より、瀛車時程凡一時間にして横濱(十九萬四千人)あり。横濱はもと寂しき一漁村たりしが、開港(四十餘年前)以來

頓に繁盛の區となり、今は開港場中の一二に居る。縣廳税關・外國領事館等ありて、内外の商舶常に輻輳し、東京と相須ちて貿易甚た活潑なり。生糸・絹布・茶・銅(以上輸出品)・綿織物・石油・砂糖・鐵鋼器械類(以上輸入品)等を貿易品の最主要なる者とす。神奈川(一萬九千)は、横濱に接して維新の史上に著はる。横濱の南、三浦半島に横須賀(八萬)あり、本邦軍港の一にして、第一海軍鎮守府あり。又大造船場・大船渠あり。東海道鐵道の一支線此地に到る。其南の浦賀は、米艦の渡來を以て世に聞ゆ、北の金澤は勝地なり。  
浦賀の背後なる觀音崎は、上總の富津崎と相對して、東京灣の咽喉を扼するを以て、各砲臺を設け、其間には海堡を築きて非常に備ふ。東京灣防禦總督専ら灣内の警備を管す。

鐵道に沿ふて鎌倉あり、鎌倉は幕府以來の舊蹟甚た多し。鶴岡八幡・鎌倉宮・建長寺等は、今尙は存する著名の者なり。稍西

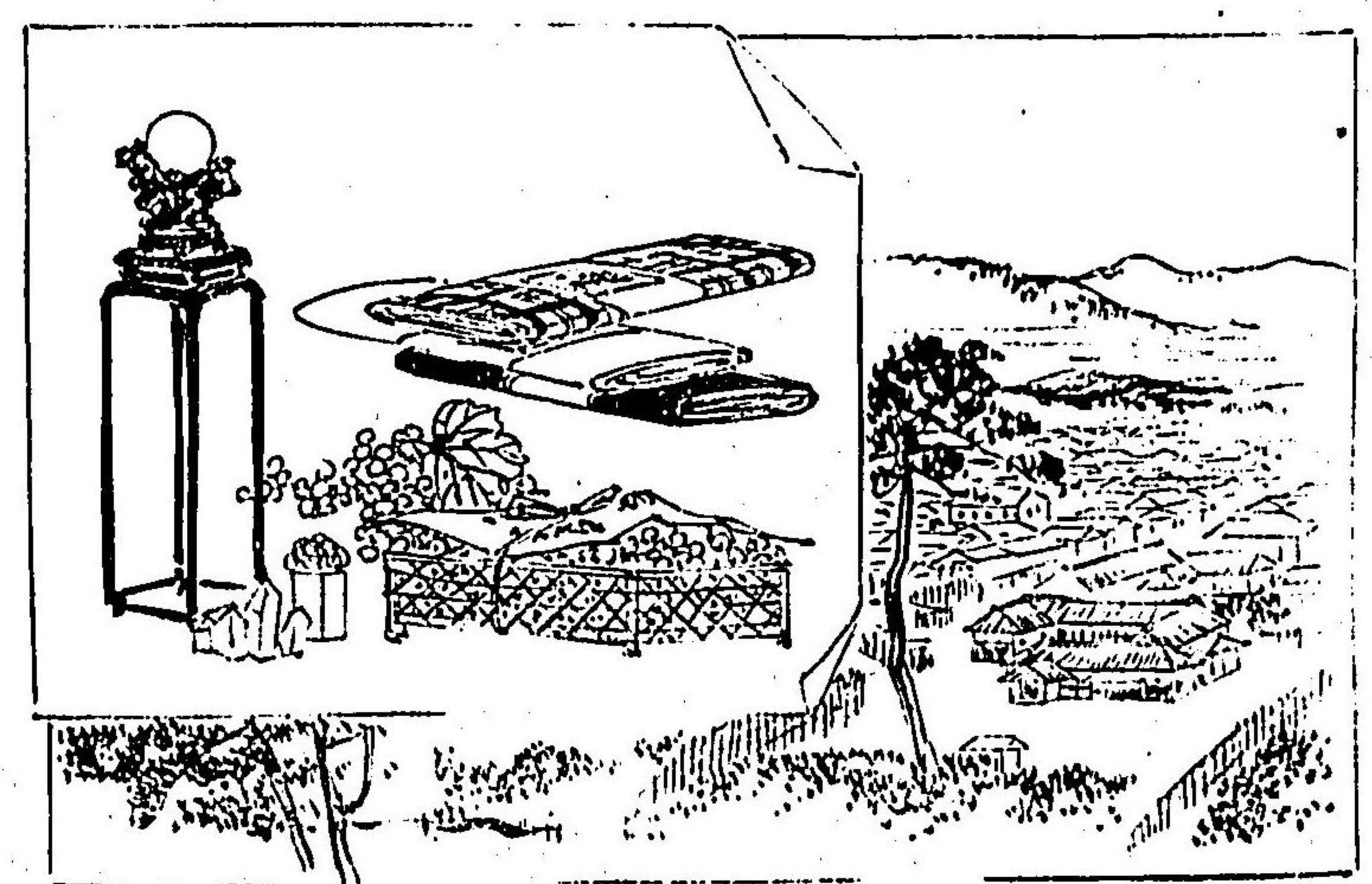


方に稻村、崎龍口寺等あり。江島は勝區として名高く、大磯は海水浴場として著はる。大磯附近は眺望よく、氣候も健康に適するを以て、別莊多し。有名なる大山は北方に立てり。東海道鐵道は、大磯の西より小田原(一萬七千)の西を過ぎ、足柄山の麓を通ず。小田原は史上に名高く、小田原城址今尚ほ存じ、人民多くは漁業を營む。西方箱根山中に蘆湖あり、湖面富士の山影を浮ぶ。湖畔に離宮あり、山中又溫泉多く、箱根七湯として夏時浴客多し。

車窓より望むべき金時山の如きは、舊箱根山山腹の一部(外輪山)にして、駒岳神山等は舊火口内の小火山(火口丘)なり。されど、今は全く活動せざるを以て消火山に屬す。

山梨縣 八王子より馬入川に沿ふて山梨縣の域に入れば、郡内地方として、甲斐絹郡内織を産す。馬入川に架したる猿橋

は、奇工を以て著はる。甲府(三萬七千)は、甲斐盆地に立ち、地方貨物の集散盛にして、山梨縣廳あり。市の名産水晶は金峯山より出づ。北郊に武田信玄の城趾あり。近傍の勝沼邊は葡萄の栽培に従事し、葡萄酒の醸造場あり。鰍澤よりは富士川の急流を下るべく、身延には日蓮宗の本山久遠寺あり。埴王縣 浦和は、中山道の驛路に當りて、縣廳あり。日本鐵道の高崎線は、此を過ぎ、大宮



府 甲



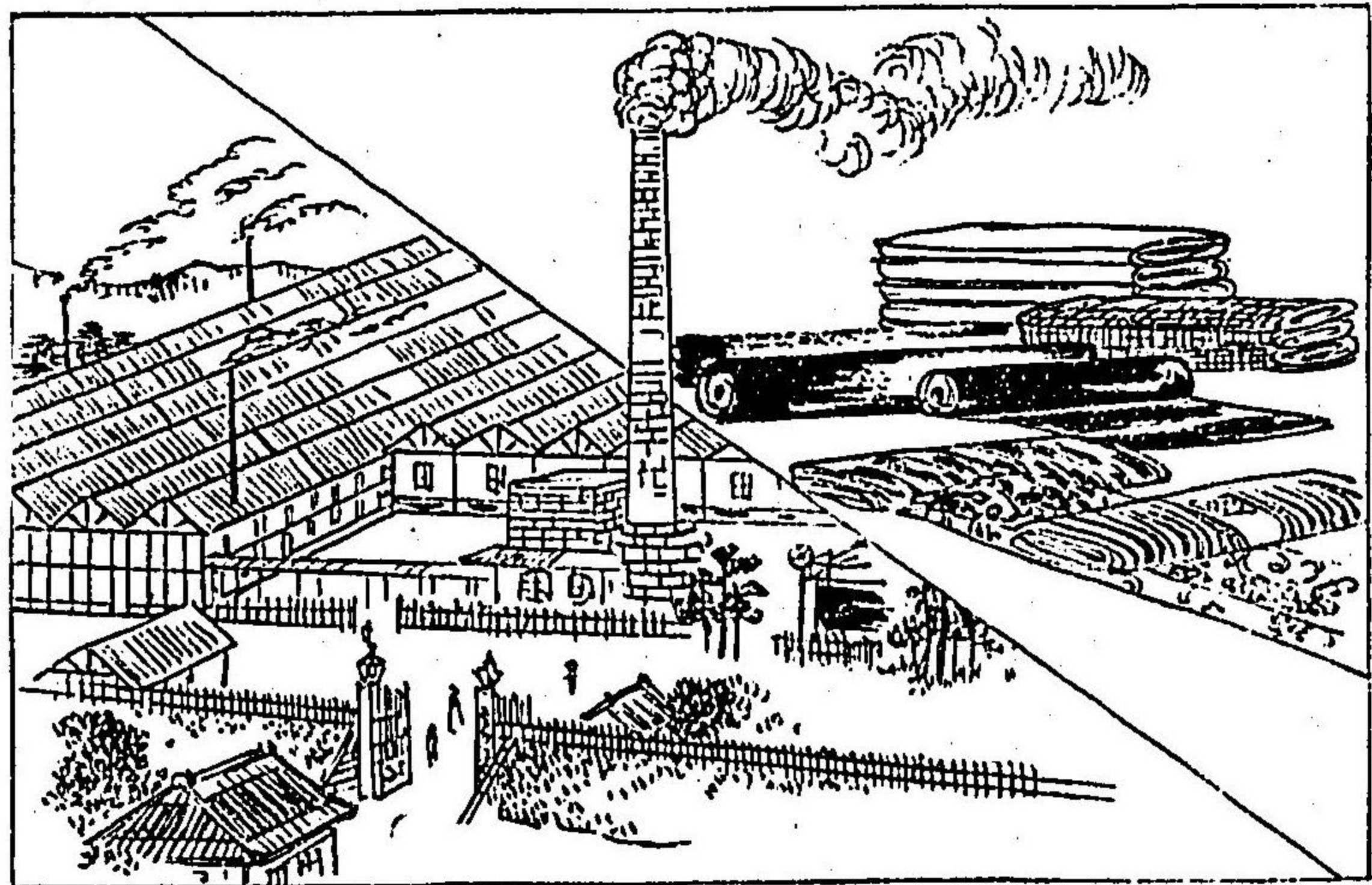


大宮公園

に於て東北線と分る。大宮には有名なる氷川公園あり、又盛大なる日本鐵道會社の工場あり。川越(九千)地方は甘藷の産出多く、又二子織茶の産あり。川越鐵道によりて甲武鐵道に連絡す。荒川の上流、秩父地方は、養蠶盛にして秩父絹を出す。又煙草の産あり。群馬縣 上野諸水の相會する邊に高崎(二萬九千)と前橋(三萬三千)とあり。高崎は、日本鐵道の高崎線、兩毛線、官設の信越線、上

野鐵道の會合點に當り、第一師團の分營あり。前橋は群馬縣廳の在る所、繭生系の市場たり。縣下一般に蠶桑の業大に發達し、富岡は大なる製絲場を有し、新町には絹絲紡績場あり。伊勢崎と桐生とは、夙に機業に名を博し、伊勢崎の銘仙、桐生の羽二重、繻子は中にも著はる。

前橋の西北榛名山中に伊香保温泉あり、白根山麓の草津温泉と共に有名なり、榛名山は、淺間活火山

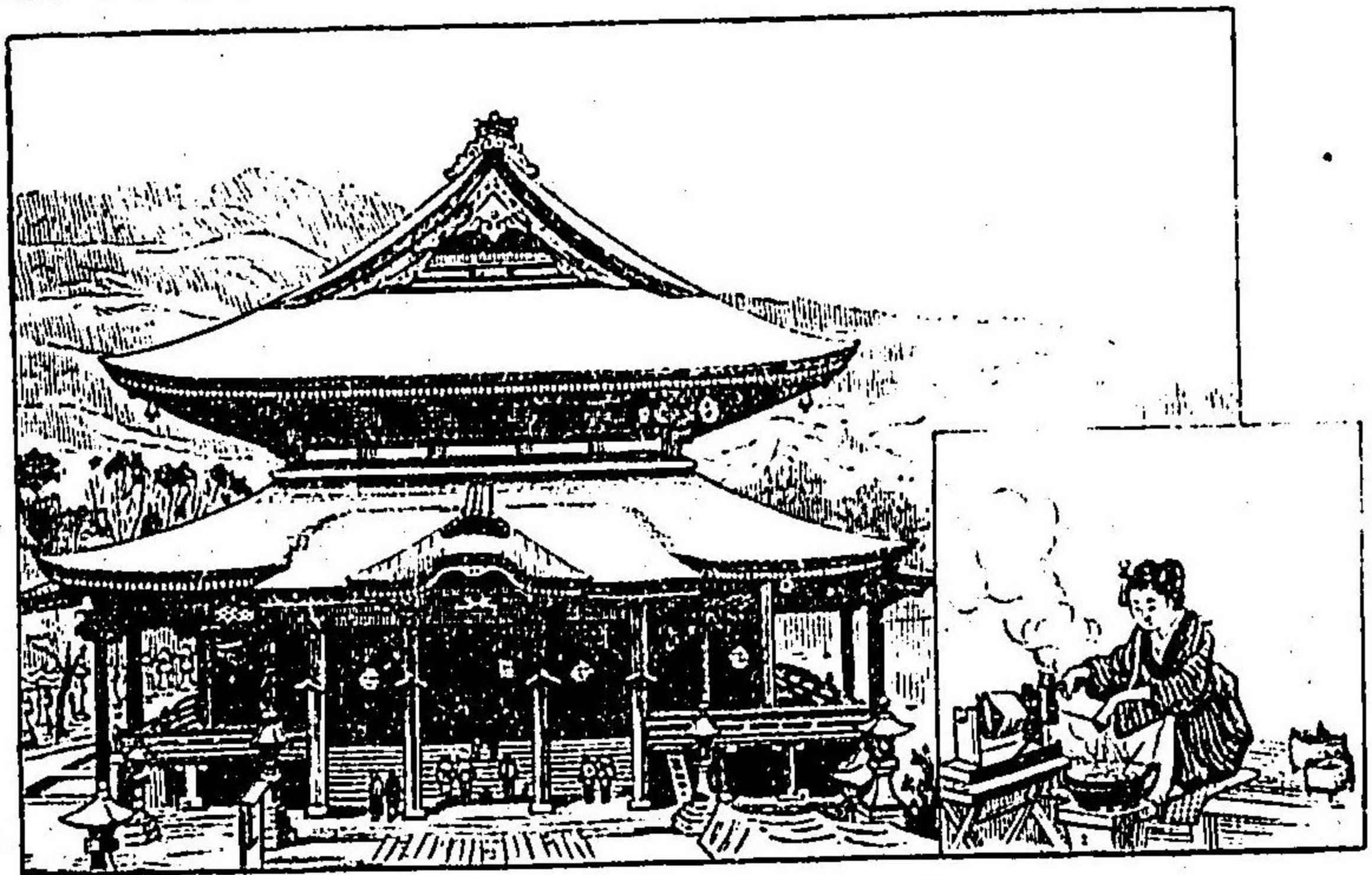


桐生織物工場



妙義赤城男體那須等の諸山と共に那須火山脈に屬し、概して山中奇景に富めり。

長野縣 高崎より碓氷嶺を彼方に越ゆれば、輕井澤あり、避暑地とす。西して千曲川を下れば、河畔に上田(二萬四千)あり。生糸・紬を産し、市況稍賑へり。尙ほ下れば、犀川と落ち合ふ所に音に聞ゆる川中島の古戰場あり。長野(三萬)は、其北犀川の左岸にありて長野縣廳あり。善光寺参りのために市



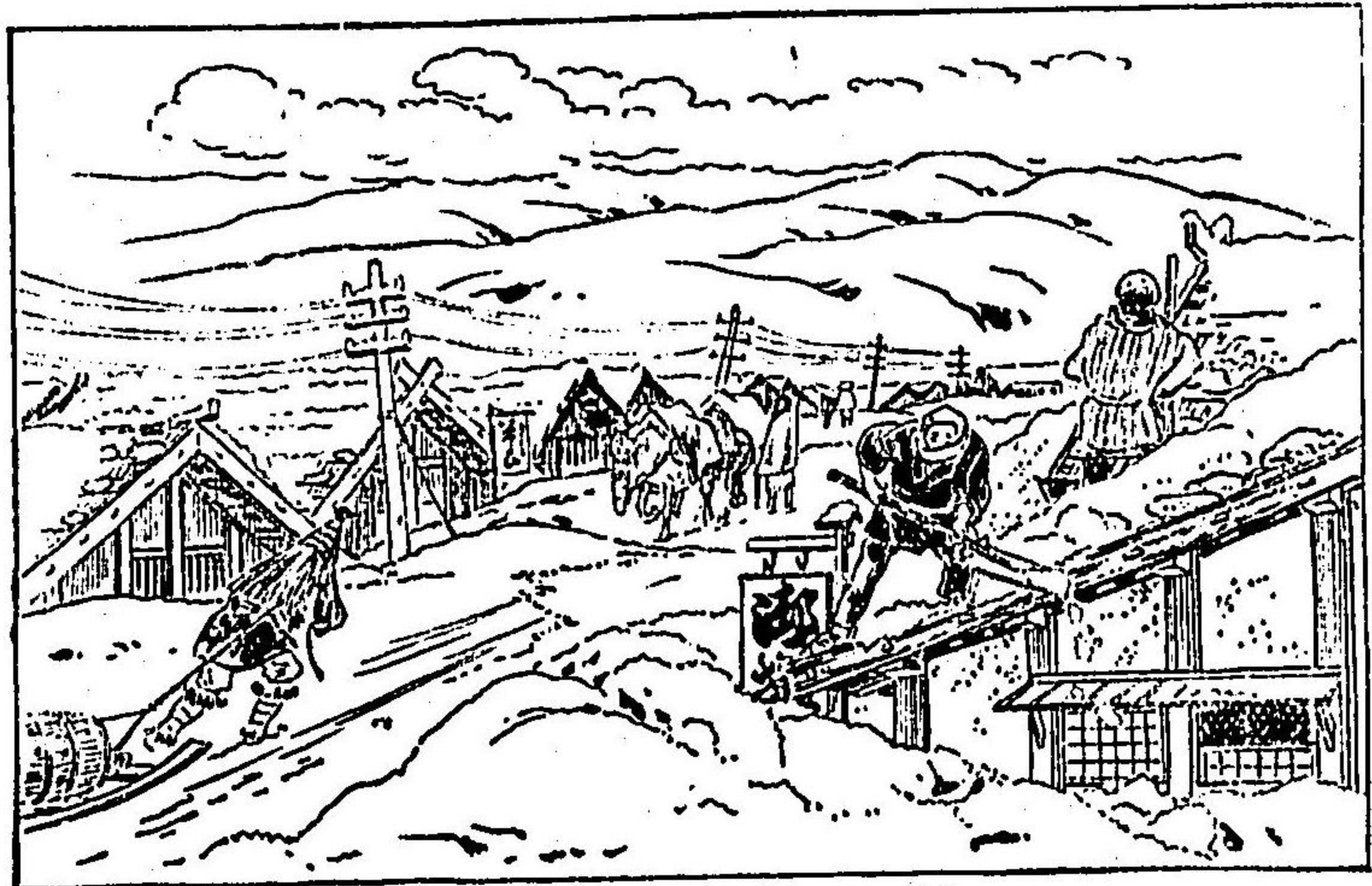
善光寺

中常に賑ふ。其南犀川の上に松本(三萬)あり、商業の要區にして蠶卵紙・真綿の産出盛なり。諏訪湖畔の諏訪地方は、製絲場多く、又海外輸出の寒天を産す。此より天龍川を下れば飯田あり、赤石山脉の赤石山東方に峙つ。木曾地方は古來良材を出し、流木として名古屋へ送る。又木曾駒を産す。谿間に奇勝多し。新瀉縣 長野より富士帶火山脈に屬する妙高山の東を過ぐれば、荒川の畔に高田(二萬)あり。直江津港(一萬)を控へ、石油を産す。信越線は、沼垂より三條・長岡等を経て來れる北越鐵道と直江津に會せり。近傍春日山に上杉謙信の城趾あり。長岡は信濃川に臨み、越後平野南部の商業地にして、近傍に石油を産し、南方魚沼郡地方には、越後上布・越後縮の産あり。三條(一萬)は鐵器の製作に名を得、大に大工道具を出し、五泉は五泉平を産す。新發田(一萬)には第十五旅團司令部あり、村上よりは

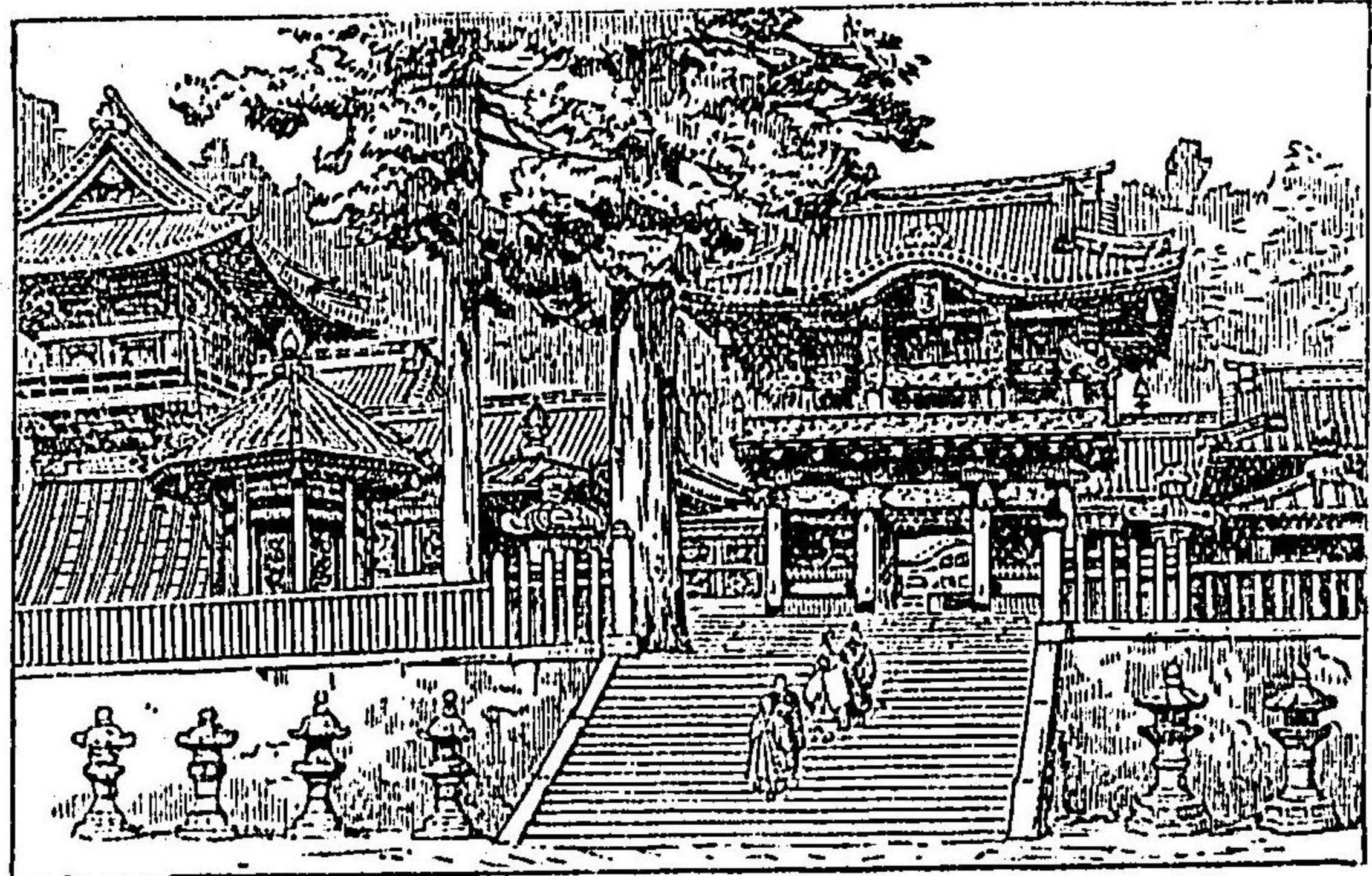


茶漆器を産出す。開港場新瀉  
 (五萬)は、もと新瀉奉行を置き  
 し所、越後平野唯一の要港と  
 して、諸名邑の中心に立ち、米、  
 肥料の集散多し。されど、北風  
 を避けかた、河口浅きため  
 商況振はず。佐渡の相川(二萬)  
 は名高き金山を控へ、近傍に  
 眞野山陵あり。夷は新瀉に渡  
 る要津にして、商船新瀉沖に  
 かゝる能はざる時は、來り  
 て此港に入る。

栃木縣 桐生より栃木縣の



越後雪



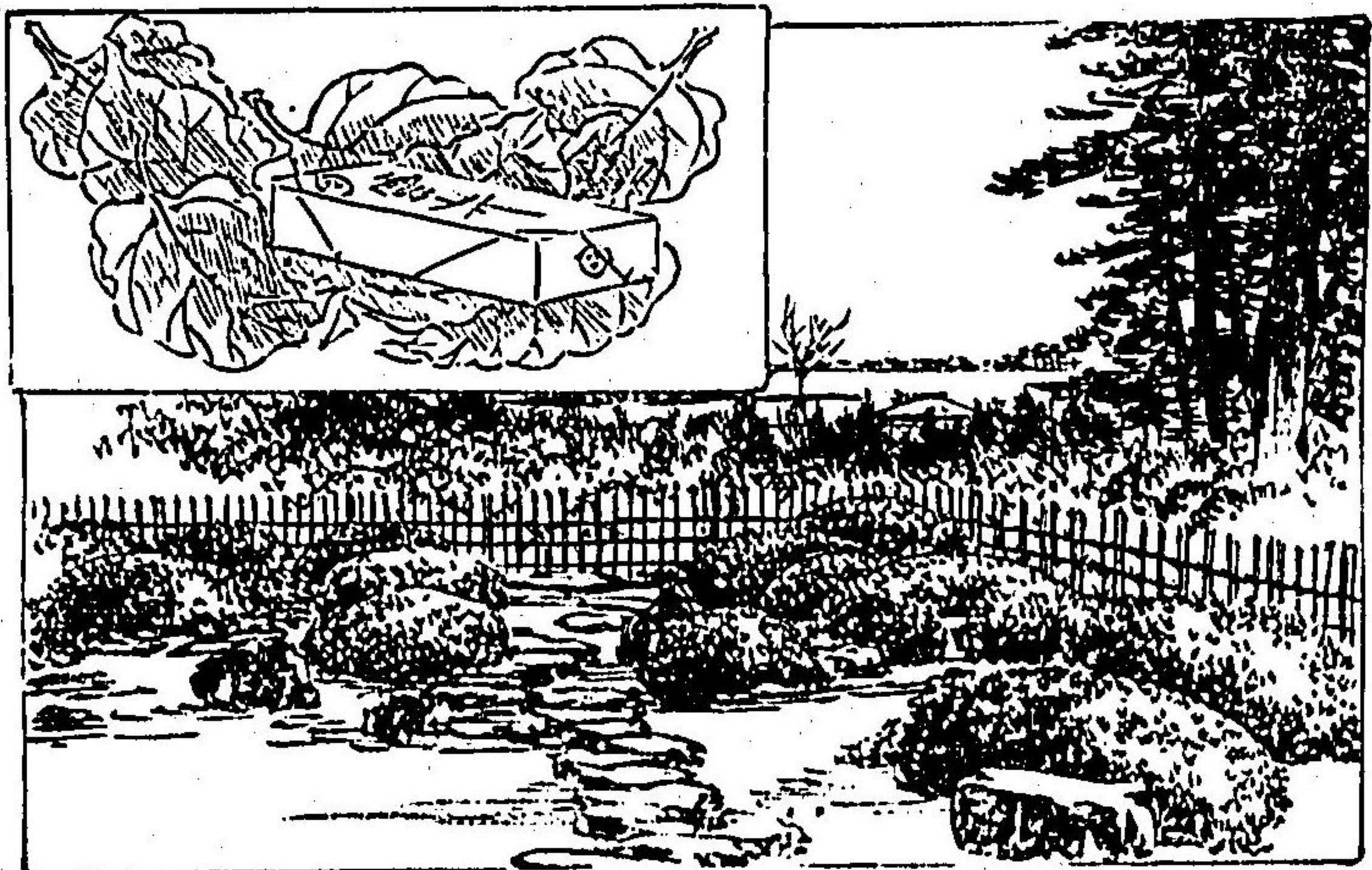
日光陽明門

域に入れば足利(二萬)あり、ま  
 た絹織物の産地として名高  
 く、有名なる足利學校あり。佐  
 野は佐野鐵道の起るところ、  
 椽木(三萬)は大麻・生糸・薪炭・木  
 材の集散盛なり。小山は兩毛  
 線と水戸線との分岐點なり、  
 東北線に沿ふて關東平野の  
 北部に宇都宮(三萬)あり、多く  
 干瓢を産す。栃木縣廳此にあ  
 り。日本鐵道の日光線は、此よ  
 り大麻の産地なる鹿沼(二萬)  
 を經て日光に通ず。東南に木

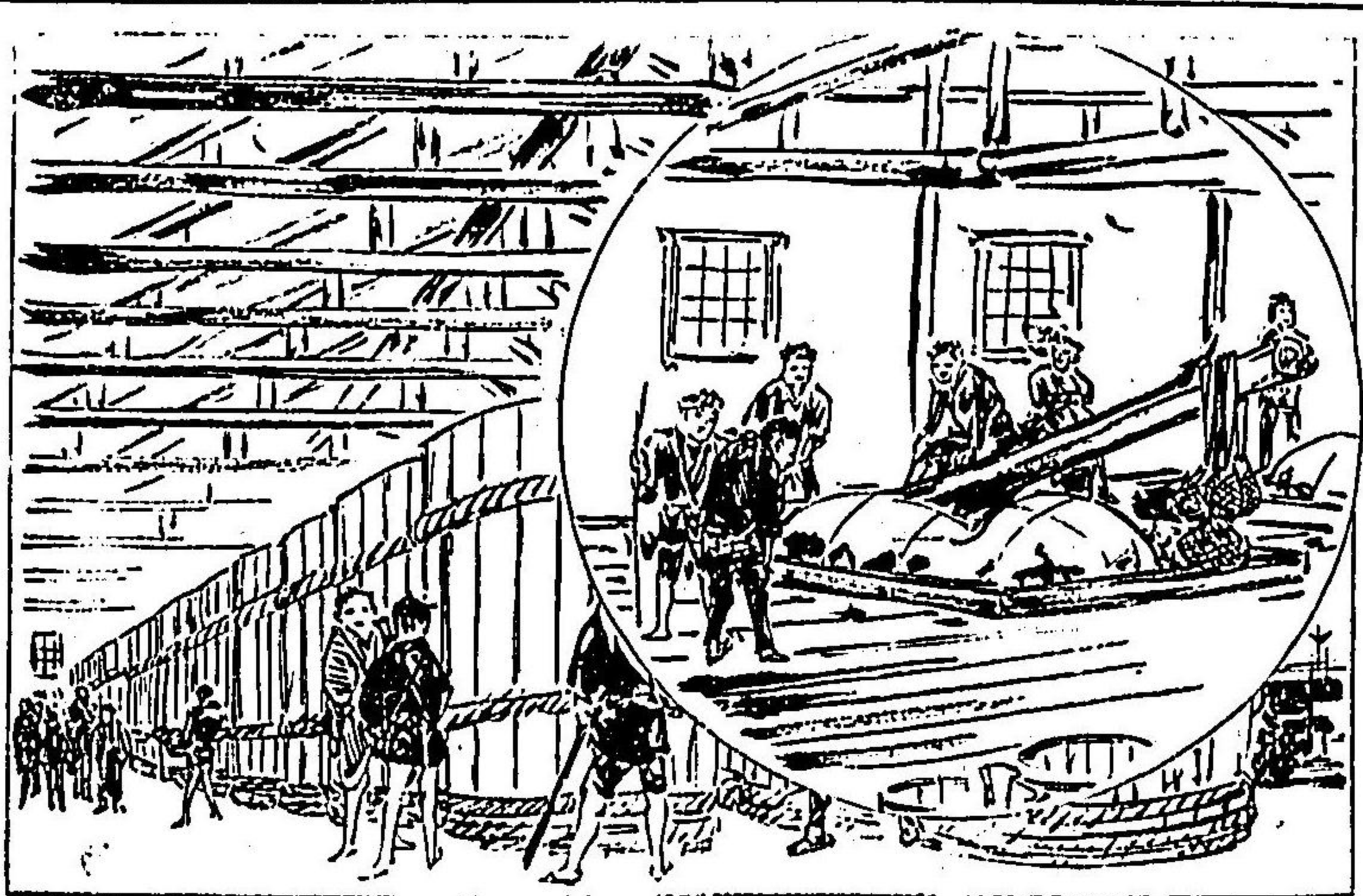


綿の産地真岡あり。日光の日光廟は、結構壯麗奇巧を極む。山中に中禪寺湖あり、其水溢れて華嚴の瀧となる。湖畔の風景賞すべし。足尾は銅の産出本邦第一と稱せられ、渡良瀬川の上流にあり。

**茨城縣 水戸** (三萬) は那珂川に枕み、徳川氏(水戸家)の舊城地にして今も尙は繁華なり。弘道館偕樂園等昔ながらに存す。近傍多く水戸煙草を産し、茨城縣廳あり。日本鐵道の



水戸公園



野田醬油製遺

常磐線・水戸線及び水戸鐵道によりて各地方に通ず。北磐城の境に近く平瀉港あり、北部山地の石炭を積出す。近傍に勿來關舊趾あり。水戸の西南常磐線に沿ふて石岡(二千萬)土浦(一千万)の名邑あり、關東の一名山筑波山其西北に聳ゆ。土浦は、本邦第二の大湖霞浦に臨み、米と肥料とを集散す。霞浦は太古海底の凹處たりし所なり。古河(一萬)と結城(一千万)とは、共に西境にありて、古河



は史上に著はれ、結城は紬を名産とす。

千葉縣 千葉(二萬六千)は交通上の要路に當り、縣廳第一高等學

校醫學部あり、總武鐵道は此地を経て銚子に通じ、房總鐵道

又此より上總の東岸に向へり、佐倉は第一師團分營のある

所、佐倉炭を産す、成田鐵道此より成田を経て佐原(一萬三千)に通

ず、銚子(一萬八千)は漁業地にして、鱈搾糟を出じ、又銚子縮醬油を

産す、小湊は誕生寺を以て著はれ、北條館山は房州近海に産

する魚類の集散多し、鋸山正北に見ゆ、鋸山の北に木更津あ

り、江戸河畔の野田は醬油を以て聞え、流山は味醂に名を博

し、行徳は鹽に名あり。

統括 關東平野は氣候溫和、地味肥え、水利よく、鐵軌縱横し

て主要生産地を連ねたり、日本鐵道の東北線以東の地は、専

ら農畊に勉め、米麥の産出豊にして、關東平野全産額の大部

分を占む。其濱海の地は漁業一般に盛にして、就中千葉縣の  
域を最とす。東北線以西の地は、主として蠶業に従事し、年々  
生糸、絹布の輸出尠からず。

其他茨城千葉兩縣の絹、水戸附近、相模西部の煙草、下野の麻銅、武藏の茶、千  
葉縣の養鶏、牧牛、常陸の寒水石、御影石等又著はる。

甲信の地は、山間に僻在するに、より、畊土割合に大ならず、地  
方一般に蠶業を重んじ、上武相と共に本邦中屈指の養蠶地  
方たり。又楮の栽培行はれ、紙の産出あり。

甲信の地は寒氣頗る強し、諏訪湖の如きは嚴冬の期至れば厚く結氷して  
氷上人馬往來すべし。又此地方は交通甚だ不便にして、産業の發達を妨ぐ  
る多し。然れども、信越線、碓氷嶺には二十有餘の隧道を穿ち、アプト式の  
軌條を布きて、汽車を上下せしむ。の己に通ずるあり、名古屋、八王子間の中  
央鐵道にして、全通を告ぐるに至らば、支線篠井線は、觀月の名所、姥捨山の  
麓を過ぎ、篠井西條の開通を終れり。地方の面目を一新すべきや疑なし。



越後平野は信濃川阿賀川の二川に灌漑せられ、地味肥沃なり。北越鐵道平野を縦貫す。此平野に産する米は、産額の多きを全國第一に居り、越後米として世に知らる。土地又桑に適し、近來蠶業著しく進歩す。而して新潟縣の域は又鑛産に富み、越後は處々に石油を産し、内國産の多くは此國より出づ。佐渡の金銀は古來名高し。

沿海の漁利又少からず。此地方は、西北の寒風對馬海流を渡り來るを以て冬期曇天の日多く、新潟の如きは一年中晴天の日却りて少し。随つて冬期降雪多く、高田近傍の如きは人家雪中に埋るゝとあり。されば家屋の構造自から關東地方と異にして、屋根は板葺とし、勾配急ならず、軒端よりは廂を長く出し、以て通行に便にす。

### 舊奥羽地方

福島縣

岩代 磐城七郡

宮城縣

磐城三郡 陸前一郡 陸中二郡 陸奥一郡

岩手縣

陸前一郡 陸中二郡 陸奥一郡

青森縣

陸奥 一郡を欠く

秋田縣

陸中一郡 羽後二郡 陸奥一郡

山形縣

羽後一郡 羽前一郡

概説 中央山脉のために、域内東西に兩分せらる。東側に奥平野あり、阿武隈川に沿へる平地と、北上川流域の低地と相會して仙台灣に開く、仙台灣は北上阿武隈兩山脈の中間海に没する所、牡鹿半島東に出で、灣を抱けり。灣内に日本三景の一なる松島の勝景あり。西側には、最上御物能代岩木の四川に沿ふて四つの平地あり、各、日本海に開く、其中間より男鹿半島出づ、八郎瀉を抱き、寒風山聳々て風景又賞すべし。

彌彦火山脈は、寒風山に起り、飛鳥粟生島彌彦山、米山を経て富士帯に接す。





山梯磐と湖代苗猪

陸奥灣は本州最北の大灣入にして、斗南津輕の二半島に包まれ、更に夏泊崎によりて青森野邊地の二灣に區分せらる。仙台灣と共に前途有望なりとす。斗南半島の東角は尻矢岬といひ、其西角を大間岬といふ、津輕半島の北端は龍飛岬と稱し、親潮の一派對馬海流の一派と此岬近傍にて交流す。

福嶋縣 關所に名高き白河の北に方りて須賀川(一千萬)あ

り、馬と烟草を産す。其北の郡山は交通の要路に當り、繭生絲の著名なる集散地にして、有望の地とす。若松(九千萬)は阿賀川の上流、肥沃なる會津平にあり、戌辰の際白虎隊を出せるを以て世に聞ゆ。岩越鐵道已に郡山より此地に達し、生絲、會津塗蠟、藥用人參を産す。又近傍より會津燒を出す。

猪苗代湖は頗る灌溉運輸の便に富み、湖上に汽船を泛べて往來に便し、郡山近傍の田園は其疏水によりて灌溉せらる。又漁利あり、湖北の盤梯山は先年破裂して數村を埋め、慘害を逞ふせしも、餘勢尙は未だ消すして、湖岸の風色更に拗すべし。

二本松も蠶業地とす。福島(二萬)は阿武隈川の中流にありて、東北線と官設奥羽鐵道の結合點に立ち、東北地方の商業中心たらんとするの勢あり。又蠶業地にして繭生絲の取引盛に行はれ、福島縣廳あり。東南の川俣は、羽二重を産して海外へ



輸出す平と中村とは共に東岸の名邑にして、平近傍には石

炭を産じ、中村よりは相馬焼を出す。

中村の西なる靈山は、南朝の忠臣北

畠顯家が據り

たる所なりと

いふ。

宮城縣 仙臺

島松 (七萬五千) は、伊達氏

の舊城地にして

景て、奥平野の中

央に立ち、鹽竈

港を控へ、縣廳

第二師團司令



松島や

あゝ松島や

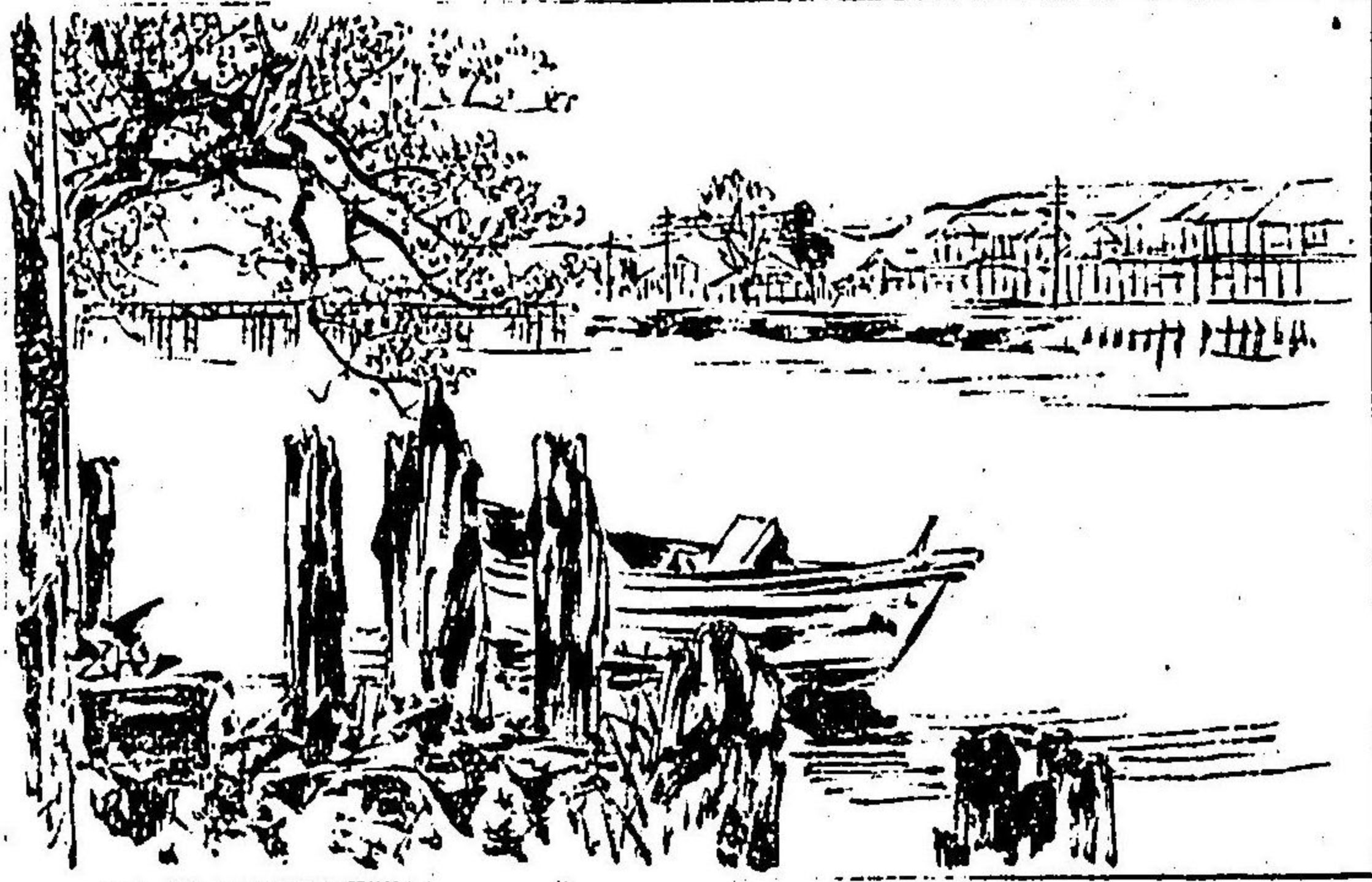


部控訴院第二高等學校、瑞寶殿等ありて繁華奥羽に冠たり。仙臺平埋木細工を名産とす。市の東郊は即ち昔時宮城野と稱せしところ、多賀城の故趾は其東隅にあり。塩竈は、仙臺灣の一部松島灣に臨み、支線によりて東北線に通じ、海産物を集散す。此より舟に上れば、扶桑第一と稱せらるゝ松島の景を探るべし。大小の島嶼數百碁石の如く連り、天工島毎に松を植う。風光極めて佳なり。北上河口の石巻(一萬八千)は、上流地方の物貨を集散し、稍繁華の處とす。近傍より石材を産す。其東に萩濱港あり、小邑なれども石巻鹽竈と連絡を保ち、横濱函館間の航路に當るを以て、定期船の來泊する者斷々す。岩手縣 石巻より漁船にて北上川を溯れば、一関あり、南部の要地を占めて商業稍行はる。近傍故跡甚た多し。平泉館趾、中尊寺衣川柵趾等最も著はる。其北の黒澤尻は、秋田に通ず。



るの要區とす。盛岡(三萬)は一に南部と稱し、縣廳所在の地にして、鉄器・下駄表を産じ、近郊に厨川柵趾あり。岩手山は市の西北に見ゆ。岩手山は岩代の磐梯山、陸奥の恐山と共に那須火山脈に屬して、那須岳に通ず。東海岸の釜石は鉄鑛を以て著はれ、宮古・大舟渡は錨地とす。何れも近年大海嘯のため衰へたり。

青森縣 馬淵川の河口に枕みて八戸(二萬)あり、縣下東部の要區を占め、鐵道を以て湊と通じ、海産物を取引す。其北、斗南半島に大港あり、一要港とす。青森(八千)は青森灣頭にあり、北海道に入るの要津にして、函館との交通繁く、縣廳及び第八師團の分營あり、東北線此に終る。弘前(三萬)はもと津輕と稱す、肥沃なる岩木川の平地に臨み、第八師團司令部あり、津輕塗及び林檎を産す。市の西北に岩木山あり、一に津輕富士

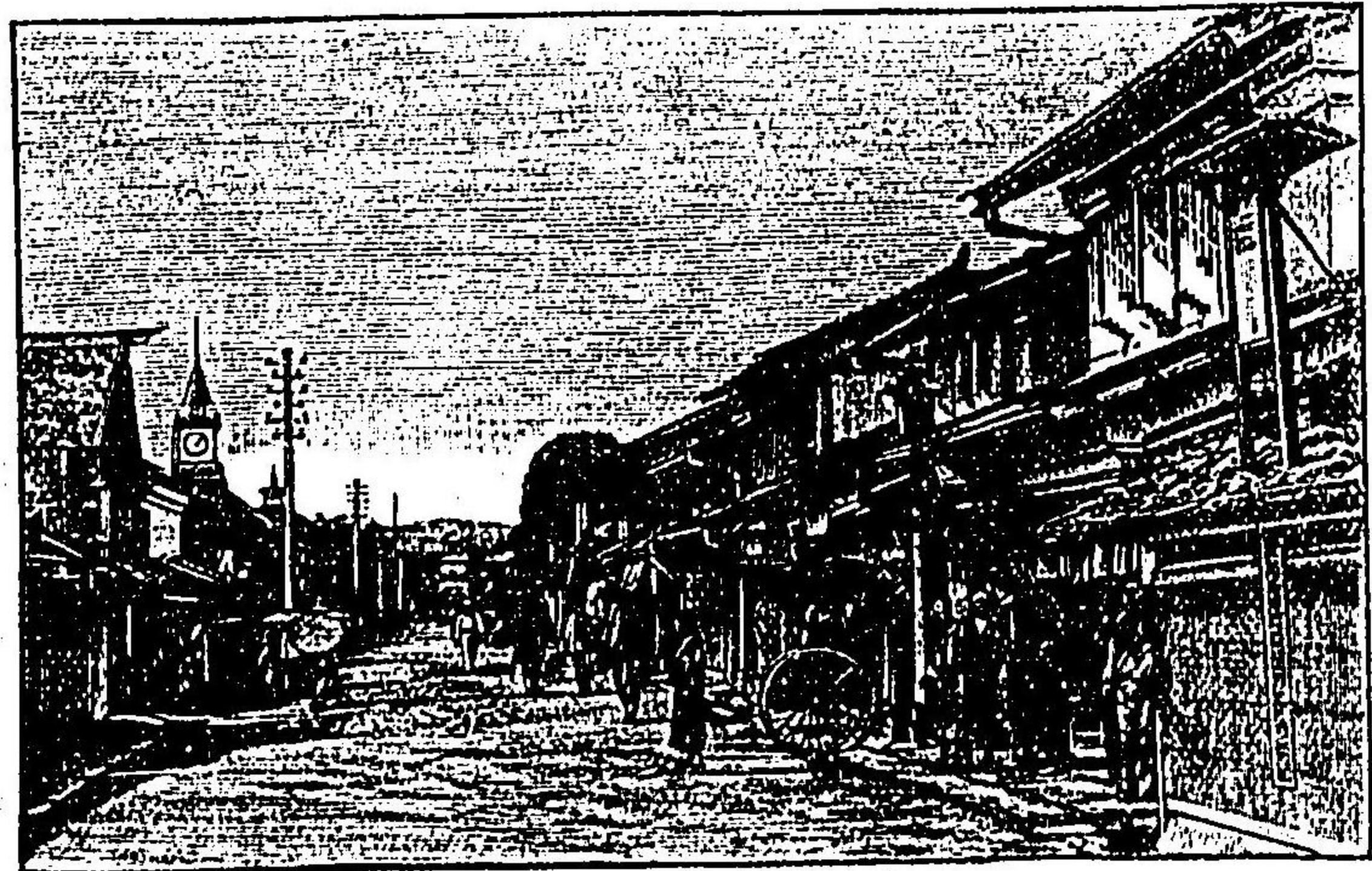


青森埠頭

の稱あり。官設奥羽鐵道青森より來り、此を過ぎて秋田縣に入る。

秋田縣 秋田(二萬七千)は古より史に著はれ、御物川平野土崎港とを控へ、縣廳及び第十六旅團司令部ありて、秋田畝織・八丈縞・秋田露の名産あり。土崎(三萬)は地方産物を輸出す、能代河口の能代(四萬)も縣下の要港にして、春慶塗を産す。男鹿半島の舩川は、北西風を避け得べきを以て知らる。秋田





山形市

より御物川を上れば横手(二萬)あり、岩手縣に通ずるの名邑とす。其南に院内の金銀山あり。秋田富士の名ある鳥海山西方に聳ゆ。

陸奥の岩木山、羽前の月山と共に鳥海火山脈に屬し、上野の白根山に通ず。夏時最上參詣と稱して行者の登山する者多し、月山も亦然り。

山形縣 國の中央平地に臨みて山形(三萬)と稱す。あり、米・生糸の集散地として立ち、縣廳及び第八師團の分營あり。此邊海

外へ輸出する薄荷を産す。北方の新庄(二萬)は綾織に名あり。米澤(三萬)は最上川の上流を占め、米澤織に名高く、又生糸を産す。奥羽鐵道福島より已に此地に開通す。此より最上川の急流を下れば、河口に酒田(二萬)あり、商業行はれ、米の集散多し。其南の鶴岡(二萬)は庄内として知られ、繪蠟燭を出し、市況稍賑へり。

統括 奥平野を除けば各平地の地域狭小なれども、皆能く米に適し、仙臺米・秋田米・山形米・夙に著はる。蠶業も漸次發達し、福島縣の如きは最も盛に行はれ、全國中屈指の一に居る。宮城岩手の二縣も稍盛に、秋田・山形亦行はる。而して、牧馬の盛なると鑛産の多きとは、本域の特色なり。牧馬は主として域内の東側に行はれ、殊に南部馬を聲價高くとす。

陸奥の東部及陸前の北西部には軍馬育成所の設あり、陸中、陸奥の東部は



即ち南部馬の産地にして常に山野に放飼するを以て、體軀強健、軍陣に臨みて恐懼せず、忍耐他に優れり。

鑛産には、秋田の銀〔小坂院内〕銅〔尾去澤阿仁〕青森の硫黄〔恐山〕岩手の鐵、宮城の鉛、銀〔細倉〕、福島〔細倉〕の銀、石炭等あり。

青森、秋田兩縣地方は、頗る山林に富み、陸奥山林、秋田山林、秋田杉の名世に高し。

沿岸又漁利多く、中にも三陸の沿岸を然りとす。

域内交通の不便なるは、唯一の恨事とする所なりしが、今や、日本鐵道の東北線、常磐線は、己に東側の地と關東平野とを連絡し終りたれば、奥羽鐵道、岩越鐵道の二線にして完成するに至らば、域内運輸交通の便を得て、東北地方一層重要視せらるゝに至るべし。

### 本州中部地方

- 静岡縣 伊豆(七島を除く) 駿河、遠江 愛知縣 三河、尾張 三重縣 伊勢、伊賀、紀伊、二郡
- 岐阜縣 美濃、飛驒 福井縣 若狹、越前 石川縣 加賀、能登
- 富山縣 越中

概説 本域も亦、美濃、飛驒高原によりて地域南北に分る。南には、木曾川流域に濃尾平野あり、東北より西南に低下し、伊勢、三河の低地と連絡して伊勢海に開けり。天龍川の下流にも稍平地あり。北には、越中、加賀、越前の三平野あり、神通川、射水川、手取川、九頭龍川等に灌漑せらる。

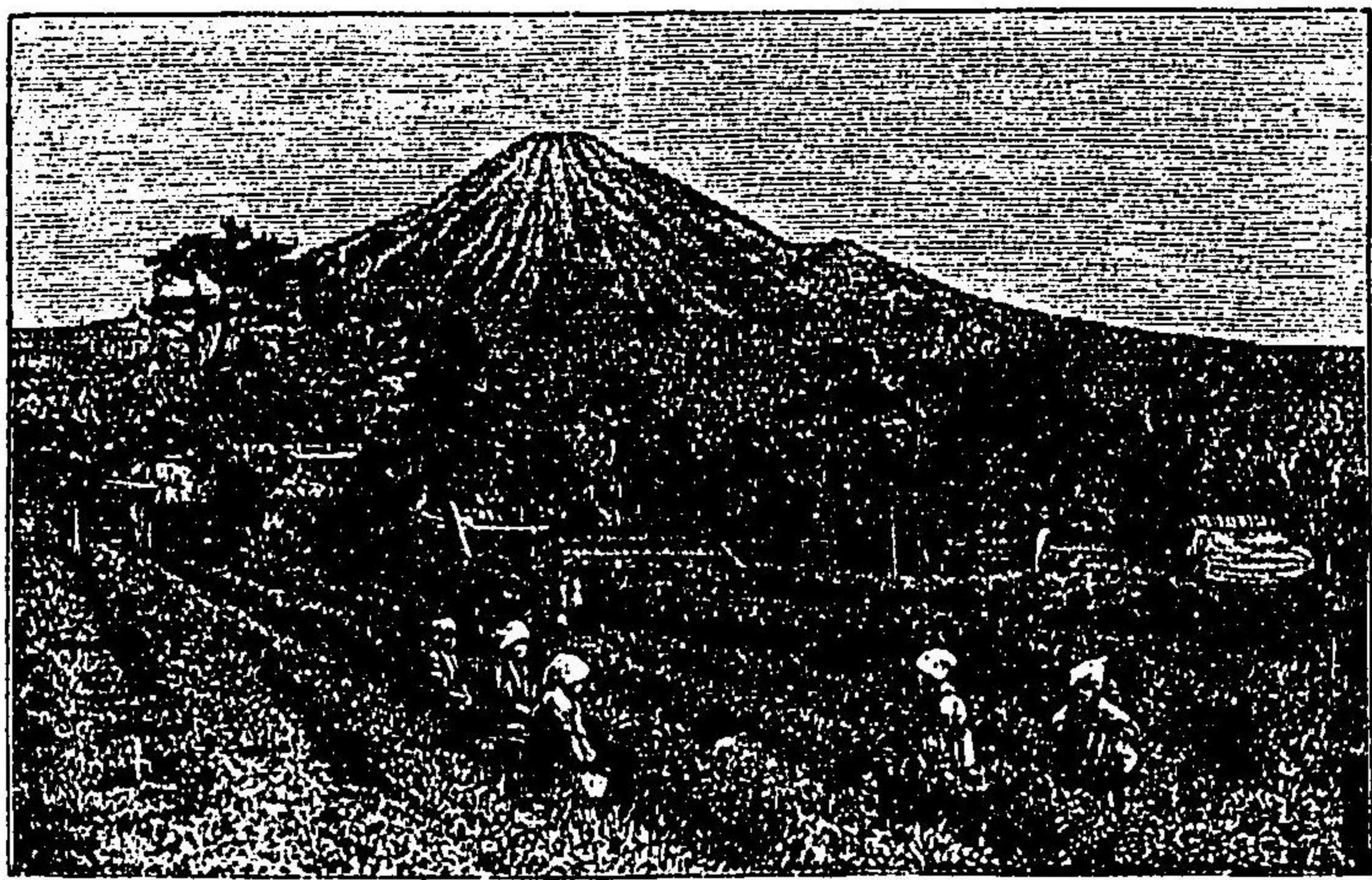
飛驒は土地最も高峻にして神通、射水、飛驒の三川此に發源す、其餘勢は延びて飛驒山脉、寶達山脉となり、中に越中の平野を開き、其西に加賀、越前の平野あり。濃尾平野は、西方鈴鹿山脉に限られ、東方は、赤石山脉ありて駿遠



地方と界せり。

沿岸は屈曲に富む。東に伊豆半島あり、南端を伊廊岬と稱し、御前崎と駿河灣を抱く。灣内風色に富めり。御前崎より西、志摩半島の大王崎に至る間は、遠州灘と稱して波浪常に高し。志摩半島は紀伊山脉の盡くる所、渥美半島の伊良湖岬は、其再び起りて、赤石山脉となる所なり。此二半島は、相對して伊勢海を包み、濃尾平野の門戸を守る。内海漁利多し。本域の日本海岸も、割合に出入多く、西部には若狹灣あり、東部には能登半島出で、富山灣を抱き、半島の中部には、七尾灣あり。

本城は、甲信の地を中心として、關東八州越後地方と地相相似たり、即ち濃尾平野は關東平野に當り、志摩渥美の二半島は房總三浦の兩半島に當り、伊勢海駿河灣は、東京灣相模灘に、越中加賀越前の平地は越後平野に、能登半島は佐渡に當る。其他赤石山脉は關東山脉に比すべく、鈴鹿山脉阿武隈



富士山

脈に比すべし。諸子試みに地圖を開きて、兩域の地相を比較し見よ。

静岡縣 駿河灣の盡くる所に沼津(一萬二千)あり、北には、海内一の名山なる富士山と愛鷹山とを負ひ、西南は駿河灣一帯を遠望すべく、風色雄大にして、空氣清良穩和、眞に靜養に適するの地なり。

富士山は、高一萬二千四百尺、近傍十三州より望むべく、四時概ね雪を戴き、雲を帯にし、山容甚だ麗しく、且つ氣高し。琵琶湖と共に本



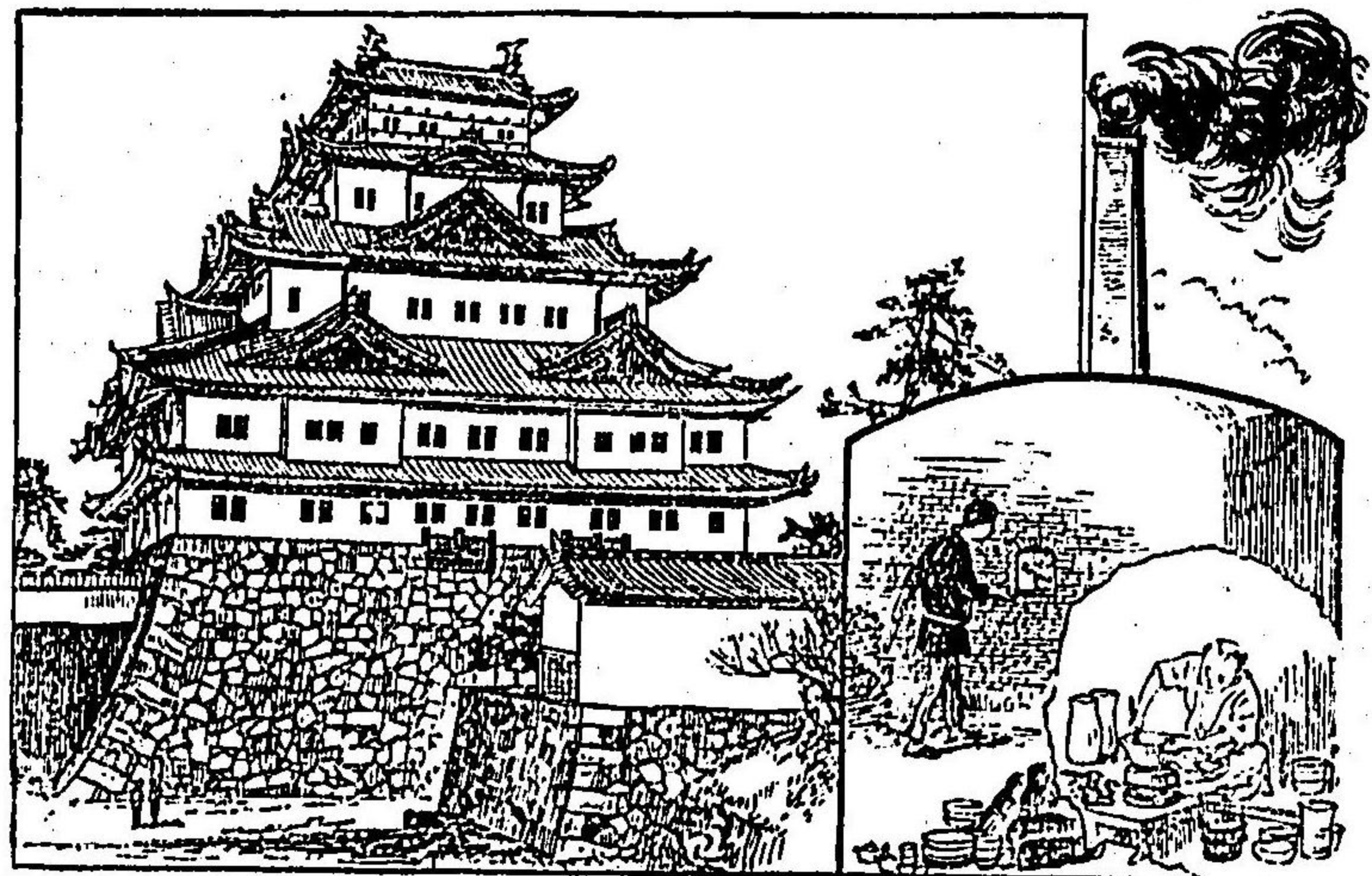
邦の双美と稱せらる。富士山は所謂休火山に屬する者にして、延暦廿一年には俄然噴火して足柄の山路を塞ぎ、寶永年間には今の寶永山を噴出した。愛鷹山も休火山なりとす。

其東の三島は三島神社を以て著はれ、互相鐵道線路に當り。鐘山修善寺は史上に名高く、修善寺には又溫泉あり。東岸の熱海は日本三湯の一に數へられ、間歇溫泉あり、三原山(大島)の噴烟盛なると同時に、熱湯轟然として湧き出づ。下田は黒船の渡來に知らる。北に天城山あり、山中良材を出す。沼津より西、田子浦を過ぐれば、平家の軍勢が鳥の羽音に笑を遺したる富士川を渡る。其西に清見瀉あり、三保、松原長く海中に突出す。中に清水港あり、開港場の一とす。近傍に久能山あり、靜岡(三萬九千)は其西にありて、茶紙を集散し、又漆器竹細工を産す。此地はもと駿府と稱して、徳川家康の老を養へる所なるが、今は此地

に縣廳を置く。有名なる賤機山は市の北郊にあり。此より西に向ひて、昔時蓮臺渡に名を得たる大井川を渡り、天龍川の平地を通ずれば、濱松(二萬)に出づ。縣下西部の要區にして、茶の取引盛に行はる。西方に濱名湖あり、湖畔の風景賞すべし。愛知縣 濱名湖の西、豊川に沿ふて豊橋(二萬)あり。第十七師團司令部ありて、煙草の製造盛なり。豊川鐵道は此より上流地方に通ず。岡崎(七千)は、豊橋の西、矢作川の畔にありて、徳川氏創業の地を以て知らる。東海道鐵道は、沼津より諸名邑を連ねて來り、岡崎の西に於て一支線を出し、知多半島の半田武豊に達せしめ、桶狭間の近傍を過ぎて名古屋に入る。半田武豊は共に清酒を産し、半田は殊に酢に名を得、又麥酒を製造し、米穀肥料の取引盛なり。近傍に常滑焼を産す。名古屋は地味豊饒なる濃尾平野の要區を占め、東西兩京の間に立ちて、



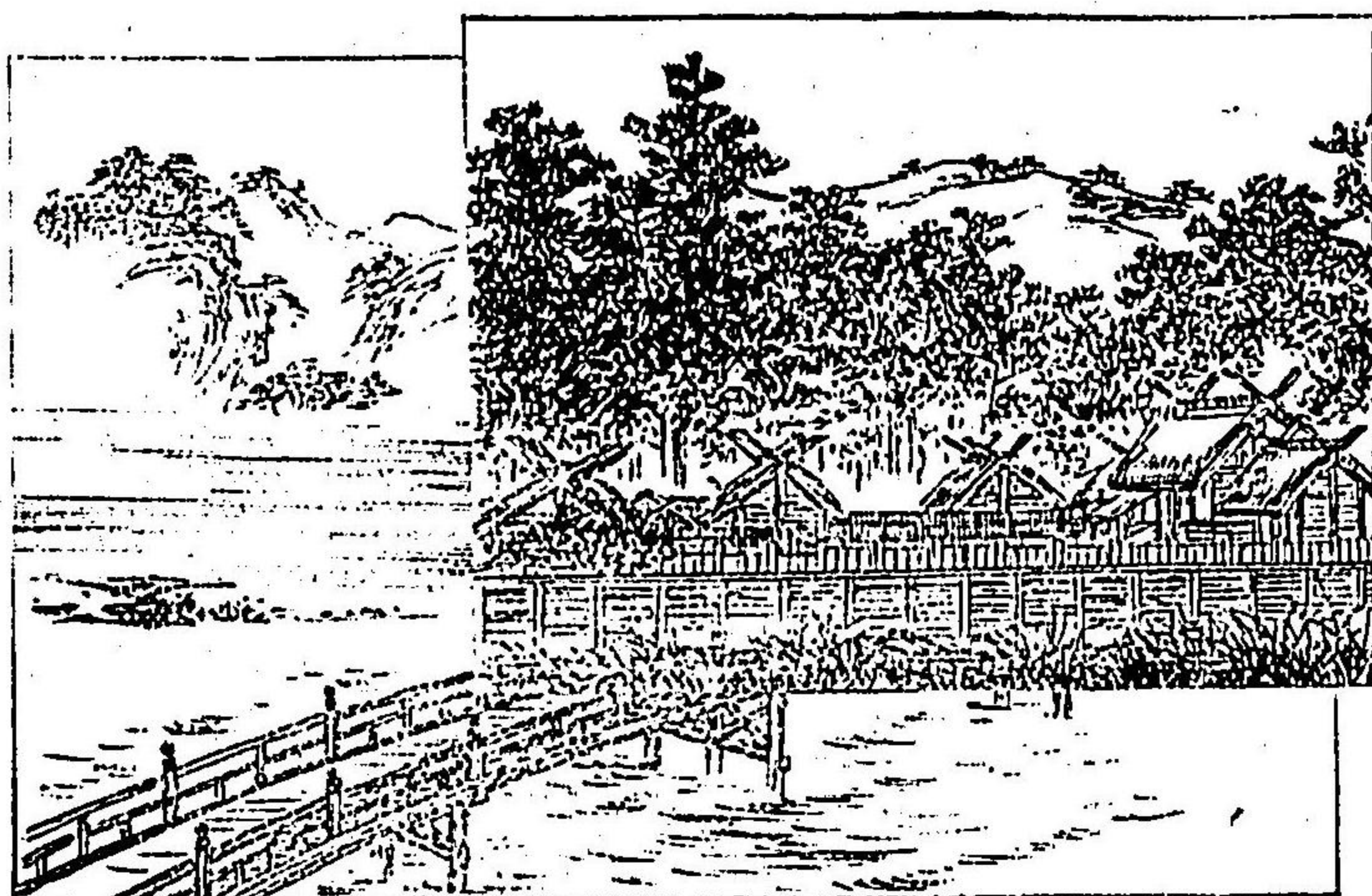
人口二十四萬、主要の街路には電気鐵道（手八分）を通じ、市街の繁盛三府に次ぐ。愛知縣廳控訴院第三師團司令部等あり。本市は商工業の發達著しく、織物・陶器の繪付・七寶燒・漆器時計・樂器・扇等の製作盛に行はれ、近傍より、又紡績絲・セメン・ト・麥藁眞田・マツナ等を製出するを以て、取引も自から活潑なり。されは新に開通せる長距離電話も此地を中心として東京・横濱・神戸・大阪・堺・京



名古屋城

都・大津・名古屋の八市を連ね、別に名古屋・桑名・四日市間の線をも開通せり。此地は元徳川氏の舊城地にして、名城の聞高き名古屋城は、市の北部にあり。城内には第三師團司令部を置き、天主閣をは離宮と定めらる。關西鐵道は此地に分れて大阪に向へり。名古屋の東に方りて瀬戸あり、犬山と共に陶器を以て知らる。近傍に長湫の古戰場あり、小牧山と共に有名とす。一宮（四千一萬）津島は共に西部の商區にして織物を産す。三重縣 木曾川の河口に臨みて桑名（二萬）あり、米・肥料の市場とす。其南に四日市（二千五萬）あり、開港場の一にして、熱田と海上の交通繁く、又此地と横濱との間に定期船の來往ありて、米・肥料・茶・木綿等の取引活潑なり。又紡績業も行はれ、近傍に萬古燒を産す。關西鐵道は、此より能褒野を過ぎ、龜山より一支線を出し、津にて參宮鐵道に連絡す。東海道も、龜山より鈴鹿

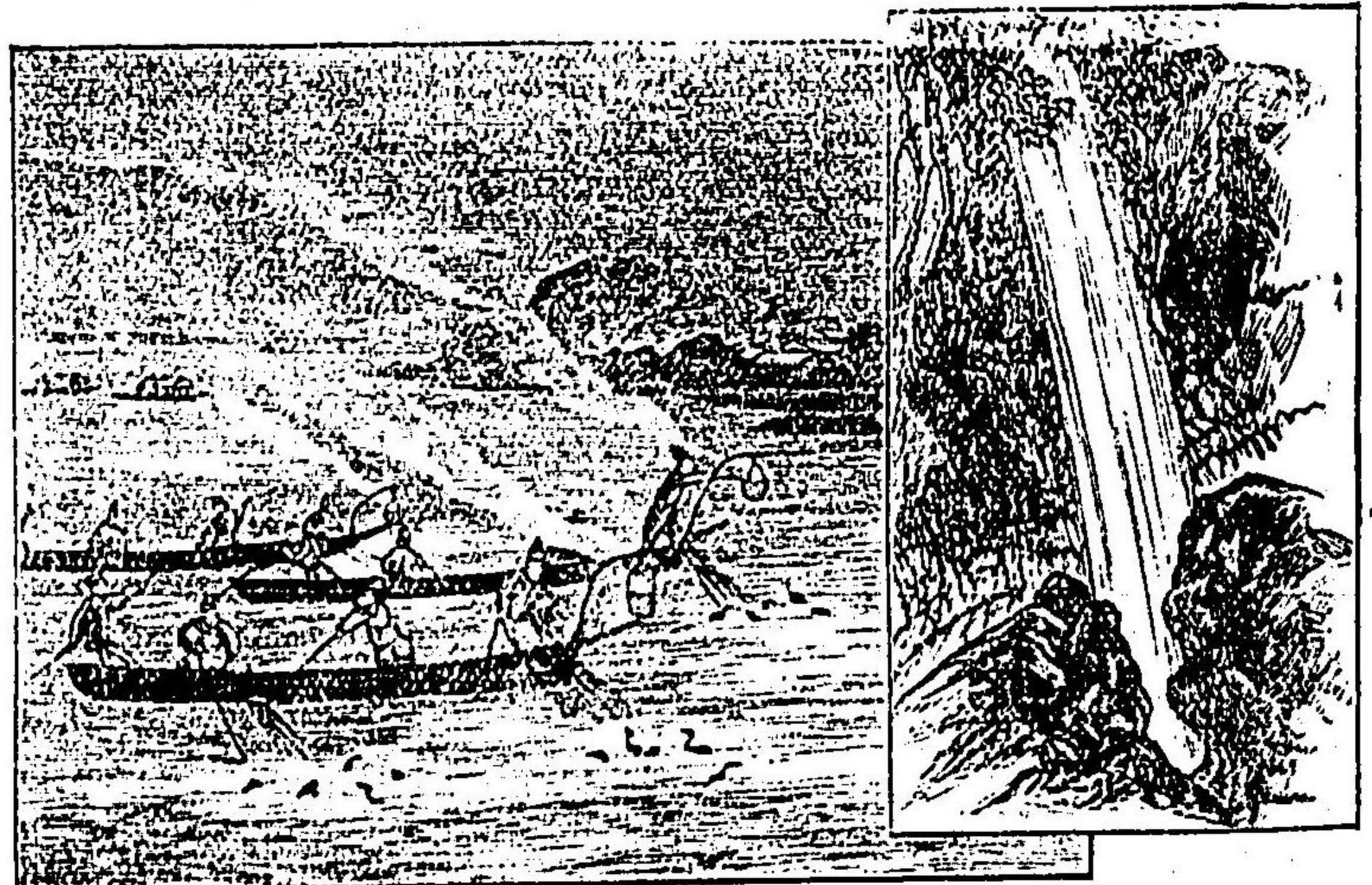




伊勢大勢廟

關に聞えたる鈴鹿峠を越えて、  
 近江に入る津(三萬二千)は阿濃津  
 とも稱し、三重縣廳ありて、緋  
 子織ヒコオリ阿漕焼を産す。其南の松  
 坂(一萬三千)は、木綿縞の産出を以て  
 聞え、富豪多し。宇治山田(八千)は  
 宮川に枕み、太廟鎮坐の地と  
 て、世に神都と稱せられ、參宮  
 者のために常に雜沓す。其神  
 殿は我が國特有の建築法に  
 則り、一切白木を用ひて造營  
 せらる。境内廣く、老杉森々と  
 して、いとゞ神々し。宇治山田

の東に鳥羽港あり。二見浦は、  
 鳥羽街道の海岸にある勝區  
 なり。龜山より西伊賀に入れ  
 は、拓植に至る。關西鐵道此に  
 又一支線を近江に出せり。其  
 西に上野(一萬五千)あり、此地方の名  
 邑にして、伊賀焼を名産とす。  
 岐阜縣 鶉飼に名高き長良  
 川の畔に、岐阜(三萬)あり、濃尾平  
 野の北部に立ち、縣廳所在の  
 地にして、縮緬提燈團扇傘を  
 名産とす。大震災以來、舊時の  
 如く繁盛ならず。此地に織田

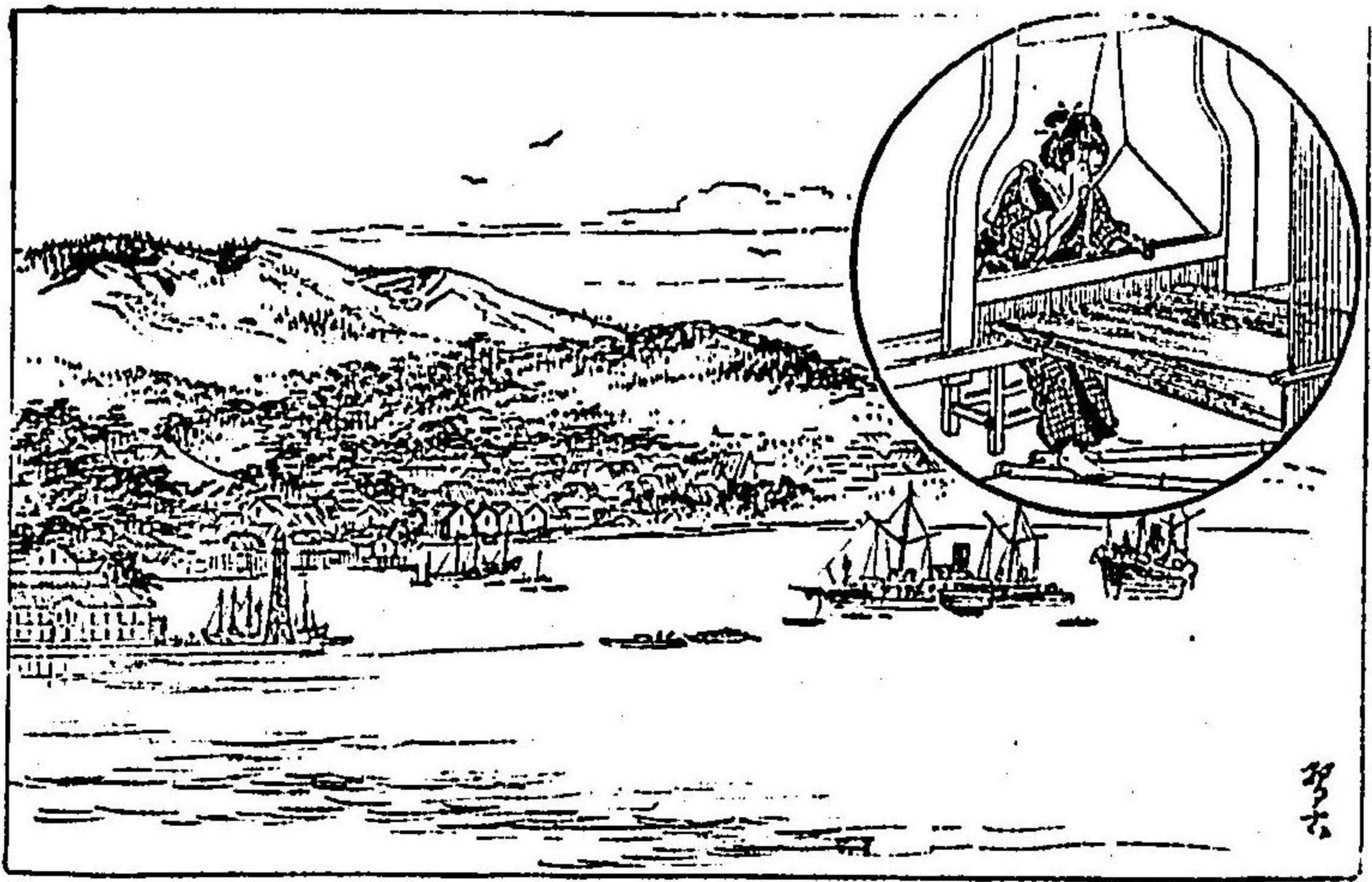


長良川の鶉飼 養老瀧



信長の故城趾あり、東海道鐵道名古屋より此に來り、中山道に沿ふて近江に入る、岐阜の西に**大垣**(一萬九千)あり、其西南山中の養老瀧は、孝子の譽と共に世に名あり、大垣より伊吹山の東を過ぐれば、不破關趾あり、伊勢の鈴鹿關、近江の**愛發關**と共に、三關と稱して史上に著はれたる所とす、此邊に、關原の故戰場あり。

**福井縣** 近江より、東海道鐵道の敦賀線に沿ふて進めば敦賀(一萬八千)あり、開港場の一にして、大坂・函館の間に立ち、商業盛に行はれ、米穀・肥料・海産物商の大なる者多し、此地に第十八旅團司令部あり、金崎城趾は近傍にありて、坐ろに南北朝の古を忍ばしむ、敦賀の西方、小濱灣に臨みて小濱あり、近傍より若狹塗を産す、又敦賀より、官設の北陸線を進めば**武生**(一萬六千)あり、鎌帳蚊の産を以て知らる、北方、越前平野の中央に**福井**(四萬)あり、



敦賀港

古は北莊として、鬼柴田の城居せし所なりき、縣廳あり、羽二重奉書紬を名産とす、近傍に藤島神社あり、此より九頭龍川を下れば**三国港**(一萬)あり、**石川縣** 加賀平野の南部に、**大聖寺小松**(三萬)の二名邑あり、大聖寺は羽二重生絹に名高く、又九谷焼の産あり、小松は九谷焼の繪付業者多く、縣下九谷焼の中心とす、又羽二重奉書紬・蘭蓆茶の産あり、有名なる安宅關は小松の近傍

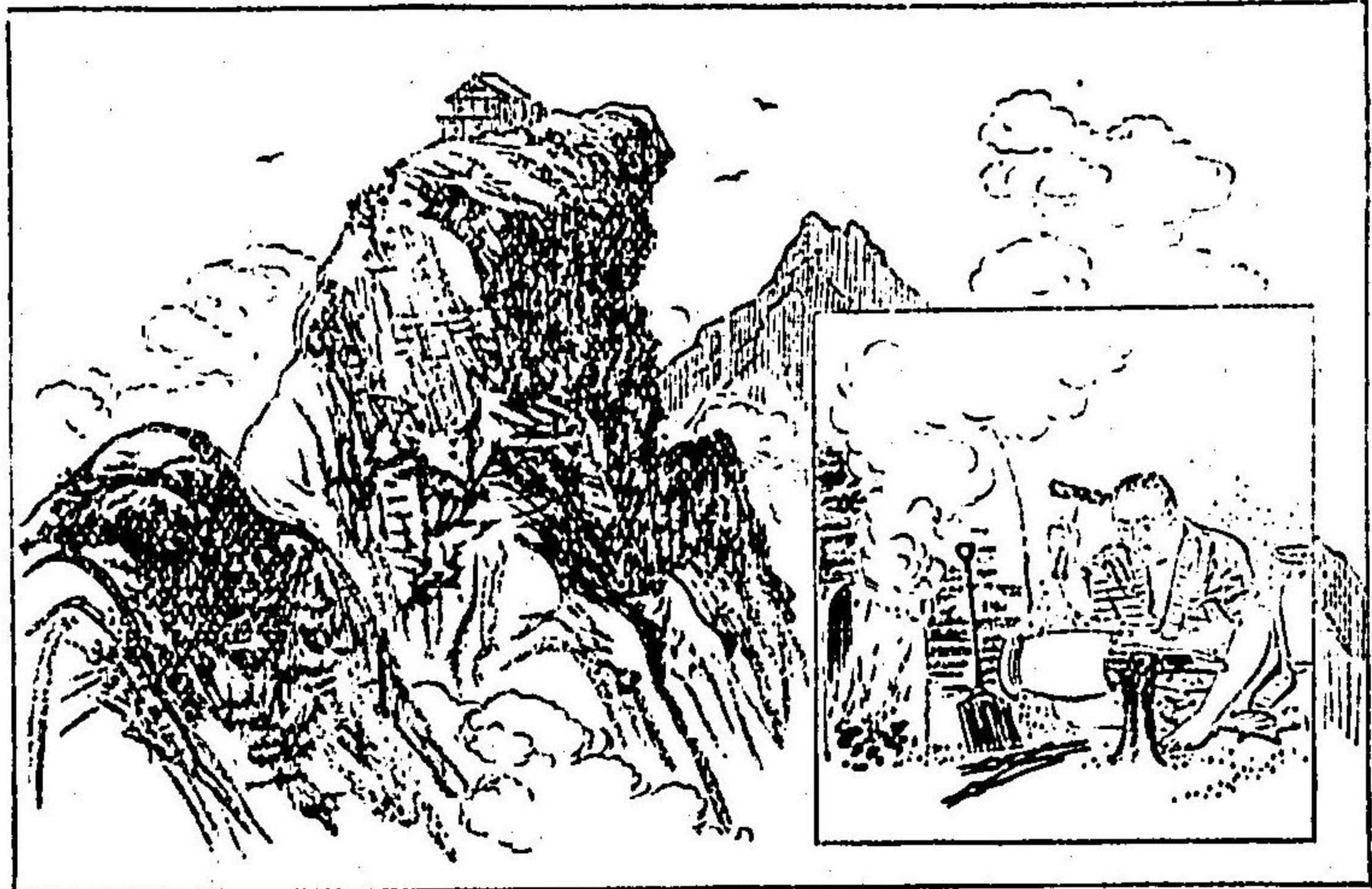


海中にありといふ。金澤(八萬)は平野の北部にあり、前田氏の舊城地たりし所、縣廳第九師團司令部、第四高等學校ありて北陸第一の都會たり。生絲、羽二重、木綿織物を産し、又九谷燒の繪付、蒔繪、塗銅器を出す。市の兼六公園は、本邦三公園の一と稱す。北に金石の小港あり、金澤との交通繁し。北陸線は、金澤を過ぎ、津幡に於て七尾鐵道に連絡し、源義仲が、火牛の謀に平軍を鑿にしたる俱利伽羅峠を越えて、富山縣の城に入る。七尾(二萬)は七尾灣に臨み、開港場の一とす。近傍に和倉溫泉あり、北國の熱海と稱せらる。

能登火山脈は佐渡に起り、能登を経て、隱岐、壹岐に亘る。白山火山脈の主山白山は縣下の南隅にあり。

富山縣 高岡(三萬)は、越中の南部射水川の河畔にあり、開港

場伏木港を控へ、銅器、鐵器、漆器の製作に従事し、米穀肥料の取引盛なり。北陸線は、此より富山に向ひ、中越鐵道は、城端に通す。城端地方は、機業の盛なる處とす。富山(五萬)は、神通川に沿ひ、河口の東岩瀬港を門戶として、商業行はれ、富山縣廳あり。古來藥商を以て聞ゆ。富山の東北に魚津(四萬)あり、漁業地にして、春夏の候海岸に蜃氣樓の現はるゝてあり。名高き立山は、此より南



銅器製作圖 越中 立山



方に見ゆ。加賀の白山と共に行者の登山するもの多し。

統括 各平野を通じて、地味肥沃、生業大に開けたり。米の産出は一般に多く、尾張米・越中米は其多産を以て知られ、伊勢米は品質の良好なるを以て名あり。之に次ぐべきは、岐阜・石川の二縣にして、産出多き地方に屬せり。尾張の地はまた麥作に名あり。茶は主に南側に産し、静岡縣は海内第一と稱せられ、三重・岐阜の二縣にも多し。蠶業は岐阜・愛知に盛に行はる。機織の業もよく發達し、北側は絹織物を多く出す、殊に福井は遙かに他を凌げり。南側にては岐阜に絹織物多く産し、愛知・三重は木綿織の産出大なり。

藍は南側諸川の沿岸に産し、尾張は阿波に次ぎて多産す。綿は愛知・三重に産し、麻は加賀・越前に出づ。

本域の特色とする所は陶磁器の多額に産するとなり。愛知

は全國一に居り、岐阜も之に次ぎて第二位にあり、石川は遙かに下れり。製紙も盛にして、美濃・駿河の紙大に著はる。

岐阜縣の多治見地方は、大に陶器を出し、産額却りて瀬戸を凌げども、品質稍劣れり。飛騨川沿岸地方は製紙業盛にして、紙質細密なるを以て著はる。福井縣の域にも製紙稍行はる。富山の銅細工、若狹、能登の漆器又名あり。

瀕海の地は漁業に従事し、飛騨・伊賀・伊豆には林業行はる。

鐵産は多からず、三河の御影石、名倉砥、美濃の大理石、飛騨の銀、遠江の石油、石炭等は、本域産の主なる者とす。

本域の氣候も略關東八州、甲信越地方に似て、北國、飛騨は雪多く、東側は概して和順なり。但濃尾平野は夏期の温度甚だしく上昇することあり。



### 近畿地方

滋賀縣 近江

京都府

山城、丹波、丹後五郡

大阪府

河内、和泉、攝津四郡

奈良縣 大和

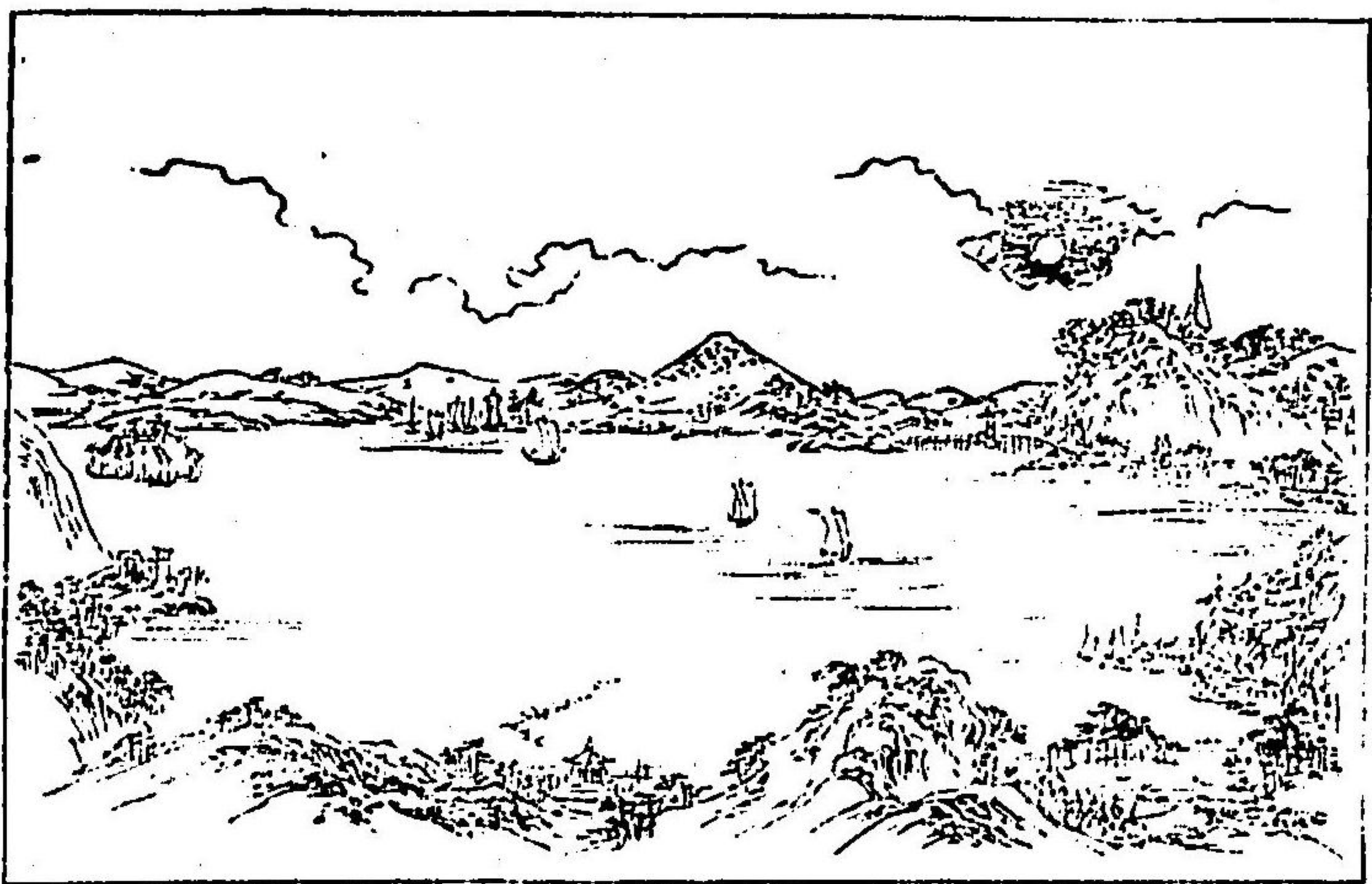
和歌山縣 紀伊七郡

兵庫縣

三河

**概説** 中國山脉紀伊山脉域内の三面を繞り、西一面大坂灣に開く。中に畿内平野あり、淀川大和川の流域に擴がる。琵琶湖東岸由良川紀川の沿岸にも平地あり。

大坂灣は本域の大門口にして、西は明石海峡によりて瀬戸内海に通じ、南は紀淡海峡によりて太平洋に通ず。紀淡海峡以南も小屈曲に富み、其南方海に斗出する處を潮岬と云ふ。此邊潮勢悪しく航行危険とす。潮岬以東の海上は即ち熊野浦なり。日本海岸には與謝半島出でて與謝海(若狹灣の一部)を抱き、其深く陸地に入る所に良港あり。



近江八景

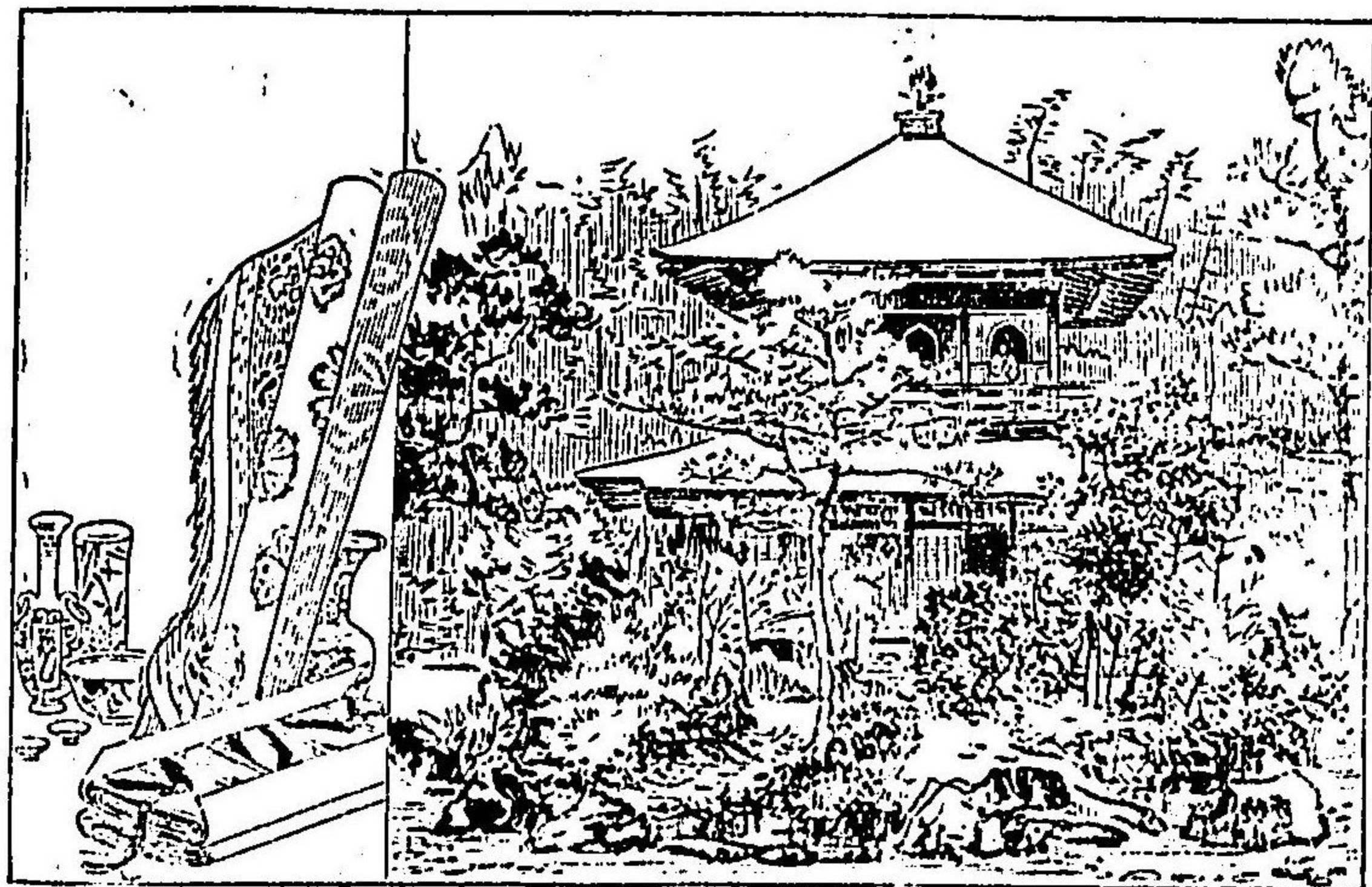
**滋賀縣** 東海道鐵道の敦賀線に沿ふて、琵琶湖の東岸に長濱あり、生絲濱縮緬を産し。豪商の多き所なり。有名なる故戰場賤岳、姉川等其北方にあり。

琵琶湖は鴉海とも稱し、霞ヶ浦と同じく太古の海底たりし所なり。比良、比叡等の諸山湖畔に饗へ、湖水清冽湖中數島の浮ぶありて、風色一大畫圖の如し。支那洞庭湖の八景に擬ひて、湖岸に近江八景の稱あり。源五郎鮒を此湖の名産とす。



長濱の南に彦根(一萬七千)あり、井伊氏の舊城地とす。東海道鐵道は米原にて敦賀線と分れ、此に來りて近江鐵道と會す。八幡は蚊帳を産じ、日野と共に行商(近江商人)を以て世に知らる。野洲晒布に名ある野洲川を渡れば草津あり、關西鐵道の一支線伊賀より來りて東海道鐵道に會す。大津(三萬)は湖口近き所にあり、琵琶湖に臨み、湖上交通の衝に當りて、米・種油の取引盛なり、縣廳及び第四師團の分營を此に置く。近傍故蹟多く、大津宮趾は天智天皇の宮居と給ひし所、逢坂山は關所に名を知られ、三井(園城寺)延暦の二寺は其名史上に高し。

京都府 大津より逢坂山を越ゆれば京都に至る、容優しき東山と北山とは屏風の如くに亘り、比叡鞍馬愛宕の諸山其背に聳え、加茂川・清瀧川等其間に流れて、京都は所謂山青く水白き邊に立てり。市内を分ちて上京・下京の二區とす。街路



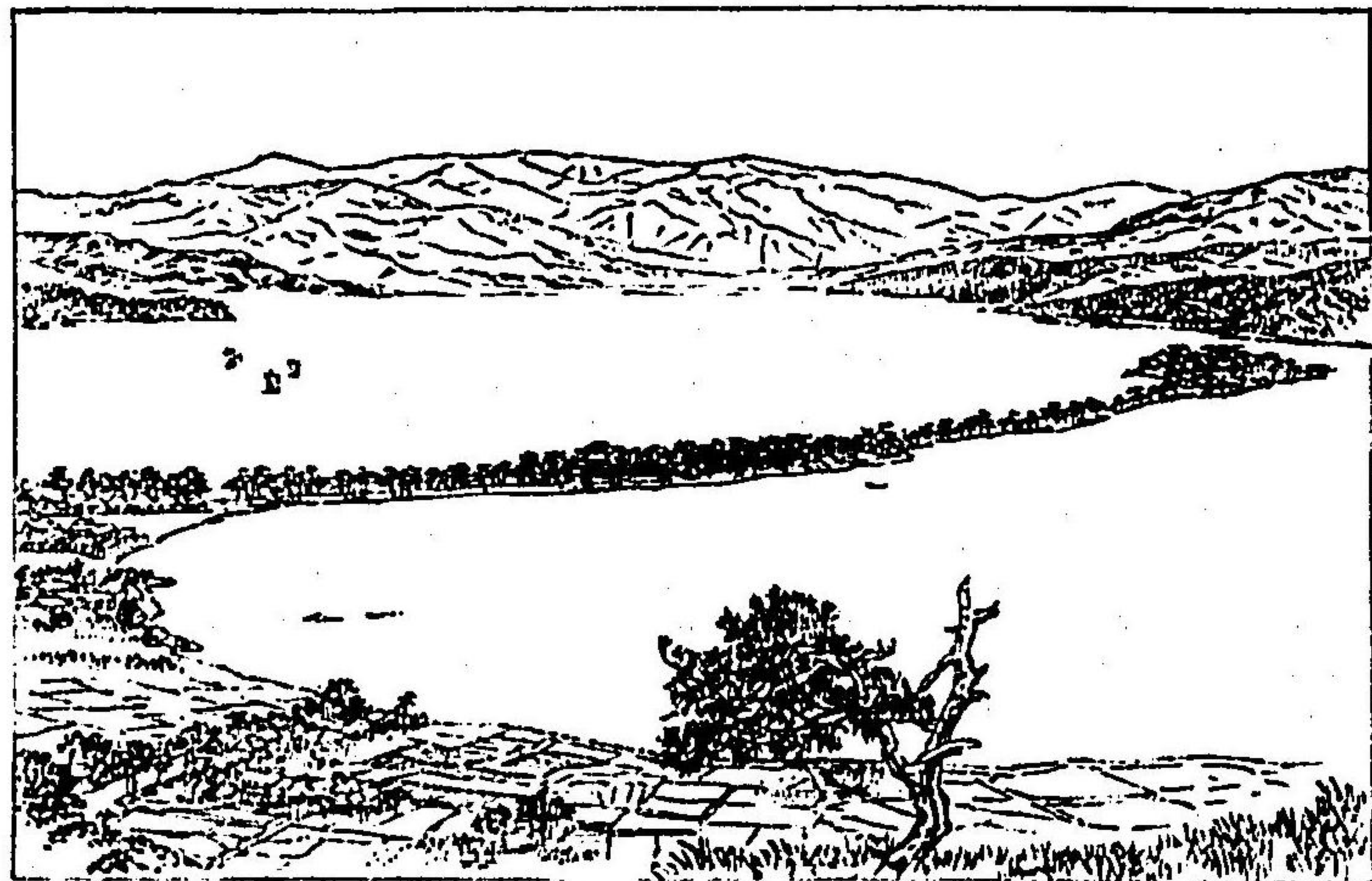
寺閣金

端正人口三十五萬、實に帝國第三の大都會たり。舊皇居は市の北部に位し、二條離宮は市の西部にあり。京都府廳、京都帝國大學、第三高等學校、博物館等も此にあり。此地は、桓武天皇奠都以來、千有餘年間の帝京たりし處とて、神社佛閣名所故蹟の遊覽すべき者甚た多し。神社佛閣には、上加茂社、下加茂社、八阪神社、北野天神、建勳神社、豐國神社、泉涌寺、東西本願寺、南禪寺、清水寺



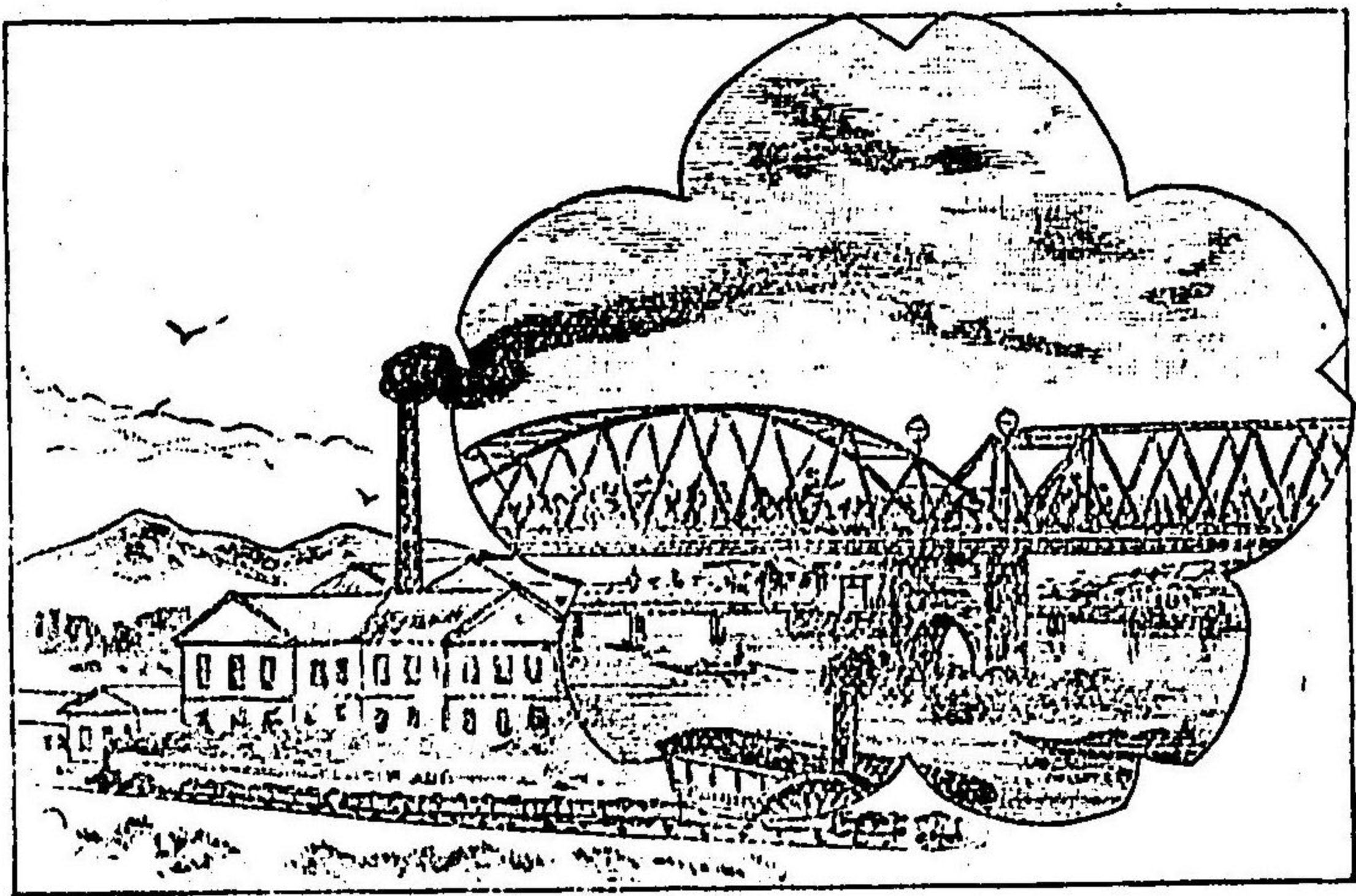
知恩院・東寺・大徳寺等の外、平安神社は、奠都千百年祭の際に創建せられ、金閣寺・銀閣寺は、足利氏華奢の紀念物として有名なり。高尾・嵯峨・嵐山等は近郊の名所とす。又本市は、美術・工藝の中心と稱せられ、精巧にして雅趣ある製作品甚だ多し。西陣織・友禪染・刺繡・清水焼・粟田焼等は中にも著はる。近年湖水を疏通して、一方には運輸交通の便を増し、他方には動力を工業に使用せり。市中要路には電氣鐵道の設けあり。東海道鐵道は此より大坂に向ひ、奈良鐵道は伏見・宇治を経て奈良に向ひ、京都鐵道は山陰道に沿ふて丹波に入る。伏見人形に名高き伏見<sup>(二)</sup>は、桃山城のありし處、京都・大阪間の要區に當りて、第十九旅團司令部あり。宇治は、平等院のある處、夙に製茶を以て著はる。男山神社・天王山は、共に宇治の西方にあり。

京都の西、桂川の畔に龜岡あり。其西北の福知山には第廿旅團の司令部あり。福知山は地方物貨の集散地にして京都鐵道・坂鶴鐵道と此に會せんとす。由良河口の東に舞鶴あり、港内安全にして水深く、第四海軍々港の豫定地たり。其西北に宮津あり、宮津灣に臨み、開港場の一にして稍繁華の地とす。灣内に本邦三景の一なる天橋立あり。又近傍より丹後縮緬を産す。有名な



天橋立





大坂天神橋

る大江山は宮津の西南にあり。  
**大坂府** 淀川の河口大阪灣に臨みて大坂あり。開港場の一に居り、東海道鐵道によりて神戸に通じ、人口八十一萬、實に帝國第二の大都會にして、大阪府廳、造幣局、控訴院等あり。本市は、畿内平野の關門に當り、中國、四國、九州地方の衝に立てるを以て、物貨の輻輳夥しく、商業の盛なるを海内第一と稱し、安治河口帆檣

常に林立す。本市は又、溝渠四通して水運の利あるにより、工業盛大に行はれ、綿糸の紡績甚だ盛に、マツナ、硝子、其他製造品の種類も多大なり。此地は、元難波と稱せし地にして、高津宮趾、高津宮、四天王寺、天滿天神、櫻宮、住吉神社の名所舊蹟あり。大坂城は豊臣秀吉の築ける者、今は中部都督部第四師團司令部に充てらる。鐵道の本市より出づる者五條あり。關西鐵道は四條驛を過ぎ笠置山麓を通じて中部地方に入り、又大和川の畔より大和に入り、高野鐵道は高野山に向ひ、南海鐵道は堺を経て和歌山に通じ、坂鶴鐵道は池田を過ぎて福知山に向へり。  
**池田**は清酒の醸造に名を得、薪炭の集散頗る多し。**堺**(五)は、往時盛大なる互市場たりし地にして、鐵器、段通を産し、有名な妙國寺あり、近傍よりは行基焼を出す。



奈良縣 奈良鐵道關西鐵道支線と相會する所に奈良(三)あり、奈良縣廳博物館等ありて、奈良晒布・蚊帳・筆・墨・漆器を産す此地は、奈良朝時代の舊都なれば、縣下舊跡頗る多く、大和巡



佛大良奈

とて、此地を訪ふ者四時絶ゆることなし。春日社・東大寺・興福寺・法隆寺等は市の内外にある著名の者なり。奈良より

東方に向へば、名張川の兩岸に月瀬の梅林あり、南方に向へば、橿原宮跡・畝傍山御陵・談山神社等あり。此邊より金剛山を

西に望みて、五所緋の産地五所を過ぐれば、五條に出づ。奈良西南の郡山(一萬四千)と共に木綿を産す。此より吉野川(紀川)の岸を上れば、吉野山に到る。南朝皇居のありし地にして、櫻花に名高く、一目千本。奥千本等の稱あり。後醍醐帝の山陵・如高輪堂跡等此間に在り。和歌山縣 和歌山(六萬三千)は、徳川氏の舊城地なり。商業盛に行はれ、綿・フランネル・紋羽雲齊織を製出し、又大和路及び

浦歌和





紀伊北部より出づる木材を大阪へ送る、南海鐵道此より大阪に向ひ、紀和鐵道大和に向へり。東方高野山の金剛峯寺は、弘法大師の創建に係り、衆庶の歸依厚く、市の近傍には和歌浦の勝地あり。和歌山の南なる黒江は大に漆器を製出し、湯淺(一萬)近傍は盛に密柑を栽培す。湯淺の東方遙かに新宮(一高四下)あり、熊野川(一名新宮川)の河口に臨み、薪炭木材の集散地として知らる。西に有名なる那智山あり。

十津川は、源を森林鬱蒼たる吉野群山中に發し、紀伊に入りて北山川を合せ、熊野川となり、大和南部と紀伊との通路を開き、史上に著はる。北山川には瀨八町の奇勝あり。

**統括** 大坂府は米産頗る多く、近江米も有名なり。京都府奈良縣の域は製茶の業開け、山城は茶樹の生育殊に宜し。和歌山縣は密柑の栽培盛なり。蠶業は近江を最とし、丹波丹後の

地にも行はる。

綿は本域の南部に産し、河内に最も多し、丹波の丹波栗又名あり。

工業も盛大に行はれ、大坂府は紡績を以て海内を壓し、京都府は巧緻なる絹織物の産出多く、和歌山縣の木綿織物産額は中部の愛知縣に次げり。殊に、本域は漆器の製作盛にして、和歌山は其額全國一に居り、内地向の外支那向の粗品を出す。京都之に次ぎて第二位を占め、高尚優美の品を産す。

大和川の畔に根來寺あり、昔時豊公と兵を構ひて其粉砕する所となり、山内根來塗の技工四方に流散したり。其黒江に來れる者黒江塗の元祖となる。現今奈良にても根來塗を製す。

陶磁器にては京都を推し、近江信樂の信樂焼また著はる。紀伊、大和の山地は専ら林業に従事し、紀伊よりは無燬炭(新宮地方)を出す。



新宮地方より出づる木炭は熊野備長と稱して割烹の用に供し頗る有名なり。又新宮邊の海岸にては鯨漁盛に行はれ波濤高き熊野浦に巨大なる鯨を捕ふる態爽快を極む。

### 中國地方

兵庫縣

攝津三郡  
丹波二郡  
播磨但馬淡路

岡山縣

美作備前  
備中

廣島縣

備後安藝

山口縣 周防長門

島根縣

出雲石見  
隱岐

鳥取縣

因幡伯耆

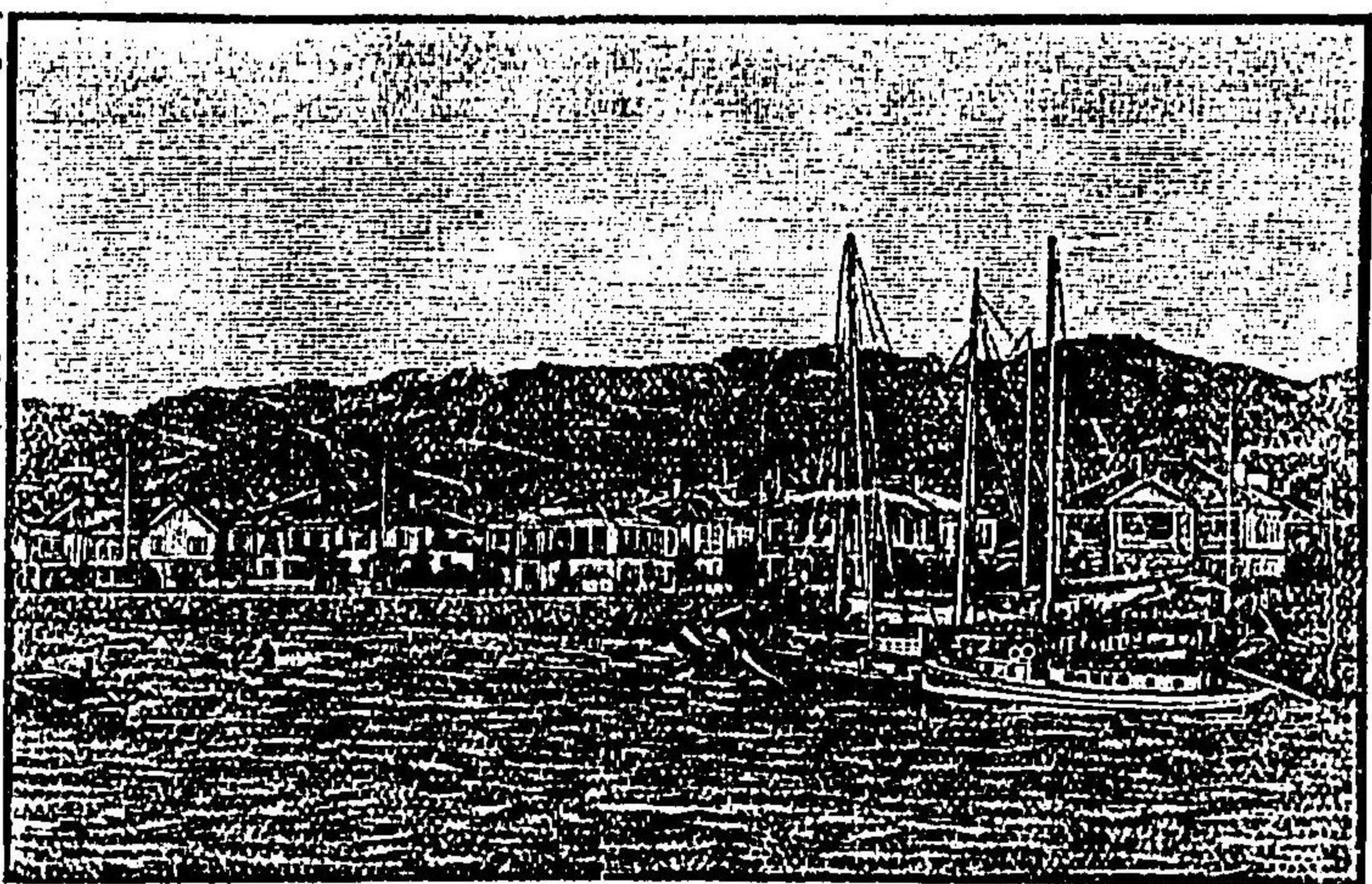
**概説** 本域は土地殊に細長く、中國山脈東西に貫走して城内を山陰山陽の二地方に分てり故に平野の大なる者あらず。加古市揖保千種四川の流域に亘れる平野及び吉井(東川)旭(西川)川邊三川の流域に亘れる平野は稍廣し。其他太田川高津川江川神門川篠川白野川千代川朝來川等の流域に多少の平地あり。

江川は中國一の大河にして備後安藝の諸水を合せて石見に出で、日本海に入る。蓋し、中國山脈が著しく安藝備後の域内に突出して分水界をなすに由るなり。



南側即ち山陽の沿岸は瀬戸内海に濱し頗る屈曲に富めり。播磨の海上は播磨灘と稱し、海岸大抵平砂の濱をなす。其西に兒島半島あり、半島の西海上を水島灘と呼ぶ。東西より進み來れる潮流、此邊にて衝突し再び東西に分流す。廣島灣は中國一の良灣入にして、江田島・倉梯島等灣の屈曲を増せり。其西に柳井津半島あり、以西の海上を周防灘と稱す。響灘以東の日本海岸は、屈曲に乏しく、一島根半島ありて、夜見濱の砂嘴と中海を抱けり。

**兵庫縣** 大坂の西廿哩の處に**神戸**（廿萬四千）あり、開港場の一にして、兵庫縣廳稅關造船場等あり。内外の商舶常に港内に輻輳し、貿易の勢甚た活潑にして、今や開港場中の第一位に出でんとするの勢あり。綿糸・米・銅・マツナ・地蓆・茶・麥・稗・眞田（以上輸出品）・繰綿・鐵鋼及び器械類・大豆・油・糟・葉烟草・縮緬・吳呂・石油・金巾（以上輸入品）



神戸港

等を盛に貿易し、又マツナの製作高全國第一と稱せらる。市中に楠公を祀れる湊川神社・福原都趾あり。生田森・布引・瀧和田岬等は近郊遊覽の地とす。東海道鐵道此に終り、山陽鐵道此より西に向へり。大坂・神戸間に**尼崎**（一萬五千）**伊丹****西宮**あり、**尼崎**は商業上の要區に當り、**伊丹**・**西宮**は清酒の名産地として其名海内に高し。西ノ宮の西北に**武庫山**・**摩耶山**等聳ゆ。三湯の一なる有



馬温泉には其武庫山中にあり、神戸より西に向へば、須磨、舞子等風光明媚の間を通ず、青松白砂と相映する邊、淡路島山より紀淡海峡の内外まで一目に見渡すべし。其西明石海峡に臨みて、明石(二萬一千)あり、柿本人丸が、ほのゝと明石の浦の」と詠せし處なり。帆木綿を産す。人丸神社あり。

明石邊を通ずる子午線東經百三十五度を以て、我が國中央標準時の子午線とす

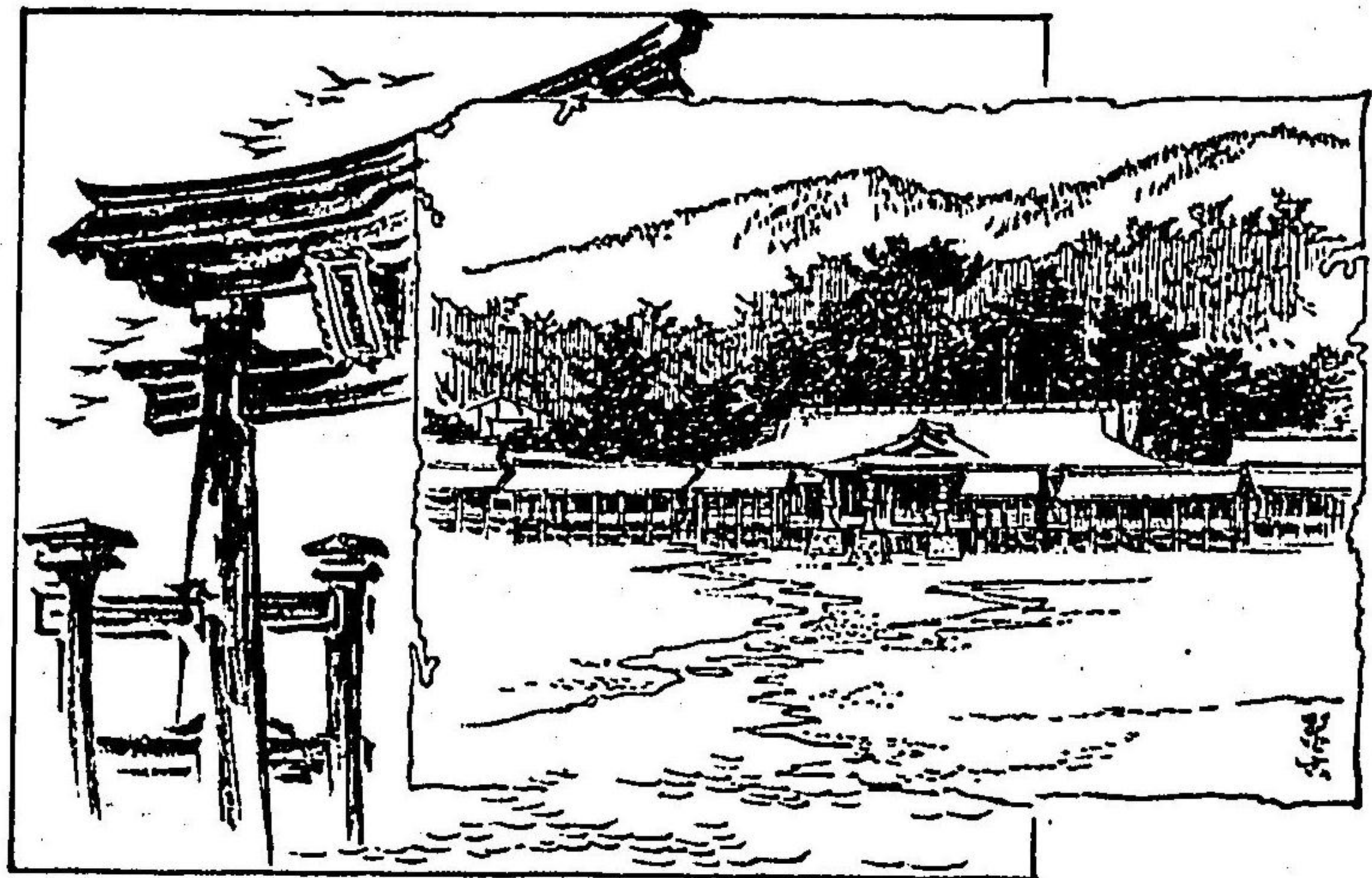


ひ望を嶋路淡りよ濱子舞

淡路には、洲本、由良、福良の三名邑あり。洲本近傍には淡路焼を出し、由良には要塞あり。(紀淡海峡の友島にも砲臺あり由良と相須ちて大阪灣口を扼す。)明石の西、市川の畔に姫路(三萬二千)あり、此と明石との間に名所多し。姫路は播但鐵道によりて飾磨津、生野と通じ、市街繁華、第十師團司令部ありて、革細工に名高し。生野には有名なる銀山あり。生野の北朝來川(一に城崎川)の畔にある豊岡は、柳行李を名産し、其東南の出石は出石焼を出し、近傍牧牛盛なり。山陽鐵道は神戸より來り、明石、姫路を經、書寫、白旗の二山を右に望み、赤穂の北を過ぎて舟坂峠にかゝる。赤穂は赤穂鹽を産し、赤穂義士を出せる所なり。大鹽と共に産鹽地として名高く、其東北に龍野あり、龍野醬油の名産地とす。

岡山縣 岡山(五萬七千)は池田氏の舊城地にして、平野の中央旭川の下流に枕み、岡山縣廳第六高等學校、三公園の一なる後

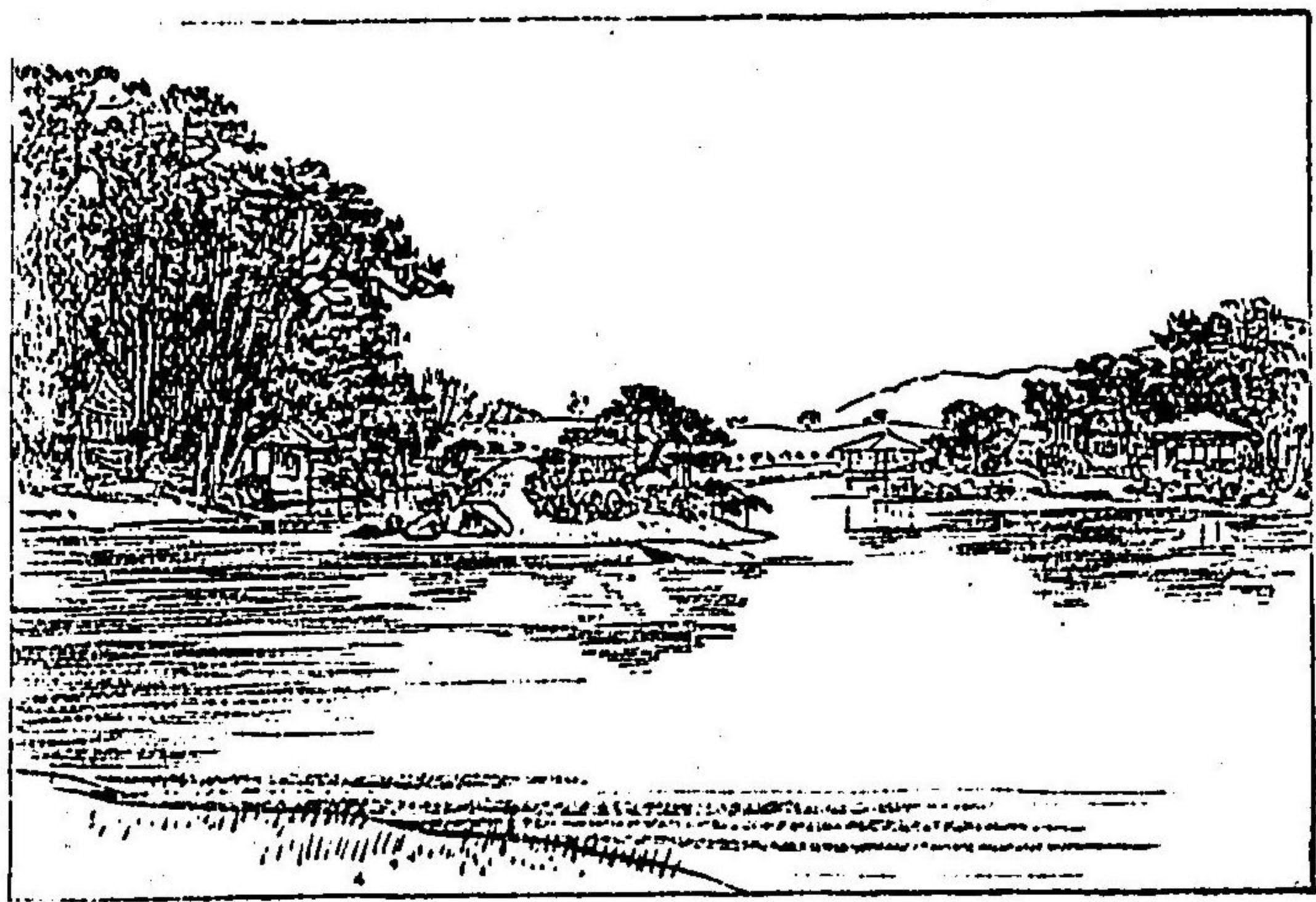




巖 嶋

徳が櫻樹に「天莫空句踐」の句を題せし院庄あり。

廣嶋縣 笠岡の西に福山一萬あり、繰綿を産す。其南の鞆津は、保命酒に名高し。尾道二萬は、福山の西にあり、四國との交通繁く、又商業上北海道との關係深し。肥料・米穀・食鹽を集散し、疊表・花菫を出す。尾道の西廣島灣に臨みて廣島十一萬餘あり、毛利輝元の城きし所にして、宇品港を門戸とし、商況活潑、實に中國一の大都



岡 山 公 園

樂園等ありて、綿絲・花菫を産し、山陽第二の都會なり。近傍に吉備津彦神社あり。山陽鐵道は、三石和氣伊部の間を過ぎて此に來り、倉敷・玉島・笠岡を経て廣島縣の域に入り、中國鐵道は、北方津山に通ず。伊部は備前燒の産地、倉敷は綿絲・花菫の産出多く、玉島は物貨集散の要港とす。笠岡にては刻煙草を製し、又北方の高梁と共に麥稗眞田を出す。津山一萬は交通の要區に立ちて生糸・煙草を産す。近傍に兒島高

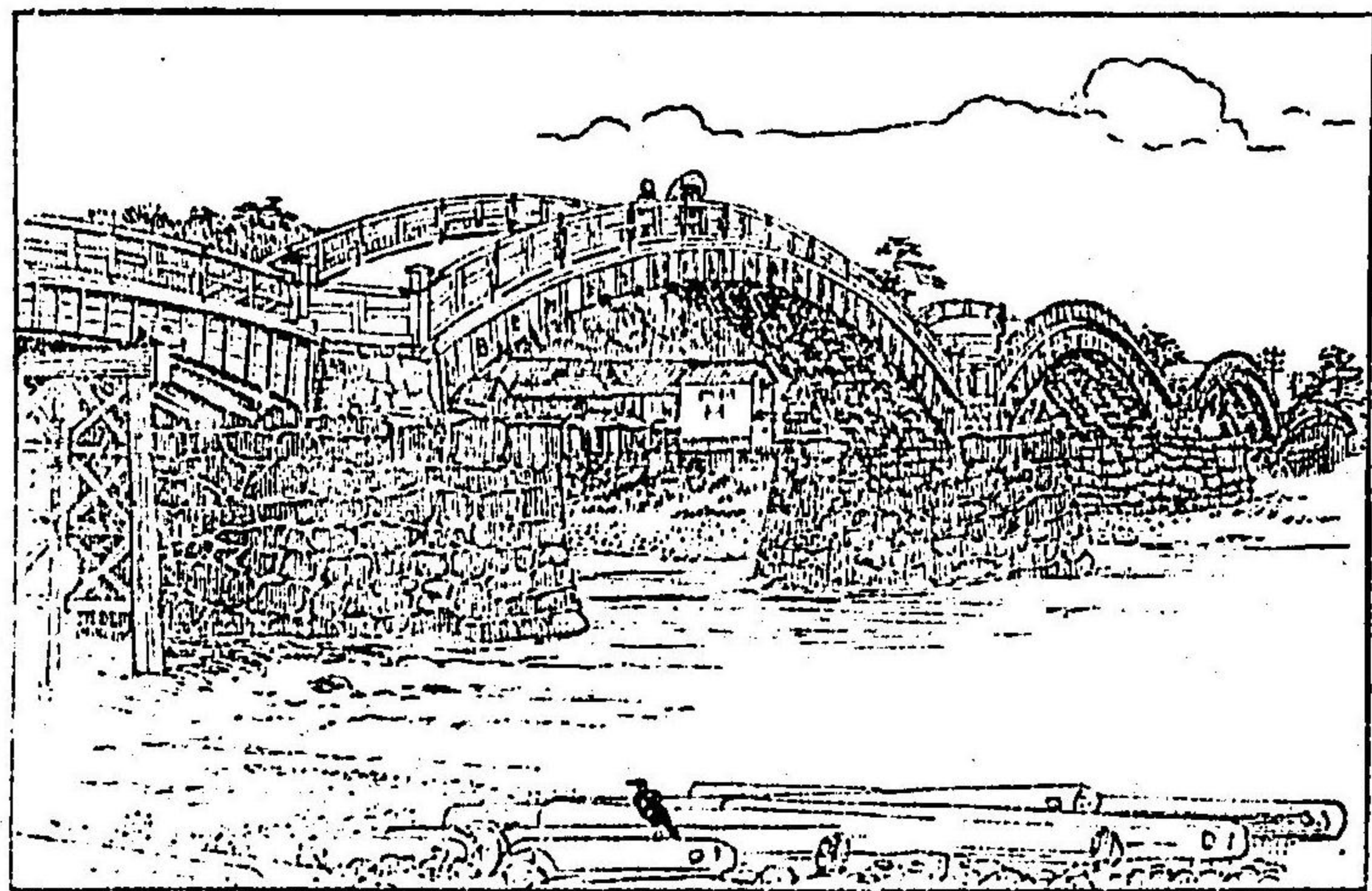


會たり、繰綿傘針を産出し、縣廳控訴院第五師團司令部等あり。日清戦争の際、畏くも大森を此に進めさせ給ひき。其南に吳軍港あり、第二海軍鎮守府壯大なる造船場あり。近傍普戸、瀬戸は、平清盛の開鑿せる所なりと云ふ。江田島には海軍兵學校を置く。江田島の西に巖嶋あり、景勝に富み、日本三景の一と稱せらる。其巖島神社は、山に倚り、海に臨み、潮満ち來れば長廊殿宇悉く潮水に浸され、月夜最も奇觀を極む。

山口縣 岩國は、岩國河口にあり、錦帶橋と岩國縮布とを以て著はる。其西に徳山〔二千萬〕あり、山陽鐵道尾道廣島岩國等を経て此に來り、西方三田尻〔三千万〕に向へり。三田尻は、徳山と共に九州に渡るの要津にして、近傍より盛に食鹽を出す。三田尻より山陰道を進めば、山口〔七千万〕に出づ。大内氏の嘗て城居せる所とす。縣廳第七高等學校、第廿一旅團司令部あり、赤間關

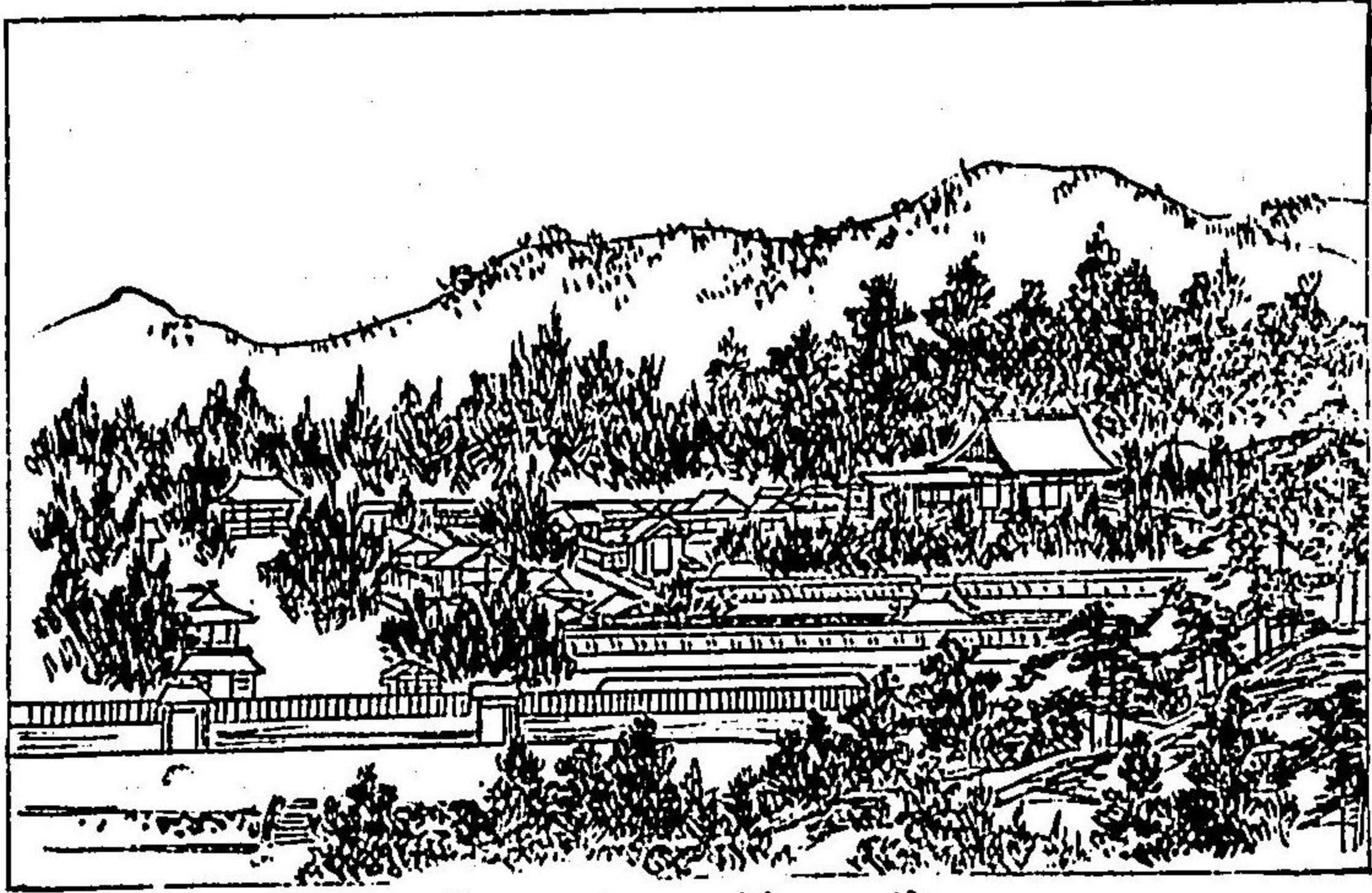
〔四〕は、又下、關とも稱し、馬關講和條約を締結せし所、山陽道の西端にある開港港とす。韓國に關係深く、米穀肥料の取引盛に行はれ、又石炭を輸出す。刻煙草硯は市の名産なり。

近傍に豊浦宮趾壇、浦の故戰場あり。東北日本海に臨みて萩〔六千万〕あり、此地は毛利氏の舊城地なりしが、繁榮次第に山口に移るが如し。夏橙を産す。



橋 帶 錦





出雲大社

島根縣 山口より津和野を、  
 過ぎ、日本海の濱に出づれば、  
 濱田あり。開港場の一にして、  
 附近に紙を産す。此地にて製  
 する瓦は、嚴冬の候と雖とも  
 氷碎することなく、數十年を  
 經て尙ほ蘚苔を生ぜずと云  
 ふ。第五師團の分營を此に置  
 く。此より三瓶山の北を過ぐ  
 れば、島根半島の西部に杵築  
 あり、出雲大社のある所とす。  
 其東に松江〔三萬〕あり、宍道湖  
 中海の中間馬瀉瀬戸に跨り、

商業盛にして島根縣廳あり。近傍に藥用人參を産す。宍道湖  
 に注げる簸川は、水上の船通山と共に古史に著はる。中海は  
 鱸に名高く、交通運輸の便大なり。

島根半島の北海上に隱岐あり。其島前〔知夫島中、島西〕は後鳥羽  
 後醍醐二帝の蒙鑿と給へつる處にして、後鳥羽帝の山陵、黒  
 木御所の舊趾あり。島後の西郷は、本島の要港にして近海に  
 産する鰯を境港へ出す。

鳥取縣 境は夜見濱の北端、中海の外海に通ずる處にあり  
 て、開港場の一に居り、港内安全、鰯其他海産物の集散盛に行  
 はる。中國鐵道津山より米子〔六千〕を經て此地に來らば、一層  
 の繁榮を増さん。米子は中海に臨み、商業また行はる。東に有  
 名なる船上山、大山あり。大山の大山原にては盛に牛を牧し、  
 屠牛として京坂地方に輸出す。其東方に倉吉あり、最優等の



生絲を産じ、又稻扱を出す。此地の稻扱は殆ど全國に普及せり。倉吉より天神川を下り、國道を東に進めば、鳥取〔三萬八千〕に至る。千代川の下流に臨み、縣廳及び第十師團の分營あり、生絲紙を産出す。近海に白珊瑚の産あり。播磨路は此に山陰鐵道と分れて美作・播磨に入る。

**統括** 米の産額は兵庫縣を第一とし、産額新潟縣に次ぐ。岡山・山口・廣島諸縣にも多産す。就中播磨米・防長米は、其品質良好を以て聞ゆ。岡山・廣島二縣の地にはよく煙草を産じ、藍も亦併作せらる。廣島縣は又麻を産じ、島根縣にても稍麻を植う。而して、牧牛と綿の耕作とは本域に一般に行はるゝ處なり。但馬・因幡の牛は、其産額最大にして、世に神戸牛と稱する者の大部分を占め、綿は鳥取縣を最とし、全國に冠たり。製紙の業も一般に發達し、但馬・石見・安藝・周防の産は殊に大

なり。三備地方には、疊表・花蒔の製作盛にして、疊表は備後表の名に於て海内に弘布し、花蒔は外國へ輸出す。岡山縣の麥稗・眞田また有名なり。内海に面する諸國は製鹽の利夥しく、山口縣は實に海内第一に居り、兵庫・廣島・岡山の諸縣何れも多産す。漁利は廣島縣の域に多し。

山岳はよく前面に雨雪を遮り、後面の地をして晴朗ならしむる者なり。内海に面する諸國は、皆背後に山脈を負ふを以て、雨濕の内海に入り來る。常に少く、従つて全國中晴天の最も多き地方に屬せり。晴天の多きは、即ち製鹽に適合する大原因にして、内海諸國が製鹽の利を享くるは、全く造化の賜たることを記應せざるべからず。

鑛産も尠からず。但馬〔野生〕石見〔選〕は銀を出し、備中美作は銅を産じ、安藝・伯耆・出雲・石見は砂鐵に富む。



### 四國地方

德島縣 阿波

香川縣 讃岐

愛媛縣 伊豫

高知縣 土佐

**概説** 四國山脈中央に蟠り、土地三面に低下す。而して平地は至りて少く、東面の吉野川流域のみは稍見るべきも、其他は南面の仁淀渡(四萬十川)の二川、北面の肱川等の流域及び沿岸地方に小低地あるに過ぎず。

蒲生田岬より西北の三崎に至る間は屈曲著しく、其四國と淡路との間に鳴門海峡あり、潮勢極めて急にして、潮の岩礁に激する音雷の如く、古來舟人の甚た怖るゝ處とす。蒲生田岬と此との間は大抵砂濱なり、三崎の西に伊豫灣あり、高繩半島の大隅鼻其一角をなす。此より佐田岬までは半砂濱に

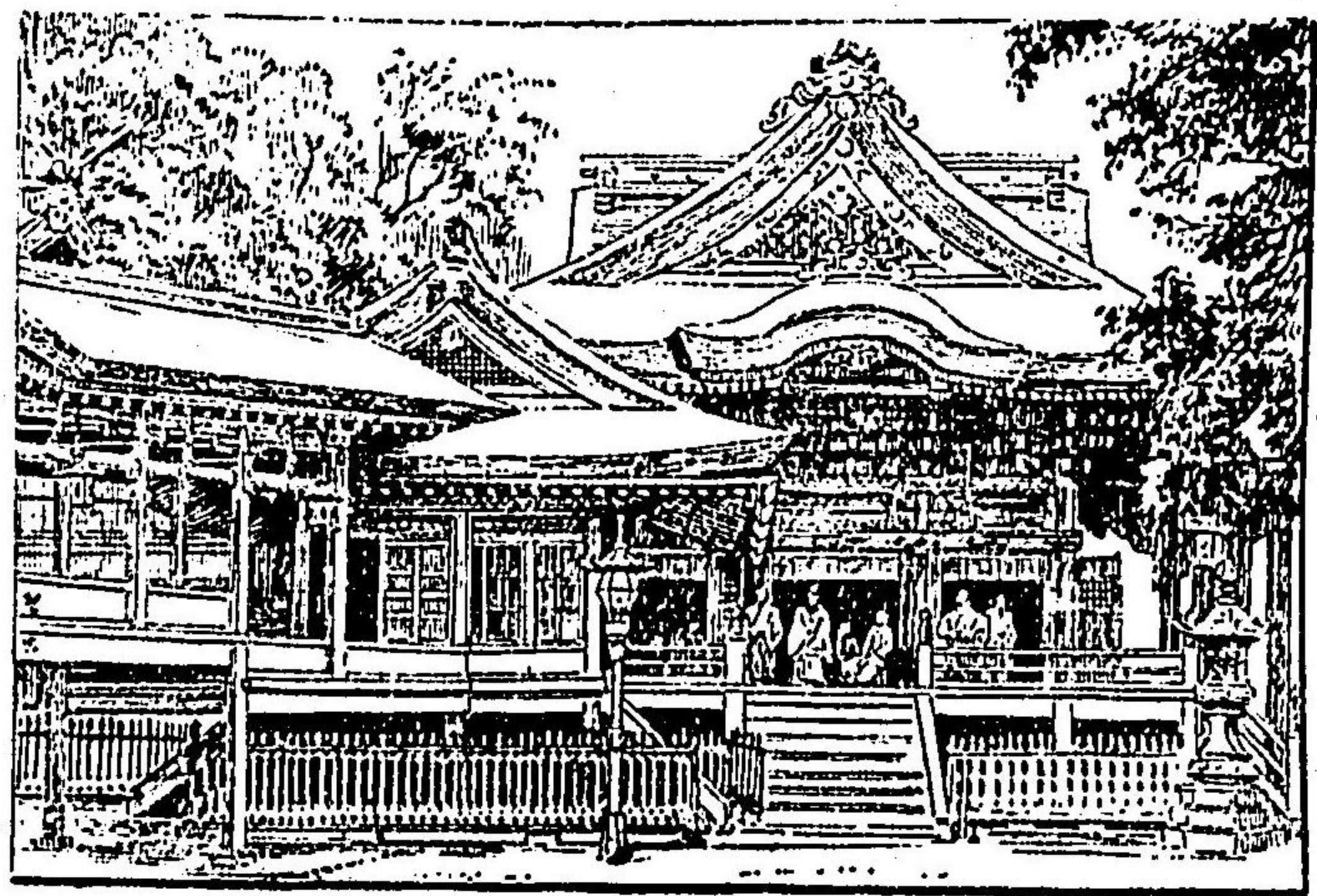
して、佐田岬以南、豊後水道の沿岸は又頗る屈曲に富めり。四國の南端を蹉陀岬といふ。室戸岬と共に土佐灣を抱けり。

**德島縣** 吉野川河口に**德島**(六萬)あり、蜂須賀氏の舊城地にして、德島縣廳ある處、大坂と瀛船の交通ありて商業活潑に

行はれ、阿波縮(織織)を産す。德島鐵道此より吉野川に沿ふて上流地方に向へり、平野の中部に當りて**服町**あり、商業上の要區とす。劔山南方に見ゆ、脇町の西方**池田**は土御門帝の山陵ある處、煙草を集散す。北方箸藏山中に箸藏寺あり。德島の北に**撫養**(八千)あり、淡路に渡るの要津にして、附近製鹽盛なり。世に齋田鹽と稱せらる。

**香川縣** **高松**(三萬四千)は香川縣齋所在の地にして、高松城は今尚ほ舊觀を存す。市の近傍に白峯山陵、屋島故戰場あり、讃岐鐵道は高松に起り、坂出、丸龜、多度津等を経て琴平に達す。屋

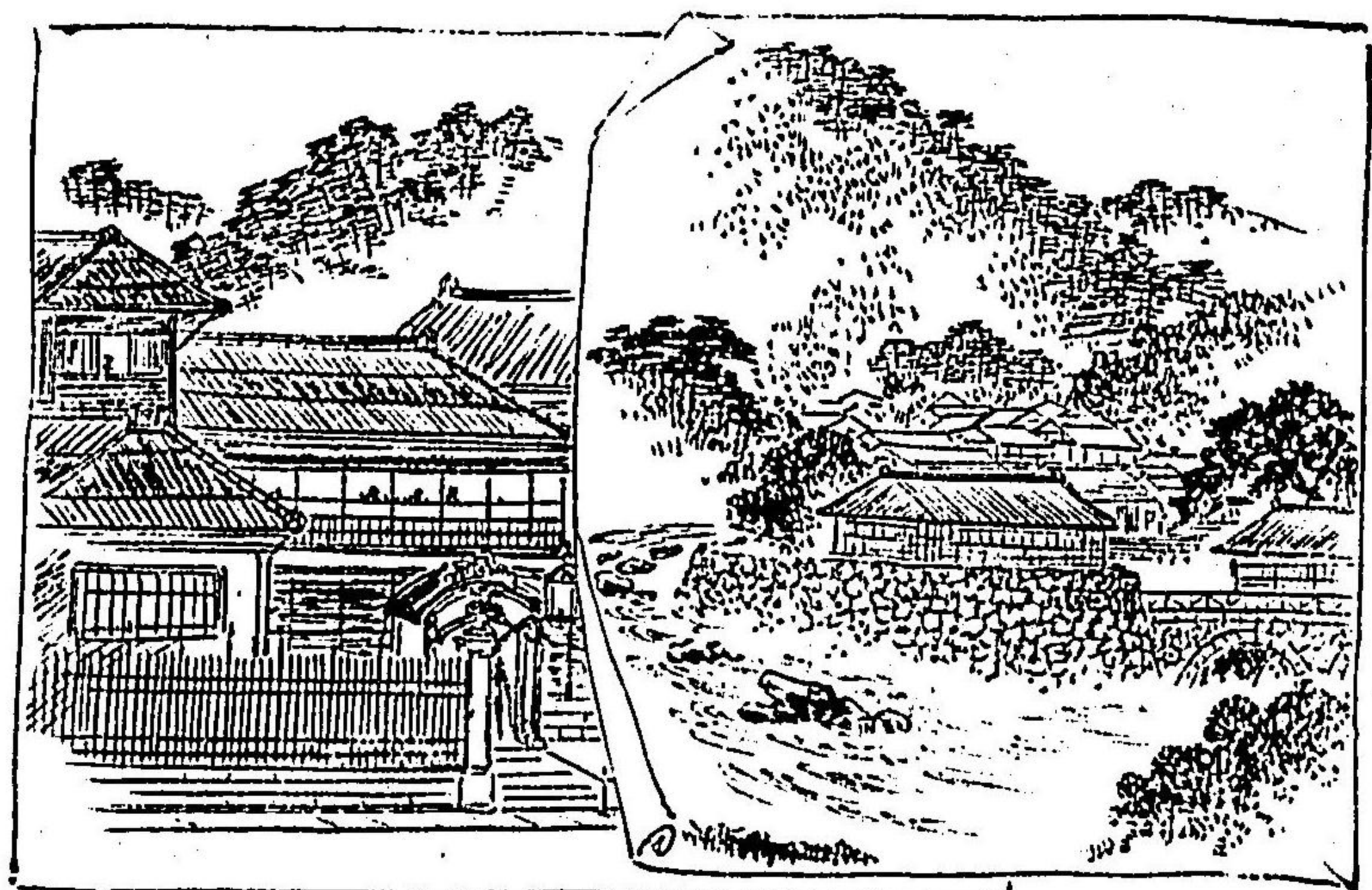




宮羅比刀金

島は東に奇峯五劔山聳え、一目に内海諸島を見渡して風色  
 勝れ、安徳帝行在所の舊趾あり  
**坂出**(二萬)は製鹽地として  
 知られ、**九亀**(三萬)は商業の稍  
 盛なる處、第十一旅團司令部  
 あり、**多度津**は瀬戸内海の要  
 港にして、船舶の出入常に繁  
 き處なり、南方象頭山中に琴  
 平神社あり、詣客(金毘羅)甚た  
 多し、琴平と多度津との間に  
 ある**善通寺**には、第十一師團  
 司令部を置く、善通寺の西南  
 に方りて**観音寺**(三萬)あり、高

に起れる國道此邊を通じて  
 愛媛縣に入る。  
**愛媛縣** **松山**(三萬)は國道の  
 一端にあり、南豫鐵道、伊豫鐵  
 道道後鐵道の中心に立ちて、  
 縣廳及び第十旅團司令部の  
 ある處とす。松山縞伊豫飛白  
 を産し、市況稍盛なり。近傍の  
 道後温泉は本邦三湯の一と  
 稱せられ、**三津濱**は盛なる魚  
 市場なり、**三津濱**の海上にあ  
 る興居島は一に伊豫富士の  
 稱あり。



泉温後道

山銅子別



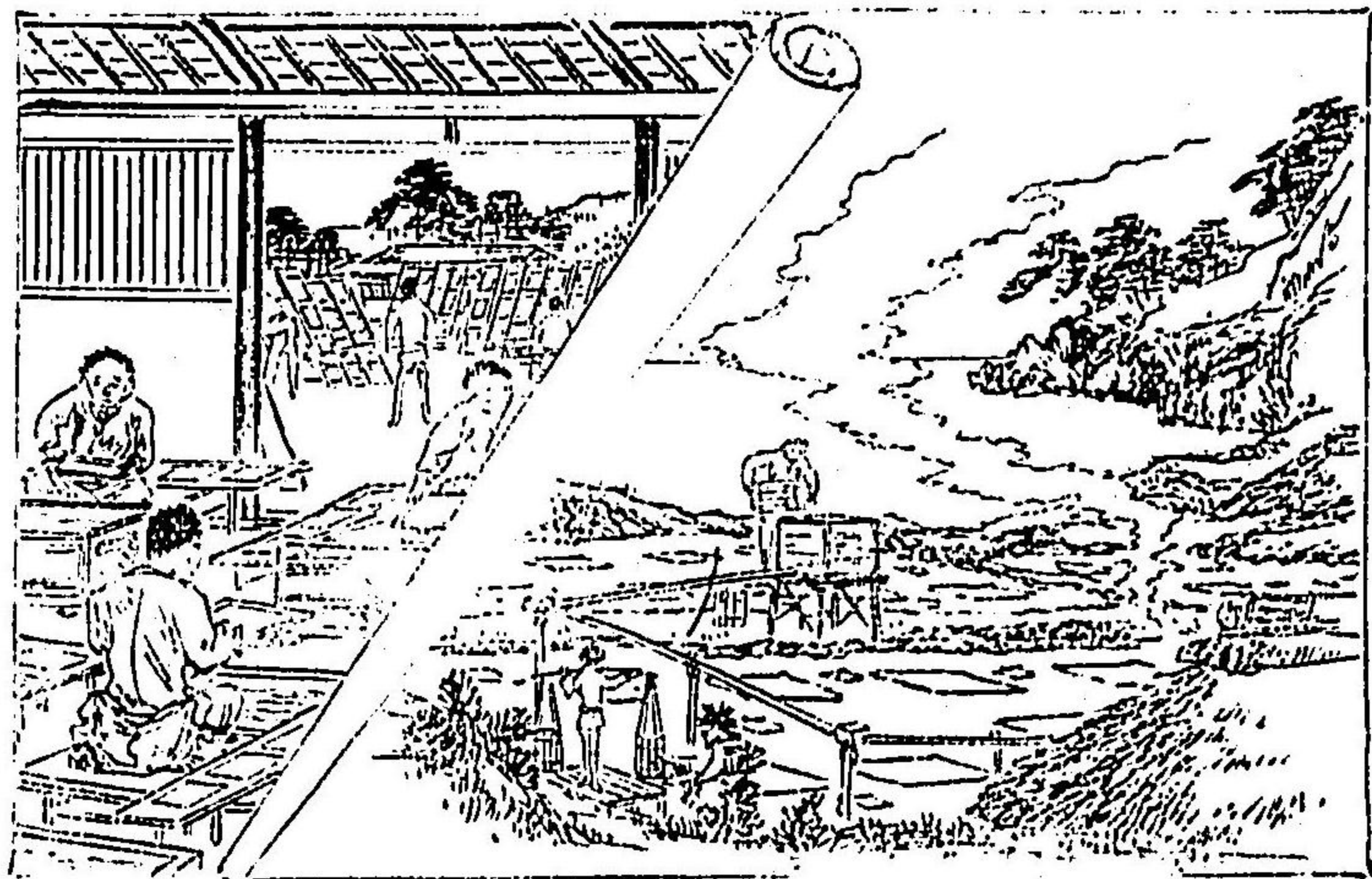
興居島石槌山五劔山等は何れも阿蘇火山脈に屬する者なり。

松山の東北に**今治**(一萬五千)あり、中國の尾道と連絡を保ち、米、木綿織物を集散す。**宇和島**(三萬)は縣下南部の要港にして、近傍より紙を産す。

**高知縣** 土佐灣の灣頭吸江に臨みて**高知**(三萬六千)あり、山内氏の舊城地にして、高知縣廳及び第十一師團の分營あり。紙を多く産す。吸江の口なる**浦戸**は、長曾我部氏が四國に號令せる處なりしが、今は一漁村たるに過ぎず。國道は愛媛縣の東部より、紀貫之の住せし**國比佐**を経て高知に至り、海岸を東に通じて室戸岬邊より徳島に向へり。國道に沿ふて**安藝**あり、東部の商業地にして、中部の**越智**、西部の**中村**と相並ぶ。近海には鯨の漁盛なり。

**統括** 米の産額甚た少く、域内を通じて新潟一縣に及ばず。

高知の製紙



撫養の製鹽

是れ南側の地は良耕土に乏しく、北側は豊饒なるも土地狹きが爲めなり、甘藷、甘蔗は栽培せられ、製糖に従事する者多し、就中香川縣を最とす。吉野川沿岸は最も藍作に適し、産額も全國隨一にして、四國藍の名海内に高し。又煙草を産す。瀬戸内海に瀕する地には、中國と等しく製鹽行はれ、齋田鹽は品質赤穂鹽に次ぎ、香川縣の域は産額山口縣に次げり、高知縣は最も漁利



に富む。

土佐沿岸は鯉節の製造盛にして土佐節を出す。西南海中又珊瑚の産あり製紙の業も盛に従事せられ、高知縣の産額は全國第一位にあり、愛媛の柁紙は良質に名あり、徳島愛媛二縣は又盛に木綿織を出す。

愛媛縣の砥部より出づる砥部焼は産額稍多し。

伊豫の銅(別子)安質母尼(市川)は産額大なるを以て著名とす。

### 九州地方

福岡縣

筑前筑後  
豊前四郡

佐賀縣 肥前八郡

長崎縣

肥前六郡  
壹岐對馬

熊本縣 肥後

大分縣 豊前二郡  
豊後

宮崎縣 日向

鹿兒島縣

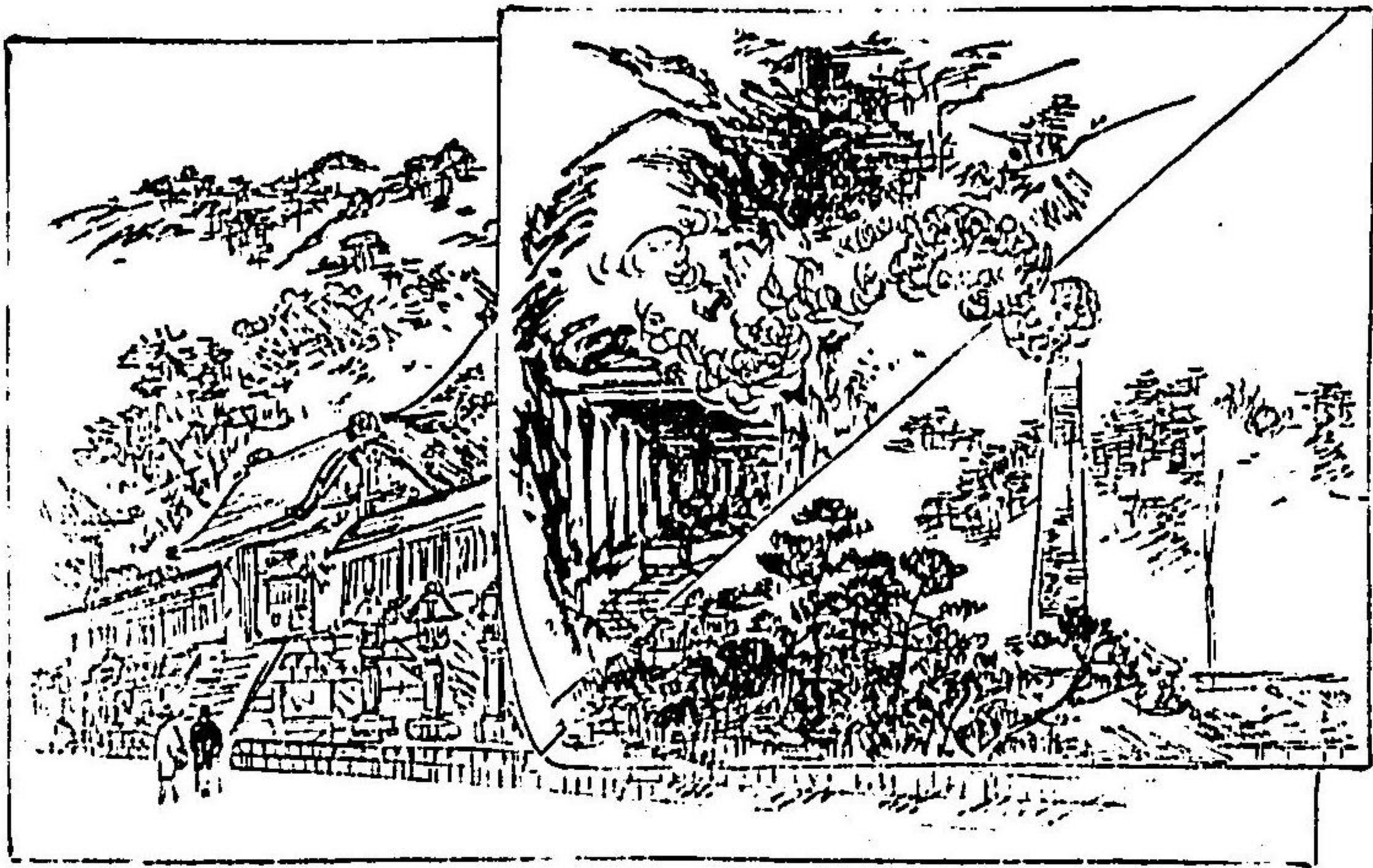
大隅薩摩  
薩南諸島

沖縄縣 琉球

**概説** 九州北部山脈九州南部山脈の二脈域内を綿亘し、地域略東西北の三部に分る。西部は即ち兩山脈の中間に當り、筑後肥後の二平野あり、筑後平野には筑後川貫流し、肥後平野には菊池川・白川・縁川・球摩川等貫流す。川内川の流域にも小沃地あり。北部は遠賀川の流域及び沿海地方に稍平地を見る。東部は河流に富めども平地に乏しく、高鍋・大淀・二川の間に小平野を開けり。



沿岸の出入屈曲に富めること九州を最とす。殊に西部北部の沿岸に甚し。筑紫海(有明洋)は、天草諸島と島原半島との間より深く陸地に入りて、肥後筑後二平野の門戸となり、八代灣其南方に連り、僅かに宇土半島によりて其間を隔てらる。外海は即ち天草洋にして、彼杵半島の一角野母岬突出す。彼杵半島は、北に向ひて大村灣を抱けり。其北方沿岸には、北松浦・東松浦等の半島出で、伊萬里・唐津・博多等の諸灣灣入して海岸甚た交錯す。東松浦半島邊の海上を松浦瀉と呼び、壹岐對島の二島遙かの海上にあり。國東半島の南なる大分灣以南、即ち東部の海岸は、最も出入に乏しく、豊後水道に面する所稍屈曲すれども、日向洋沿岸の如きは殆ど一直線をなせり。其南方の地角を都井岬といふ。西に大隅半島あり、南端を佐多岬と稱し、薩摩半島と鹿兒島灣を抱く。薩南諸島近海より



神天府宰太 坑炭

起りて、琉球と共に九州臺灣間の連鎖となれり。  
福岡縣 九州北部の一角(部)が、長門と赤間關海峽をなす所に門司(二萬五千)あり、赤間關と相對して瀬戸内海の咽喉を扼し、亦開港場の一なり。九州鐵道此より起り、石炭の輸出港たり。其西南に小倉(二萬五千)あり、小倉織を産し、現今西部都督部第十二師團司令部あり。九州鐵道の一支線、此に分歧して豊州鐵道に連絡せり。



小倉の稍々西北に**若松港**あり。石炭積出の要港にして、鐵道(九州鐵道)を以て遠賀川上流地方の諸炭田と通す。此より鐵道に沿ふて西に進めば、**博多**に至る。博多灣に臨みて開港場の一に居り、福岡と福岡市(六萬)をなす。博多織に名高し。縣廳は福岡の地にあり。此地は、水陸交通の衝に當るを以て夙に史上に著はる。博多灣は元寇の覆滅せし所、沿岸今に當時の殘壘を見るべく、香椎宮は神功皇后を奉祀し、箱崎神社に敵國降伏の額を藏せり。菅公が罪なくして配所の月を見たりし太宰府の舊趾は、福岡の東南にあり。

**久留米**(二萬)は筑後平野の要區を占め、久留米、緋久留米、綿を産す。下流の**大川**(一萬)は、其若津港によりて米を集散す。九州鐵道は、久留米近傍に於て二岐となり、其の一線は、久留米、柳川、大牟田を過ぎて熊本に向ふ。柳川近傍は疊表、花蒔を

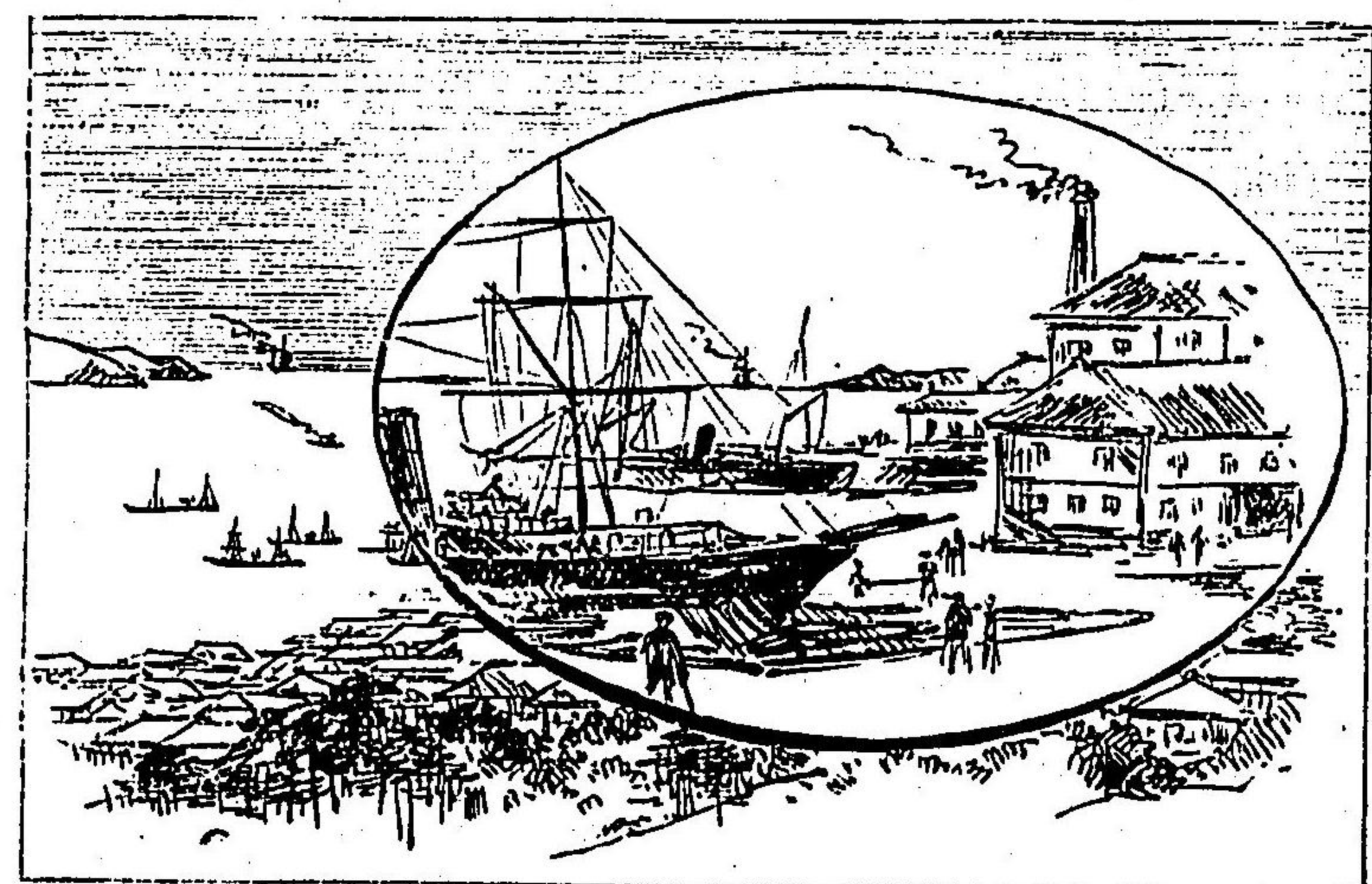
産出し、**大牟田**(一萬)は、三池炭田を控かへ、年を追ふて繁昌す。

**佐賀縣** 大川の西北に**佐賀**(三萬)あり、佐賀縣廳のある處にして、明治元年、江藤新平征韓の議合はざりしを憤り、兵を此に擧けたりき。九州鐵道の一線此地を過ぎ、本邦著名の製陶地**有田**を経て長崎縣の域に入り、有田よりは支線を伊萬里に出せり。**伊萬里**は伊萬里灣頭にある陶器の集散地とす。北に**唐津**あり、開港場の一にして石炭を輸出し、唐津興業鐵道此を起點とす。其北、松浦瀉に臨める**名護屋**は、文祿征韓の際に行營を設けし處なり。

**長崎縣** 九州鐵道は、大村灣の邊にて再び二岐となり、一は第三海軍鎮守府の所在地たる**佐世保**(三萬)に終り、一は**大村**を過ぎて長崎に終る。大村は第廿三旅團司令部のある所なり。



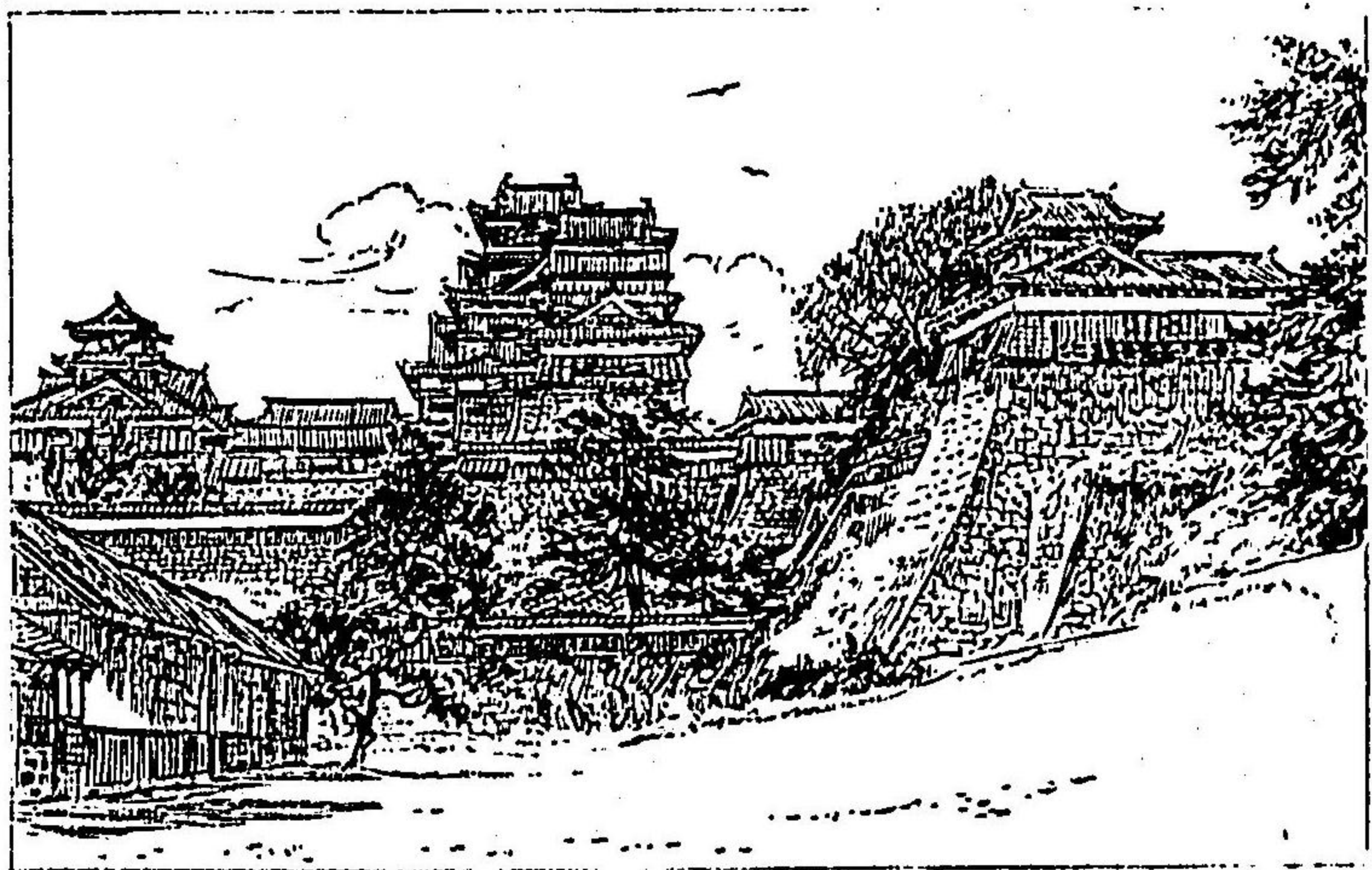
長崎(七十萬)は實に西洋文物の始めて我が國に入りし門戶にして、往時長崎奉行を置きし所、本邦最舊の互市場とす。縣廳、控訴院、稅關、第五高等學校、醫學部及び造船場等ありて、横濱、神戸と太平洋航路に當り、内外の商船常に港内に輻輳す。石炭、海產物、茶、以上輸出、繰綿、鉄鋼、器械類、石油、肥料、砂糖(以上輸入)等を輸出入の重要品とし、又煙草、唐木細工、鼈甲等の土産あり、長崎の東



長崎船渠

南筑紫海の口に口津あり、亦開港場の一とす。温泉岳東北に聳ゆ平戸海峽に臨める平戸は、昔時和蘭との互市場たりし處にして、明末の名士鄭氏の事蹟を以て著はれ、福江島の福江と共に製錫捕鯨の業盛なり。壹岐の郷浦は内國航路に當りて交通の便よく、勝本は壹岐北部の名邑とす。對馬には嚴原、鹿見、佐須、奈の三開港場あり、嚴原に島廳を置く。淺海灣は良灣の聞高く、其竹敷に要塞を設け、警備隊を配せり。熊本縣 熊本(五十萬)は肥後平野の中央に位し、物貨輻輳して市況繁盛なり、縣廳、第六師團司令部、第六高等學校等あり、綿布を産す。名高き熊本城は、鬼上官加藤清正の經營に係り、其後細川氏の居城たりしが、西南戰爭の際樓櫓焼け失せたり。清正の墓は市内本妙寺にあり、有名なる阿蘇山此より東方

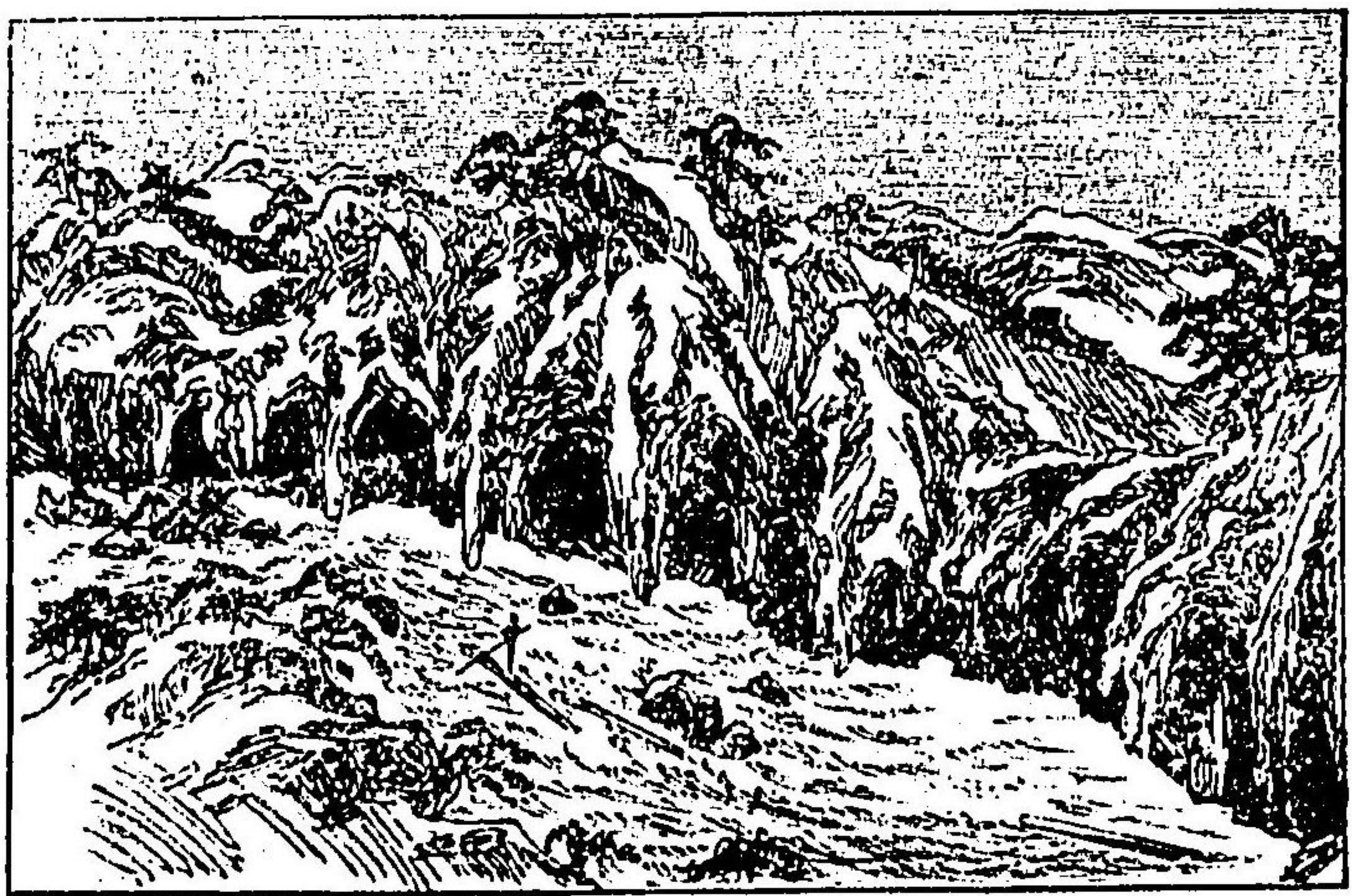




熊 本 城

に見ゆ熊本の西南なる隈府は菊池氏の城趾あるを以て知られ、其熊本との間に田原坂の激戦場あり。九州鐵道は熊本を過ぎ、緑川の邊に於て三角線を出し、南方八代に達す。三角は宇土半島の端にあり。筑紫海八代灣を兩側に控へて開港場の一なり。八代(二萬)は急流球摩川の河口に臨める商業地とす。南北朝の時征西將軍宮懷良親王此地に薨去し給ひき。天草諸島西方海

上に散布す。八代の東方山中にある**五家莊**は、四國の**祖谷**と共に平家遺族の隱家として知らる。此より南下すれば**人吉**あり、九州一の市房山を東境に望むべし。  
**大分縣** **中津**(一萬五千)は山國川の畔にある名邑にして、山國川の上流に耶馬溪の奇勝あり、有名なる**英彦山**(又彦)其西方に聳ゆ。豊州鐵道は福岡縣の域より來り、中津を過ぎりて宇佐に通ず。宇佐に宇佐八



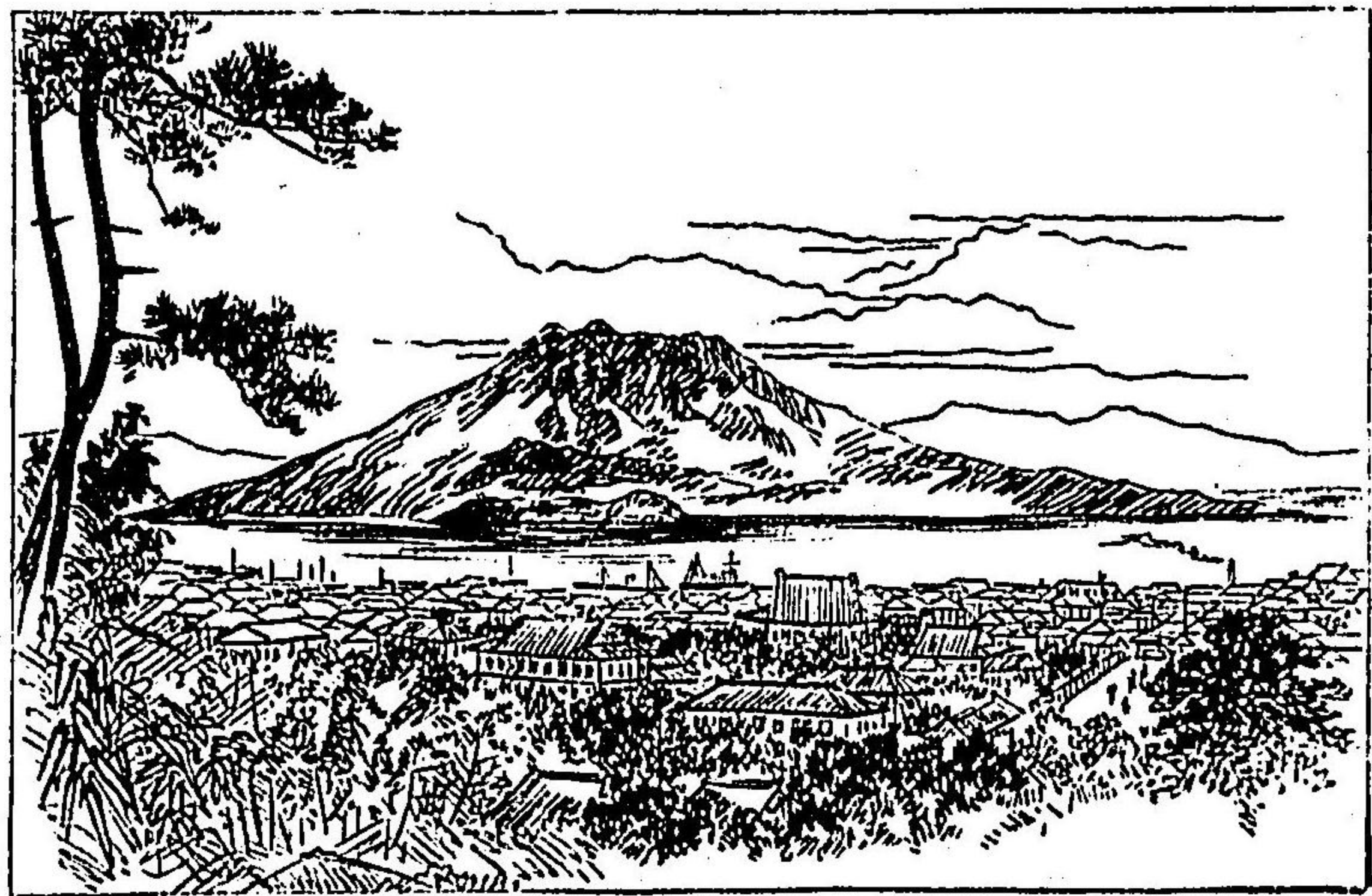
耶 馬 溪



幡宮あり。

宇佐より國道を南に進めば、大分に至る。途中に別府あり。此地の温泉場は世に名高く、近傍に疊表・花蕙を産す。由布嶽(豊後富士)西北に聳ゆ。大分(二萬)は大分縣廳のある所とす。其西に佐賀關あり、其地角を地藏岬といふ。四國の佐田岬と相對して速吸海峽(水門)をなす。佐賀關は南方の白杵佐伯と共に縣下の要津なり。

宮崎縣 高鍋・大淀・二川間の平野に高鍋宮崎の二名邑あり。宮崎は宮崎縣廳のある所にして、神武天皇御東征の際、此より船出せさせ給ひきといふ。西方に霧島帶火山脈の主山霧島山見ゆ。宮崎の南に方りて飲肥あり、其東南の油津は、縣下北部の細島と共に稍良港の名あり。宮崎の西南なる都城(一萬三千)は、鹿兒島縣に入るの要區たり。



鹿兒島

鹿兒島縣 八代より海岸を南行すれば阿久根(六萬)に至る。燒酎・煙草の産あり。其東南鹿兒島灣に臨みて鹿兒島(五萬)あり。九州南部の都會とす。薩摩・絳・煙草・馬・錫・竹・細工等を産し、鹿兒島縣廳あり。西郷隆盛が戦死せし城山は、市の西北にあり。此地は島津氏の舊城地にして、前面に活火山櫻島を望む。櫻島は地味肥沃甚。た蜜柑・煙草の栽培に適せり。鹿兒島東北の國分は、煙草に



名高く、其東南の福山は馬を産す。鹿兒島の南に谷山(二万六千)あり、錫を産す。牧馬盛にして現今軍馬育成所の設けあり。其南の揖宿(六千)は煙草を産し、山川港は往時琉球船の來泊せし所なりといふ。薩摩富士(海門)其西に聳ゆ。西海岸の加世田(一萬五千)坊津は史上に名あり。

薩南諸島とは種子島・屋久島・川邊十島・大島諸島の總稱なり。諸島中大島は最も大なり、島廳を置きて之を管す。西郷隆盛が三たび此島に流されたるを以て殊に聞ゆ。砂糖・紬の産あり。俊寛僧都の流されたる鬼界島は其東方海上にあり。川邊十島は七島表に名高く、種子島は鉄炮の傳來を以て有名なり。沖繩縣 薩南諸島の大島と、臺灣との間に琉球あり、島嶼の數五十有餘、分ちて沖繩諸島・宮古諸島・八重山諸島の三部(宮古諸島八重山諸島を併稱)となす。現今沖繩縣を置きて之を管轄す。

琉球の地體は九州に連続する一山脈の高所、僅に海上に現はれたる者なれば、諸島を通じて高山なく、漸く千二百尺内外の者に過ぎず。沿岸は屈曲に富み、間々良港あれども、珊瑚礁多く、且つ淺きために大船を入るゝ能はず。又此地方は、海洋の影響大なるにより、熱地に近き割合に苦熱を感せず。但暴風の襲來ありて風害を被ると數なり。

沖繩諸島は東部を占め、其沖繩島を最大とす。島の南部に那覇(三萬五千)あり、縣廳所在の地とす。又本邦開港場の一にして船舶の出入多く、市街殷盛なり。其東一里許に首里(二萬五千)あり、舊王城所在の地にして舊藩臣の邸宅多し。近傍の崇元寺には尙氏累代の廟あり。島の北部にある運天は、良港と稱せらる。宮古諸島の宮古島及び八重山諸島の石垣島には島廳を置く。住民は男女とも結髮して簪を挿み、其簪の種類によりて貴賤を區別す。衣服は略内地に類し、平袖にして前に結帶す。而して女子は一般勞働に任じ、荷物を運搬するに必ず頭上に載す。賤民は履を穿たず。市街の外は家屋の





沖 縄

周囲に高き石垣を繞らす。

琉球の地たる、水利悪しくして穀類の耕作に適せず。故を以て島民専ら甘藷を栽培す。然れども紬・木綿・上布・芭蕉布・琉球塗・壘表・陶器等の製作行はれ、又泡盛・黒砂糖・藍(泥藍と稱する)の産あり。鱧・鯖・海參・夜光貝・丁貝等は水産の主なる者とす。  
**統括** 肥後平野・筑後平野及び遠賀川流域地方は品質良好なる米を多産し、本域全産

額の過半を占む。麥も稍多し。筑後川沿岸の地には藍を産す。甘藷は域内諸國到る所に適し、其栽培の盛なるを他に其比を見ず。殊に鹿兒島縣を最とす。

筑後肥後には製茶の業行はれ、茶樹に野生の者あり。薩摩肥後には煙草多く、製糖も行はる。

域内、工業未だ盛大に到らず。福岡の紡績織物・紙、大分及福岡の壘表・花筵、佐賀、長崎及鹿兒島の陶磁器著名なりとす。又宮崎・鹿兒島・沖繩三縣を除くの外は、盛に木蠟を製出す。

本域は又甚た鑛産に富み、石炭(筑豊諸炭田、三池炭田、唐津炭田、高島炭田、天草炭田)の産出全國第一に居り、薩摩の金(芹ヶ野鹿籠)、日向の銅も亦産出尠からず。

牧畜も稍盛にして、熊本・鹿兒嶋には馬多く、豊後・肥前には牛多し。漁業は鹿兒島・長崎の域に盛にして、鯛は、五島附近に多



く産す。

要するに、本域は海外との交通に便よく、陸には盡くるなきの石炭を藏して、工業の興起すべき地とす。近時本邦唯一の製鐵所を若松港の附近八幡に設置せられたるは、全く運輸の便と、石炭の供給とに由りたる者なり。今や九州鐵道は、本域の重要生産地方を連ねて、海陸の連絡一層の利便を得るに至りたれば、本域の前途益々多望なりと云ふべし。

### 北州地方

北海道廳

渡島、後志、膽振、石狩、天鹽、日高、十勝、釧路、根室、北見、千島

**概説** 蝦夷山脈、千島帶火山脈と交はる處は、本域最高の地域にして、此より土地三面に低下す。西面には、石狩川、天鹽川の流域に各石狩、天鹽の原野あり、南面には、十勝川の流域に十勝原野ある外、稍小なる釧路根室の二原野連れり。石狩平野西南の地方は、那須火山脈に屬する後志、渡島兩火山脈の火山群立して、平地少しとす。

本域の河流は、甚しく迂折して舟楫の便を興ふれども、沿岸の地を卑濕ならしむることも亦甚し。是れ全く、上流地方より流下せる巨木が、河中に横はるに由る者にして、本域河川の特徴とす。

本域はかく稍平地に富めども、海岸屈曲簡單にして、其出入に富める處は大抵岩礁に終り、平直の濱は砂丘連りて共に



碇泊不便とす。津輕海峽には惠山・白神の二岬ありて、中央に函館灣を抱き、日本海岸には神威岬あり、神威岬邊は岩石海中に亂布して、舟行危険多く、中に土人の神として祭る者あり。半島の東は即ち小樽灣なり。高島岬出で、小樽灣を抱く。此より北宗谷岬に至る間とオホートスク沿岸とは、殆ど一直線をなし、砂丘の内部には湖沼數多あり。宗谷岬は蝦夷山脉の初めて現はるゝ處、樺太のノトロ岬と相對して宗谷海峽をなせり。其東に知床岬あり、南方に納砂布岬出で、共に根室灣を擁す。此より襟裳岬に至る間は又砂濱にして、中に厚岸灣の小屈曲あり。襟裳岬は蝦夷山脉の海に入る所、岬邊暗礁多く、海上一帶濃霧を生ずる所たり。其西に繪鞆岬あり、火山灣(浦内灣)の一角をなす。

渡島 函館(七萬八千)は、元函館奉行を置きし所に於て、函館灣に



函館港

臨み、本邦開港場の一たり。内外の商船港内に輻輳し、商況活潑盛に水産物・硫黄・木材を輸出す。北郊に五稜廓あり、維新の際榎本釜二郎此に據りて官軍に抗したりしが、今は廢れて外濠にて氷を製す。世に曰ふ箱館氷是なり。西南白神岬を廻れば福山(一萬)あり、松前氏の舊城地とす。千軒岳北方に峙つ。其北に江差(一萬六千)あり、福山と共に鯨漁の盛なる處とす。函館より七飯を過ぐ



れば、火山灣の岸に森あり、室蘭に渡るの小港なり、函樽鐵道此地を経て函館、小樽間に布設せられんとす。

**後志** **壽都**は國の中部にある要港にして、東北の岩内と共に漁業の盛なる處なり。岩内より神威岬を廻れば、小樽灣に臨みて**小樽**(五萬五千)あり、炭鑛鐵道を以て札幌及び石狩の諸炭田に通じ、開港場の一として木材及び石炭を輸出し、市街繁盛、市況活潑なり。此地は又漁業の要區にして、漁業盛に行はれ、以て富を致せる者尠からず。

**膽振** 後志の森と相對する所に**室蘭**あり、繪鞆岬其港口を扼して港内安全、現今開港場の一に居り、又第五海軍鎮守府の豫定地とす。炭鑛鐵道の一端此地に來りて内國航路に連絡す。室蘭より西行すれば禮文華の絶景を賞すべし。其北方有珠岳の麓には洞爺湖あり、蝦夷富士の稱あるマカリヌブ

りを望み、湖畔の景亦頗る佳なり。室蘭より東北に進めば**苦小牧**に至る。札幌街道と日高街道との分岐點とす。

**日高** 苦小牧より東行すれば沙留川を渡る。沙留川の沿岸はアイヌの部落多く、中にも**平取**最も著はる。源義經を祭祀す。傳へいふ、義經高館より逃れて此に來ると。其東南に**新冠**あり、大牧場ありて盛に馬を飼育す。尙ほ進めば**浦河**に至る。有名なる**様似**、**猿留**の險道は東方にあり。襟裳岬は、往時口蝦夷、**奥蝦夷**の境界たりし所にして、岬邊長大なる昆布叢生す。

アイヌの男子は髪を被り鬚髯多く、全身毛を生ず。女子は口邊に黥するの習慣あり。衣服は楡の皮を紡げるアッシを以て製し、繻を施して飾となす。又夷錦あり、大禮及び祭祀に用ふ。丸木を柱に用ひ、茅樹皮等にて葺きたる小屋に住し、魚介及び獸類の肉を常食とす。近年は稀に俳作を試むる者あり。性酒を嗜み、殊に熊祭の時を甚しと云ふ。常に男女共に刀を帯び、細工又は調理





アイヌ人

にも用ふ。言語は全く本邦と異なる。稀に稍類似せるものあるは、互に轉用したる者か。性質純良にして最品行を重んじ、孝子仁人を出すと珍しとせず。又アイヌには文字なく、唯口より口へ、親は子に、子は孫に傳ふるのみ。されども、開拓使廳を置きし以來、教育を奨励せしかば、學校も所在に起り、土人の子弟も教の露に沾ふに至り、進歩發達の態實に見るべき者ありといふ。アイヌ人は、太古廣く全土に住し、自己の言語にて住所に名づけたれば、今に遺れるアイヌ語の地名は、地理を學ぶ上に利益を興ふると少からず。

**石狩** 石狩川の支流豊平川の畔に**札幌**(三萬七千)あり、明治二年開拓使廳を置きし所、本域第三の都會にして、施政の中心たり。現今北海道廳第七師團司令部、札幌農學校等あり。麥、酒、砂糖、麻の製造行はれ、又林檎を多産す。炭鑛鐵道は小樽より此に來り、江別を過ぎ、岩見澤に至りて三岐となる。江別は江別川の石狩川に會する所にありて、將來有望の地とす。岩見澤よりは夕張岳を東方に望むべし。此より北に向へは空知川の畔に**室知太**あり、炭鑛鐵道此に終り、官設鐵道此より上川地方に通ず。上川地方は中央高地に接し、寒氣強きに關はらず、地味膏腴なるを以て、**雨龍地方**と共に屯田兵を配置し、盛に開拓に従事す。又此地に、他日建設せらるべき離宮の豫定地あり、官設鐵道は旭川に於て二岐となる。漸次天鹽と十勝とに入らんとするなり。ヌタプカウシベ、オプダテシケ、石狩



岳等の高峯東南に聳立す。

**天塩** 空知太より近年の開鑿に係る増毛街道を進めば、増毛に至る。此國唯一の要港にして、漁業盛に行はれ、小樽函館等と汽船の交通あり、此より北、天鹽の沿岸は屈曲少なく、砂丘相連りて、北見沿岸と共に行旅の最も苦しむ所とす。天鹽川の如きは、之がために著しく南折す。此國は本域中森林の最も密なる地方にして、エツマツトマツ等山野に鬱蒼たり。天鹽川上流の**ナイブツ**地方の如きは、幹周一丈より一丈七尺に及ぶ者あり。

**北見** 沿岸、天塩に似て出入に乏し。國の西北隅に**稚内**あり、毎月數回汽船の來泊するありて、専ら漁業に従事す。官設鐵道の北見線は、上川地方より天鹽平野を貫き、此地を経て宗谷に達せん計畫なり。此より海岸を東南に進めば、**枝幸**あり、

近傍砂金を産す。尙進めば網走河口に網走あり、オホートスク海唯一の要港にして、中央道路によりて上川地方に通じ、肥沃なる常呂網走の原野を控へ、將來有望の地とす。

**根室** **根室**(一萬八千)は根室原野の東南隅にあり、千島地方に至るの要津にして、船舶の出入稍多く、市況盛なり。官設鐵道早晩此地に達せん。對馬海流の餘勢は尙ほ此邊に達するも、其勢甚だ微弱なるにより、嚴冬の候に至れば、海水結氷して船舶は皆背後の**花咲港**に入る。花咲港の近傍海上には、親潮の運び來れる氷塊を見るにあり。根室の西に風蓮湖あり。其北にある西別川は良鮭を産し、上流に孵卵場の設あり。**釧路** 沿岸の一灣入を厚岸灣と云ふ。灣内に厚岸の小港あり、他日開通せんとする根室線は、此より一支線を出して北見の網走港に達せん計畫なり。其西、釧路川の河口に**釧路港**



あり、又本邦開港場の一とす。屈斜路湖畔のアトサヌプリにて採掘する硫黄は、一旦鐵道によりて釧路川の中流標茶に送られ、それより舟にて此港に達す。釧路原野は、畊牧に適する地域根室よりも大なり。

**十勝** 十勝川國の中央を流れ、流域は大原野をなす、其地域石狩平野に次けり。されど、天鹽原野と同じく治水法未だ行はれずして、天然の良土尙は開墾せられたる者僅少なり。原野の中央、諸水の相會する邊に帯廣あり、將來繁榮の區たるべき位地を占む。十勝川河口にある**大津**は、昆布の採取に従事す。官設鐵道は、上川地方より**十勝太**を経て根室に向ふべし。

**千島** 列島概ね千島帯火山脈の上に立つを以つて、海岸直ちに崖に終り、平地乏しく、又良港なく、氣候冱寒、冬期は海水

氷結す。國後擇捉色丹の三島は、トママツ、エゾマツ、グイマツ等の森林山谷に繁り、材木薪炭の料乏しからざれども、擇捉以北は樹木矮小なり。擇捉は列島中最大にして、大に鱒を産し、又海豹を産す。且つ國後擇捉は硫黄に富めり。其東北に得撫新知幌筵アライト、占守等列べり。明治八年樺太と交換して得たる所とす。諸島殆ど無人の有様をなし、漁期漁船の來往するのみなれど、多く臘虎、臘肭臍等を産す。中に就きて、占守島は全島平地にして、地味肥え、植物の播種に適す。現今報効義會の諸氏移住して北門を守る。露領カムチャッカとの間を千島海峽と云ふ。近傍に鱒、鱒及び海獸を産す。前に占守幌筵に住せし僅少のナブカ族は現今色丹島にあり。

**統括** 本域は開拓日尙は淺きにより、人烟稀少、交通不便、且つ氣候一般に寒しと雖も、土地肥沃にして農牧に好適し、



天産豊富、將來大に有望の地たり。山野を蔽へる森林は斧鉞の來るを待ち、質の良好なる石炭は大工業の起らんを望めり。而して、北州の特に稱すべきは水産とす。鯨は日本海沿岸に厚く、昆布は太平洋岸の寒流區域に最も能く繁り、鮭は東北の諸川皆多産し、鱈は北方沿海に多くして、皆悉く本域の大富源たらざるはなし。

石炭は、石狩の諸炭田炭質炭量共に第一に居り、釧路後志等は稍劣れり。天鹽トリス留萌も良好の炭田を有すれども、採掘未だ盛ならず。硫黄も鱧質頗る佳良にして、釧路を最とし、千島北見渡島膽振之に次ぐ。砂金は北見天鹽後志日高に産し、銀は後志に産す。

鯨は好みて群を成して來る。其大群に至りては數百間の間寸隙を餘すとなし。漁期至れば漁者四方より來集し、沿岸の地俄かに繁昌して、天鹽北見沿岸の如き人烟甚だ稀少なる所も、人馬絡繹するに至る。生鯨は二百尾を一丸と稱し、三百丸を百石とし、製造したる者は四千貫目を百石となす。鮭

及鱈は大抵全島の諸川に産し、殊に根室、北見の諸川は一として溯らざるはなく、徒渉すべき細流尙は數百石を産する者あり。鱈は占守島及びカムチャツカ間に群集する所あり、漁期には此地方に向ふ漁者多し。昆布の長き者は數丈より十餘丈に及ぶ。長切に製したる者は多く清國に向つて輸出せらる。

本域はかく地味肥え、天産豊かなるが上に、頗る火山に富めるを以て、山水の美多く内地に譲らず。即ち火山の近傍には温泉湧出し、山中また湖水を湛へて山光水碧相映する處尠からず。膽振の洞爺湖畔、支笏湖畔、釧路の阿寒、屈斜路湖畔の如き最も著はる。要するに本域は、交通の便開け、水利よく治まり、人口蕃殖するに至らば、帝國の北方に一繁榮の區を見るに至るべきなり。



### 臺灣地方

三縣三廳ありて臺灣總督府の管下に屬す。

臺北縣                    臺中縣                    臺南縣

宜蘭廳                    臺東廳                    澎湖廳

概説 臺灣山系東方に偏して南北に亘るを以て、山系の東部は甚だ平地に乏しく、僅かに花蓮、秀姑巒、卑南、三溪の谿谷あるのみなれども、西部は地域廣くして平野連れり。就中、臺中、臺南、兩縣諸水の流域に亘れる者は最大にして、下淡水溪及び淡水河の流域の者之に次ぎ、宜蘭平野(カプスラン原野)は最小なり。

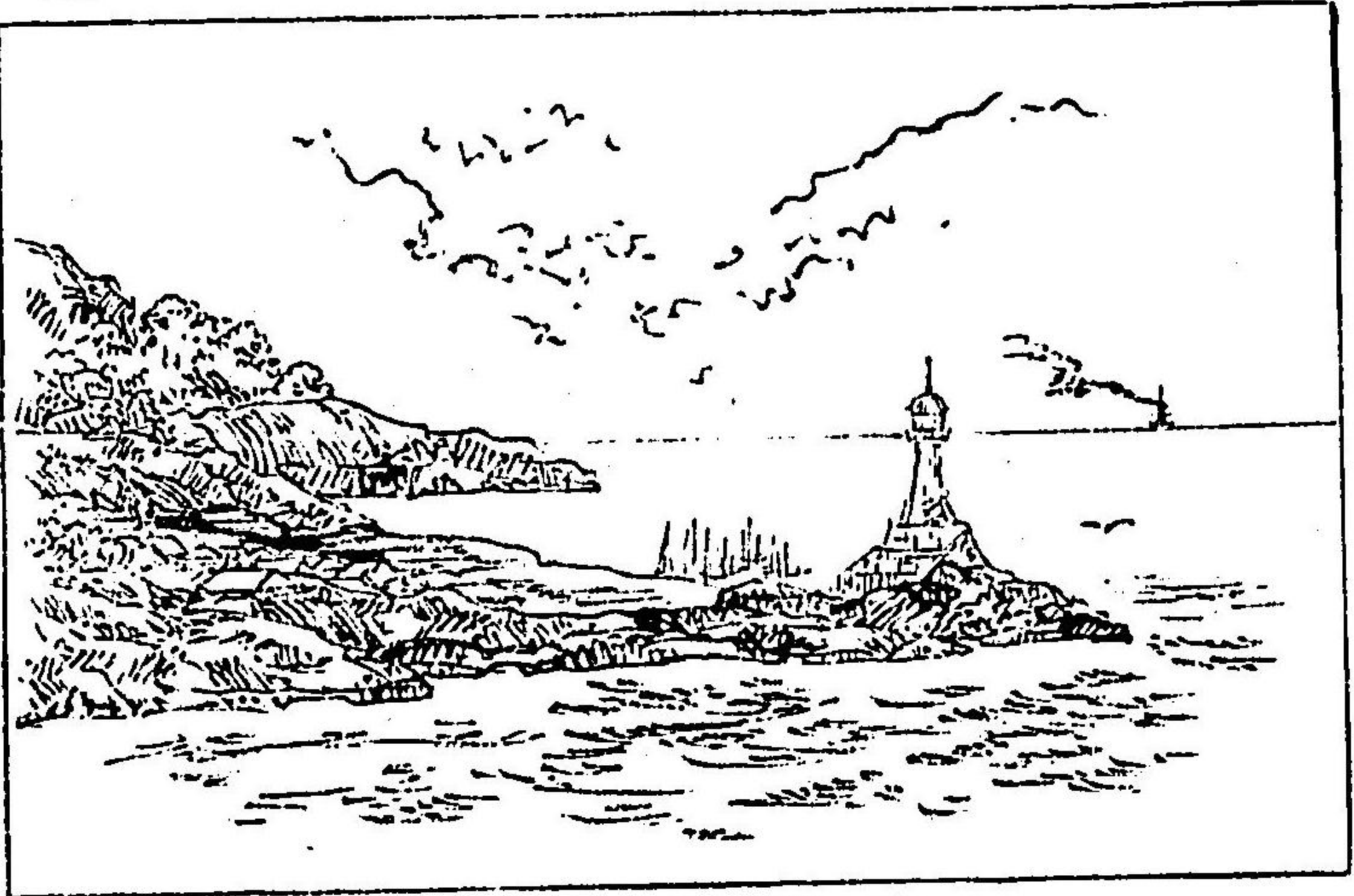
臺灣山系は、頗る高峻にして、一萬尺以上の連嶺雲を凌ぎて聳ゆ。其最高峰を新高山と稱す。歐洲人は之をモリソン山と

呼ぶ。内地の富士山よりも高し。シルビア山北部に聳ゆる南北の双秀峰たり。此山系の北方に大屯火山彙あり。

地相は内地及び琉球と異り、凸面を大陸に向け、凹面を以て大洋を迎ふ。其大洋面は即ち裏面に當り、大陸面は表面に當る。故に平野は自ら東部に少く、西部に多し。臺灣山系を細別すれば四脈となる。即ち、其中のシルビア山脈は臺灣山系の主軸に當り、新高山脈、蕃界山脈の二脈其西に列び、沿岸山脈其東岸に亘れり。此等四山脈の諸山は、概ね頂上に至るまで樹木繁生して、四時緑衣を脱することなく、遠く之を海上より望めば、(日出前後)雲霧の斷續する所、翠峰鋸齒狀をなして蟠れる態、壯觀極りなく、真に美島(フォルモサ)の名に背かず。

以上述ぶるが如く、高峻なる連嶺南北に亘るを以て、臺灣には又大河のありべき理なし。河流概ね急激なれども、但淡水河のみは稍通舟の便あり。是れ、一は河水急傾斜の地を下ると、一は降雨の性質の異なるに由る者とす。臺灣地方の降雨は多く大雨一時に降り來るを以て、上流は深く山間を





臺燈鼻樹鵝

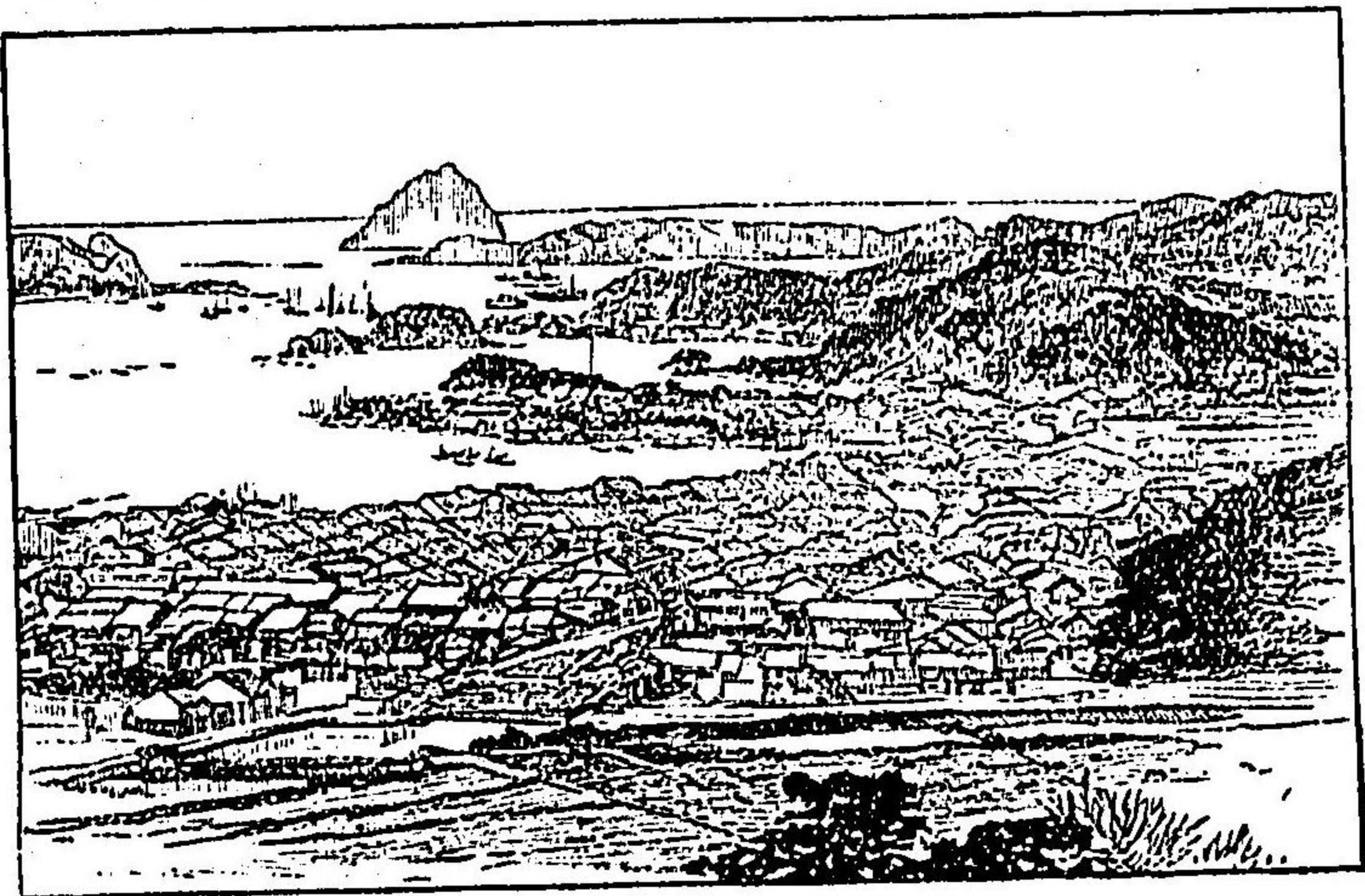
刻み、一たび低地に出づれば河水  
四方に分流して良田を害し、泥砂  
を河口に送ると夥し。故に内地の  
如く、河流に沿ふて道路を通じ、河  
流によりて交通の便を得ると能  
はず。水引き去れば河床乾きて通  
路と變する者あり。

本域の沿岸は頗る簡單なり。  
北及び東は險崖多く、南及び  
西の沿岸は遠淺をなす、共に  
港灣に乏し。澎湖島のみは良  
港を有す。岬角の主なる者を  
擧ぐれば、北端に富貴角あり、

近海寒暖二流の衝突するありて波浪常に高し（寒流はオホホ  
マシク海の北  
西に起り、大陸の沿岸を下し、對  
馬海峡を経て臺灣海峡に達す。）東南の三貂角は征清軍の上陸せ  
る所とす。其南にドーム角あり、シルビア山脉（臺灣山系  
の中軸）此に  
起り、斷崖甚だ高し。恒春半島南端の南岬はシルビア山脉の  
盡くる所にして、岬邊珊瑚礁極めて多く、有名なる鵝樹鼻の  
燈臺あり。

**台北縣** 台北は地味最も肥沃なる臺北平野に立てり、淡水  
河に枕み、府城には堅固なる城壁を繞らし、總督府及び混成  
第一旅團の司令部あり。其舊街は艋舺（カキア）と稱し、西門外にあり  
て、商況頗る振へり。其新街は大稻埕（タイタウ）と呼ぶ。北門外にあり。共  
に水路淡水港と通ず。大稻埕には烏龍茶の再製盛大に行は  
れ、外國商館其他巨商の住宅多し。人口總て六萬、城内街路の  
廣潤清潔なるを、遠く他の及ぶ所にあらず。淡水は一に滬尾





基隆港

と稱す。大陸の厦門・香港に對する要港にして、茶・樟腦(輸)・阿片・綿布・刻煙草・豚・石油・砂糖・木材(輸)等の出入盛なれども、港口泥砂のため極めて淺く、吃水淺き汽船にあらざれば入る能はず。臺北より東北に進めば基隆あり、内地との交通最も繁く、又貿易港の一たり。港内大船を入るゝに適すれども、冬季は海波荒くして貨物積卸に困む。附近の地に炭層あり。

臺北基隆地方は、亞細亞東海岸中降雨量最も多く、曇天も亦頗る多し。冬季暖流を渡り來る北東風の吹き荒む頃は、陰霖數十日に亘り、氣候稍、寒冷を覺へ、稀に近傍の山岳に白雪を見るときあり。然れども晴天の日は温暖にして、恰も春の如きことありて、寒暖甚だ不定なり。且つ、晝夜寒暖の差も大なるにより、一般にマラリヤの如き熱病流行す。故に、内地人は多く、フランネルの下着を用ひて其豫防を怠らず。

臺灣鐵道は基隆に起り、臺北を経て新竹まで開通す。尙ほ南方に向ひて本域を縦貫せん計畫なり。新竹(六千)は臺北の西南にありて、貿易港舊港を控へ、稍繁華なる所とす。舊港は支那船の出入多く、苧麻を輸出す。

台中縣 新竹より南行すれば苗栗あり、縣下北部の要區にして、近傍に樟腦の産出多し。其西北に貿易港後壠あり、台中は一時臺灣府のありし所、今は縣廳及び混成第十二旅團司令部を置く。他日、臺灣鐵道は苗栗・臺中を経て濁水溪の流域



を過ぎり、樟腦に名高き雲林を過ぎて臺南縣に通ずべし。臺中の西方に彰化(一萬四千)あり、西部平野北方の要區にして、稍繁華なり。其西に貿易港鹿港(七千)あり、最も支那に近きを以て、支那船の出入頗る繁く、米其他地方の物貨を集散し、市況繁盛なり。蕃社の物貨も多く此地に集まる。鹿港の北に梧棲港あり亦貿易港の一にして、米(輸)綿布(輸)豚(輸)を輸出入す。

台南縣 嘉義(一萬八千)は、西部平野の中央に立てる一要區とす。其西方に貿易港東石あり、米赤砂糖(輸)綿布(輸)を取引す。台南は、西部平野の南方要區を占め、貿易港安平を控へ、人口四萬七千、縣廳混成第三旅團司令部ありて、商況活潑、巨商多く、本城第二の都會とす。此地は久しく本城施政の中心たりし所にして、彼の濱田彌兵衛が蘭人の怨を報せしも、鄭成功がゼーランヂヤ城(蘭人の築きたる城にして城址今尙存す)を陥れて蘭人を放逐したりし

も、亦此地に起りし事件なりとす。近傍製糖の業盛に行はる。安平港は臺南の門口にして貿易港の一に居り、砂糖・麻・肉龍眼(輸)綿布・刻煙草・石油・紙・木材(輸)等を貿易す。臺南より南に進めば鳳山に至る。製糖地の要區に立てり。其西の打狗港は、米(大に輸)綿布(輸)を取引し、砂糖を内地へ送り越すこと少なからず。鐵道は此地を起點として臺南に達し、尙北方嘉義・雲林・彰化・臺中を経て新竹に結び、本島南北兩端の要港たる此港及び基隆を連絡するに至るべし。打狗の東南に方りて東港あり、本城最南の貿易港とす。

宜蘭廳 宜蘭は宜蘭廳のある所、人口一萬六千、本城東岸唯一の都邑にして、宜蘭平野の中央にあり。此地は三面山に圍まれ、熟蕃の最も多く居住する所とす。南方ドーム岬邊に蘇澳港あり、貿易港の一なれども未だ振はず。



熟蕃はもと四種族ありて、臺灣の西北部一帯の平原に住せしが、支那の廣東福建地方より移住し來れる支那人のために、次第に土地を占奪せられ、今は支那人化せられて支那人と共に雜居す。宜蘭平野に最も多く、苗栗、臺中、埔里社、鳳山、恒春等の附近に多少の部落あり。臺東の平地にも、近來他より移住せる者あるを見る。

**台東廳** 最も平地に乏しく、沿岸は又世界稀有の斷崖なれば、耕作碇泊兩つながら其便を缺けり。管内到る處、生蕃、社をなして居住す。多くは漁獵に従事し、耕牧を勤むる者は至りて稀なり。花蓮溪の口に**花蓮港**あり、臺東唯一の港なれども、風波を遮ざる者なく、綱を以て急に舟を引き上ぐるといふ。此より溪谷を南に通ずれば、**卑南**平地に**卑南**あり、**臺東廳**のある所とす。紅頭嶼は此より東南の海上に見ゆ。

生蕃の主なる者を擧ぐれば左の如し。

**有黥面蕃** 男女共顔面に黥するの風習あり、シルビア山を中心として

臺灣北部の山中に住し、性慍悍、首狩を得意とす。蕃民中最未開の者に屬せり。  
**ブヌン蕃** 臺灣の中央部にあり、有黥面蕃の南部を占め、蕃民中最高所に住する種族なり。顔面に黥するなく、性質も亦穩和なりとす。

**阿里山蕃** 嘉義阿里山に住し、ブヌン蕃に似たる風習をもてり。

**バイワン蕃** 臺灣南部の山上に住する者の稱なり。明治七年征討せる牡丹社の如きも此種族に屬せり。

**ツリセン蕃** ブヌン蕃とバイワン蕃との間に住し、言語風俗體格等よくバイワン蕃に似たり。男女共草花を簪し、美術心に富み、殊に彫刻の技に長ず。

**卑南蕃** 自らヒューマと稱し、主に卑南平原に住す。蕃族中稍開け、容貌風俗等バイワン蕃ツアリセン蕃に似たり。

**阿眉蕃** 花蓮港以南、東部臺灣の平地に住す。

**紅頭嶼蕃** 紅頭嶼に住し、自らはグルグルセラと呼ぶ。性穩順なれども頗る未開なり。

**澎湖廳** 安平の西海上に澎湖諸島あり、澎湖水道を隔て、



臺灣本島と相望む、中に三大島(澎湖島、白沙、烏漁翁島)あり、環狀に相並びて小内海を作る。其澎湖島に媽宮(又は馬公)港あり、内海に臨みて港内安全、近海を航行する船舶の風難を此に避くる者多し。貿易港の一にして、又澎湖廳あり。

本域は一般に風力強大本邦中風害の最も多き所とす。就中臺灣海峡は殊に風勢強烈にして、平日と雖ども遙かに他より大なり。澎湖諸島に喬木を見ざるは蓋し是に由る。且つ海上波浪常に高く、夏日南風穩なる日と雖ども、尙ほウチリあり。其暴風期又は冬季北東風の荒む時の如きは、海峡の交通往々絶ゆるとあり。然れども晴天の多きに至りては本域中澎湖島を隨一とす。諸子試みに、瀬戸内海の地勢と澎湖島の地勢とを比較し見よ。

**統括** 本域の地たる、南半己に熱地に入るを以て、恒春地方の如きは、終歲霜雪を見るをなく、又海洋の影響ありて、盛夏も尙ほ百度を超ゆるをなく。且つ夏季頗る長く、雨量も通じ

て多大なるにより、植物の生育極めて佳良にして、米・茶・甘蔗・苧麻等農産甚だ豊なり。茶は北部地方に好適し、製糖の業は西南地方に行はれ、米は收穫年二回に及ぶ。又森林には良材を産するのみならず、北部には樟樹密生して樟腦の産頗る多く、大姑陷地方は巨大なる樟樹に富めり。

茶は四季共に摘取をなし、年に凡七回に及ぶ。其夏季に摘取せる者香味最も良好にして、價も亦貴し。其烏龍茶と稱する者は、最も精撰せる者にて、直ちに箱詰として外國へ輸出す。其包種茶は、粗葉にして香氣も少き故、草花を混じ室内に積み重ね置き、其香氣の茶に染みたる頃を計り、取り出して紙包となし、荷造して之を輸出す。

甘蔗の栽培法は頗る單一にして、節を付けて莖を七八寸の長さに切り、各片を土中に挿み、少量の灰を撒布するの外、別に肥料を供せずしてよく一丈餘に生育す。白砂糖の製法は未だ拙く、甘蔗より製したる赤砂糖を底に孔ある壺に盛り、粘土を其上に載せて放置す。然るときは、糖蜜は次第に底



孔より雁し出だされ、壺の上部に白砂糖を生ず。其白砂糖の部分丈は時々  
に取除けられ、全壺の白砂糖に變するまでには、少なからぬ時日を要する  
なり。

臺中・臺南の沿岸地方は、瀬戸内海の如く雨濕少きを以て、製  
鹽業盛に行はる。殊に天日製の行はるゝは内地に見ざる所  
とす。

天日製に供する鹽田は、長方形の者にて數區に分たれ、一區毎に樋門あり、  
最後の一區のみは陶器の破片を敷き詰め、潮水の流入すると能はざる高  
所にあり。其製法、先づ潮水を第一區に導き、樋門を閉ぢて日光に曝し、稍濃  
密となれる時之を第二區に導きて益濃厚なる鹽水となし、尙數區を経て  
最後に至り、鹽水を最後の一區に撒布し、以て水分を蒸發せしむ。其結晶し  
たる者は即ち天日製の食鹽なりとす。結晶稍大なり。

鑛産には砂金・石炭・硫黄等あり。砂金は北東部に多く、石炭は  
基隆附近に採掘せらる。

要するに、本域はかく地甚た農業に適すれども、其法未だ精  
しきに至らずして、莫大の遺利棄てゝ省られざる者あり、而  
して、東部生蕃地方の如きは、探檢の至らざる所多ければ、本  
域の富源にして、尙ほ未だ發見せられざる者必ずや多から  
ん。今や不便を極めたる本域の交通機關も、漸次改良發達の  
途に就きたれば、之が完成と共に、頑迷なる土蕃も 皇恩の  
優渥なるに感泣し奉るべく、富源も益開拓せられて、本域の  
面目改まるの期蓋し遠きに非るべし。



## 結 論

生業 國民米穀を常食とし、多くは農業に従事す。米は關東平野・畿内平野・越後平野に最も多く、兩羽・越中・陸前・尾張・伊勢・近江・播磨・防長・筑前・筑後・肥後・肥前等之に次ぐ。伊勢・近江・美濃・播磨・筑前・肥後等の米は内國向佳品と稱せられ、中國米・九州米の中には外國向の佳品あり。全國を通じて、毎年四千萬石内外を産し、越後平野の二百五十萬石内外を最多額とす。麥は産額米の約半にして、埼玉・茨城・愛知・熊本等の諸縣に多し。甘藷は關東平野及び九州に、馬鈴薯は北海道に多く栽培せらる。煙草・麻・藍等は各地に産し、砂糖は臺灣に多く、其他琉球・九州・四國・駿河及小笠原島に産す。生絲と茶とは、國産中の重要輸出品なり。生絲は岩代・上野・信濃・甲斐・武藏等に多産し、茶

は駿遠地方・山城・伊勢を最とす。臺灣北部にも製茶の業、頗る盛に行はる。

右の耕土は、之を全面積に比するに、僅かに九分一に當るに過ぎず。我が國が、良風土たるにもかゝりはらず。大に各種の農産物を輸出する能はざるは、實に大農圃の缺乏、其主因に居る。

山地は全面積の大部分を占め、森林鬱蒼たる所亦尠からず。陸奥山林・羽後山林・兩毛山林・木曾山林・立山山林・天城山林・駿河山林・遠江山林・伊勢山林・大和山林・紀伊山林・霧島山林等は、其最も著名なる者にて、何れも數里或は十數里に亘る。中でも木曾・紀伊・天城の三山林は、良材に名あり。臺灣北部の山地には樟樹少からず。

山林の副産物として樟腦及び椎茸を産す。共に重要輸出品の一にあり。様



腦は主として臺灣に産し。椎茸は東海道山陽道四國九州に多し。

諸國の山地原野等の地には、牛馬の牧養稍行はる牛は中國九州に多く、殊に但馬を著名の産地とす。馬は舊奥羽九州最も著はれ、兩地共に軍馬育成所の設けあり。琉球には豚山羊を産し、臺灣には豚水牛を産す。

鑛産には、産額の最も多きを石炭とす。筑豊炭田三池炭田高島唐津の二炭田空知夕張幌内の三炭田等其名夙に内外に高く、磐城及び常陸炭は品質稍劣れり。銅の産出は世界の第二位にあり。足尾別子を最も著名とす。石炭と共に輸出額頗る多し。硫黄は北州に多く、石油は越後に多く産す。薩摩大隅佐渡但馬及び北見の金、羽後飛騨佐渡岩見但馬岩代の銀等亦有名なり。

濱海の民は漁業に従事す。北海道及び千葉縣に最も盛なり。

錫昆布鮑海參蝦寒天魚油等は海外輸出品の主なる者とす。瀬戸内海沿岸臺灣の西岸一帯の地は、製鹽業に適し、産額大なり。撫養赤穂大鹽等は内地にて名高く、臺灣にては天日に依りて鹽を製す。

安房伊豆土佐日向等の地には海外へ輸出する寒天の原料を産す。

従來我が國の工業は、俗に曰ふ手先の仕事にして、單に内地の需用に應ずるの姿なりしが、近來器械汽機を盛に採用してより、一時に長足の進歩を遂げ、製糸紡績機業の工場其他諸種の工場大に起れり。製絲は主として養蠶地方に行はれ、綿絲紡績は大坂兵庫岡山三重愛知東京福岡諸府縣に盛なり。機業は京都群馬朽木愛知福井等の諸縣に盛大に行はれ、染業は京都獨得の妙技とする所なり。花蒔及び疊表は三備地方及び筑後豊後の地に多く、麥稈眞田の製作は備中備後



尾張・東京近傍に行はる。尾張の瀬戸・美濃の多治見近傍・肥前の有田附近・山城の京都・加賀の小松及大聖寺附近・岩代の本郷等は陶磁器の製作に名高く、會津・静岡・輪島・金澤及び山中・京都・黒江等は漆器の製作に名あり。琉球には特有の朱塗あり。紙は土佐・美濃を最とし、駿河・伊豫之に次ぐ。神戸・大坂・名古屋近傍・東京等の地にはマツチの製造甚だ盛なり。

製糸以下列舉したるは本邦最著名の工藝品にして、海外へ盛に輸出せらる。此外洋傘・扇子・木蠟等も重要輸出品中にあり。

食品の主なる者には酒類・醬油あり。清酒は攝津・尾張に盛に醸造せらる。醬油は野田・銚子・龍野等最も名高く、本邦人特殊の嗜好品とす。

以上述べたる所は、實に本邦物産の大略なるが、中に就きて、内國取引の最も盛なるは、米・食鹽其他海産物の如き食料品

絲類・織物類・薪炭・木材・石炭・石油等の諸品とす。富士帶以東にては東京を中心とし、以西にては大坂を中心として行はる。名古屋も亦其中間に介在して、濃尾平野近傍の内國取引を左右す。

日本郵船會社の船舶は、横濱或は神戸を起點として内國航路と外國航路とを有す。其内國航路は、本州北州の沿岸各要港を連ぬる者と、神戸・門司を経て基隆に至る者あるのみなれども、外國航路は、近くは韓支那の北部開港場・上海及露領ウラジオストクに往復するの外、東米國に至るには米國線あり、南濠洲に航するには濠洲線あり、其他ボンベイ線あり、歐洲線ありて、本邦内外の交通運輸を司せる最大機關たり。

之に次ぐは大阪商船會社とす。神戸を起點として、中國四國九州臺灣間の各要港を連絡し、外國航路としては韓支那(揚子江沿岸)の各港を連ぬ、又臺灣より支那の厦門・汕頭及英領香港に至る運輸交通の便を供す。

東洋汽船會社も香港及桑港に至る交通運輸を司れり。

外國取引は神戸・横濱・長崎に於て最も盛に行はる。其他臺灣



品入出輸及國易貿るな主



結論 沿革

一四五

を除きて、函館・室蘭・釧路・小樽の三港、清水・武豊・四日市の三港、大坂・糸崎下・關の三港、濱田・境・宮津・敦賀・七尾・伏木・新潟の七港、門司・博多・唐津・口津・三角の五港、嚴原・鹿見・佐須・奈の三港及び那覇等も亦普通貿易を許さる。

室蘭港にては、麥・石炭・硫黃其他大藏大臣の指定したる物品の輸出に限り之を爲すことを得、又前記各港に於て、毎二年の輸出入貨物價額金五萬圓に達せざるときは之を閉鎖する規定なり。

外國輸出品中の最主要なる者は、生絲・綿絲・織物・石炭・銅・米・茶・海産物・花・莖・麥・稗・眞田・陶磁器・樟腦及び紙類にして、北米合衆國を第一の輸出國とし、清國・香港・佛國・英國等順次に之に次ぐ。輸入品には鐵鋼及び器械類・綿・砂糖・織物類最も多く、英國を第一の輸入國として、英領印度・北米合衆國・清國・獨逸等より輸入せらる。

一四四



臺灣には、基隆・淡水・舊港・後壠・梧棲・鹿港・安平・打狗・東石・東港・媽宮・蘇澳の十二港ありて、茶・砂糖・米・樟腦・苧麻(輸)・綿布・阿片・刻煙・草・豚・石油(入)等の貿易稍盛なり。

此等商業の機關としては、各商業地に銀行あり、日本銀行は東京にありて内國經濟の圓滿を計り、正金銀行は横濱にありて貿易の金融を調和す。又現時、全國に五十餘の商業會議所ありて、其救治又は改良發達を策る、

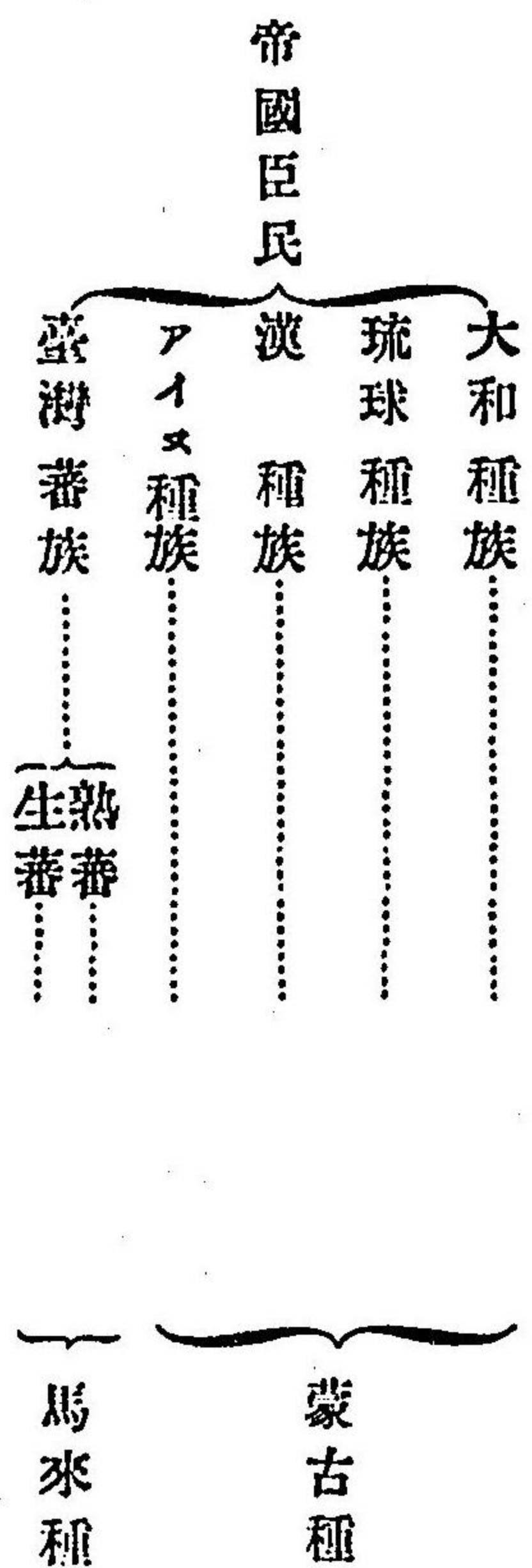
日本勸業銀行と各府縣にある農工銀行は、其名の如く實業の發達に便ならんが爲めに設けられたる者なり。臺灣には臺灣銀行、北海道には拓殖銀行あり。

**住民** 帝國の臣民は、現今五種族より成る。大和種族・琉球種族・漢種族・アイヌ種族・臺灣蕃族是なり。

琉球種族は、一見大和種族即ち内地人と異なるが如くなれども、其言語風俗等

より推すときは、内地人と等しく、大和種族の中に包括せらるべき者の如し。大和種族は人口最も多く、主に古の所謂大八洲(中)の地に住す。北州(北)の如きも、少數のアイヌ種族及び僅少のチブカ族を除けば、他は悉く大和種族なり。琉球には約五十萬の琉球種族住せり。

漢種族と臺灣蕃族とは、専ら臺灣(南)に住す。漢種族は支那より移住せる者にして、臺灣蕃族は舊來の土人なりとす。





アイヌ種族は、元來果して何種に屬する者かは未だ判然せず。今暫く蒙古種の中に配す。此種族は、古全國に蕃殖して勢強かりしが、次第に大和種族に推されて、現今は北州の一隅に住するのみ、史に東夷又は蝦夷と稱するは即ち此種族を指せるなり。

五種族を通じて人口總數四千六百餘萬、内臺灣人口約二百八十萬、北州人口約六十萬を控除すれば、餘は悉く本州・四國・九州の地に住するものとす。故に之を各域の面積に比するも、中域は人口最も稠密にして、南域之に次ぎ、北域は最も稀疎なり。

而して本邦中人口の最も密なる所は、畿内の平野にして、關東平野、濃尾平野等之に次ぎ、淡路、壹岐等の嶋地には割合に人口稠密なり。

本邦は、人口の増殖力大にして、毎年平均四十萬人を増加する割合なれば、今後百年の後には現今二倍の人口を算するに至るべく、日本民族の將來多望と云ふべし。

又帝國臣民には、華族・士族・平民の三階級あり。華族(公、候、伯、子、男)は、公家・舊諸侯及び國家に大勳功ありて爵位を得たる者より成り、政治上に於て幾分の特權を有するの外は敢て士族・平民と異なる所なし。士族は舊來武士の稱ありしものなり。

國民の信ずる宗教には凡三あり。神道は、古來本邦に存するものにして、一定の主神なし。教派數多ありて、神社の數十九萬餘、神宮・官幣社・國幣社・府縣社・郷社・村社等の社格あり。佛教は其傳來頗る古く、今尙信仰する者甚た多し。宗を分つて十二、數十派を立て、寺院の數七萬餘を存す。

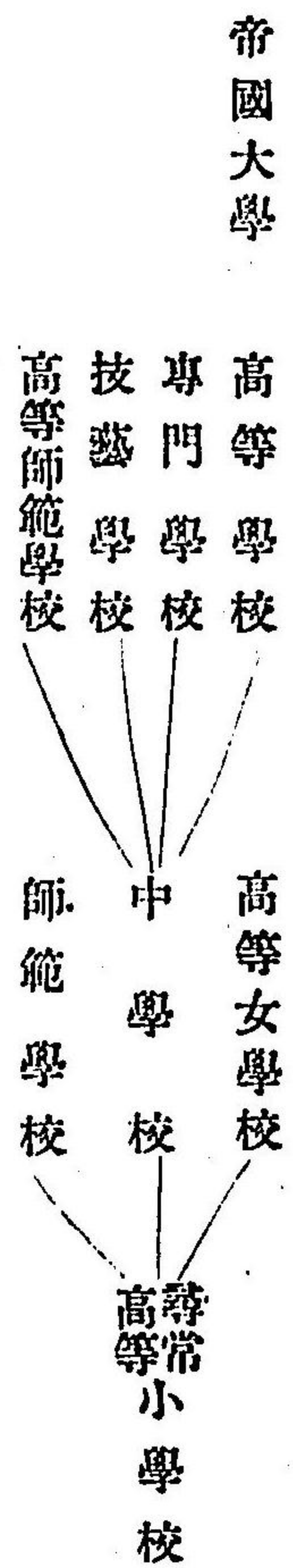
佛教は近畿地方に最も盛に行はれ、北陸諸縣にも盛なり。宗派中眞宗・曹洞宗、眞言宗を最著名とす。

耶蘇教は、足利氏の末始めて入り來り、一時盛に行はれしが、



中頃國禁となり、明治廿三年、信教の自由を得しより再び公に行はる。

維新以後、國民の教育大に進歩し、普通教育の機關も、高等教育の機關も、實業教育の機關も年と共に整頓して盛に行はる。現今、全國學校の數約二萬八千に上り、盲啞と雖も尙教の庭の撫子の數に漏れざるは、實に慶賀すべきの至に非ずや。學校系統左の如し。



臺灣には國語學校、國語傳習所あり。又内地の小學校に比すべき私塾あり。軍事教育學校系統左の如し。



政治 我が國の政體は、東洋唯一の立憲政體にして、萬世一系の 天皇國の元首に在りて國家統治の大權を總攬し給ひ、其下に立法・司法・行政の三大機關を備ふ。立法權は帝國議會の協贊を経て行はれ、司法權は裁判所之を行ひ、行政權は政府之が施行に任ず。

帝國議會は貴族・衆議兩院より成る。貴族院は四種皇族、華族、勅選、多額納稅者の議員より組織せられ、衆議院は各府縣の選舉區に於て公選せられたる議員を以て組織せらる。裁判所には大審院、控訴院、地方裁判所等の等級あり。内閣は國務大臣を以て組織し、首班に内閣總理大臣あり。内閣の下には九省屬せり。



又宮内省は専ら帝室の事を司り、樞密院は 天皇の諮詢に  
 應へ奉り、會計検査院は財務を管督す。  
 帝國の軍隊は、大元帥陛下の統率し給ふ所にして、陸海二  
 軍より成り、帝國の臣民たる者(満十七才以上滿四十才までの男子)は、華士族平民の  
 區別なく、皆兵役に服するの義務あり。兵役を分ちて常備後  
 備補充國民の四役とし、常備は尙ほ之を現役・豫備役の二と  
 なす。陸軍は全國を十三師管に區分し、之を三都督部に配す。  
 一師管は更に廿六旅管・五十二聯隊區に分ち、一師管に一師  
 團を置き、一旅管に一旅團・一聯隊區に一聯隊を置く。師團に  
 は歩・騎・砲・工・輜重の兵種あり、臺灣は未だ管區なく、各師團の  
 分遣兵を以て三混成旅團を編成す。其他邊要又は要害の地  
 には、警備隊・要塞砲兵を配置せり。現時常備役・後備役を通じ  
 て、陸軍軍人の數約三十二萬、一旦事あれば赤符を握りて立

ち所に集る。

海軍は全國の沿岸を五海軍區に區分し、一海軍區に一軍港  
 あり、軍港には鎮守府を置く。舞鶴及び室蘭は未だ開港せず。海軍々人の數約  
 二萬五千、各種艦艇を通じて其噸數約二十萬噸、帝國の軍艦  
 旗亦四海に輝く。

納税も亦帝國臣民たる者の義務とす。蓋し三大機關の運用  
 及び軍備費には國税を要し、各府縣の公共事業には地方税  
 を要し、各市町村の自治團體にては市町村税を要するもの  
 とす。

沿革 古の大八洲の地は、皇化夙に洽く、淳仁天皇の朝、已に  
 畿内・七道・六十六國・二島の區劃さへ置かれたりき。維新に至るまで變更なし。  
 遙かに降りて、足利氏の末頃に至り、朝比奈某といふ者八丈  
 島を發見し、ついで、武田信廣といふ者蝦夷島(北州)に渡り、蝦夷



を招撫して其地を拓けり。小笠原島も其頃小笠原某に發見せらる。其後徳川氏の世に及びて、島津家久の琉球征服あり、西南の邊土又我に入る。降りて、明治八年、露西亞と約して西國の境界を定め、樺太をは露西亞に與へ、千島をは我が國の有とせり。明治二十四年、硫黃島を小笠原島の所屬とし、明治二十八年に至り、清國との媾和條約によりて、又新に臺灣及び澎湖諸島を得、現今は、五大島と二千有餘の屬島とを領有する事となれり。

明治元年、奥羽を削きて七國とし、同二年には蝦夷を北海道と改め、十一國に分てり。之に琉球を加へて、畿内、八道、八十五國備はる。

帝國の友邦中、韓と支那とは、最も我に近接するを以て、交通早く開け、かの三韓征伐ありたる後の如きは、三韓の地、一時我が國に内屬し、大陸の政治文物大に輸入されたりき。其後、

永く公の交通絶えたりしが、足利氏の時、又支那(明)と通せしかば、我が國人の、波濤を侵して、支那、呂宋、安南、暹羅等に通商する者も出で、平戸、長崎、堺など頗る賑へたり。西國の豪族等も、大に通商の利を得たりとぞ。葡萄牙の船、其頃初めて來る。實に西洋交通の始にして、西班牙、和蘭、英、吉利等もついで來れり。たまたま、耶蘇教國禁の令出で、和蘭、支那を除くの外は、外國船の入津を禁せしかば、和蘭人のみ、永く長崎に來りて、交易の利を占めたり。其後、嘉永六年、北米合衆國使節來朝以來、各國と條約を結び、遂に横濱、神戸、長崎、新潟、函館の五港を開きて、互市を許せり。現今開港場二十九、臺灣貿易港十二條約國の數は廿有餘に及ぶ。

現時英國は臺灣の對岸なる香港に據りて、東洋貿易を左右し、露西亞は大連、旅順に據りて、亞細亞の北方より貿易の利を分たんと謀り、佛國は交趾



支那、東京を占略して東洋の足溜りとなし、北方に延びんとし、獨逸は膠州灣に據り、又盛に航海通商を奨励して東洋に羽翼を伸し、北米合衆國は比律賓に據りて東洋貿易を擴張しつゝあり。

帝國の領土約二萬七千方里、人口約四千六百萬、東西兩大陸の間に位して、亞米利加に向はんとすれば黒潮の便あり、濠洲に向はんとすれば定時風の利あり、無盡藏の石炭は帝國の海運と工業とを興起して尙ほ餘あるべし。知らず、よく世界の強國と角逐して、同胞の福利を益する者、それ誰の力ぞや、誰の責任ぞや。

# 日本地理教科書終

明治三十三年十二月廿四日印刷  
明治三十三年十二月廿八日發行

監修者

奈 佐 忠 行

編纂者

荒 泰 治

發行者

東京市日本橋區本石町二丁目十二番地  
杉 本 七 百 丸

同

市全 區鐵砲町三番地  
榑 原 友 吉

同

市全 區大傳馬町二丁目廿二番地  
長 島 恭 三 郎

同

大坂市東區備後町四丁目七十八番屋敷  
吉 岡 平 助

印刷者

東京市京橋區弓町廿三番地  
橘 磯 吉

印刷所

全 市京橋區弓町廿四番地  
三 協 合 資 會 社

發行所

全 日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地  
六 盟 館

關西大賣捌

大坂市東區備後町四丁目七十八番屋敷  
吉 岡 平 助

日本地理教科書附

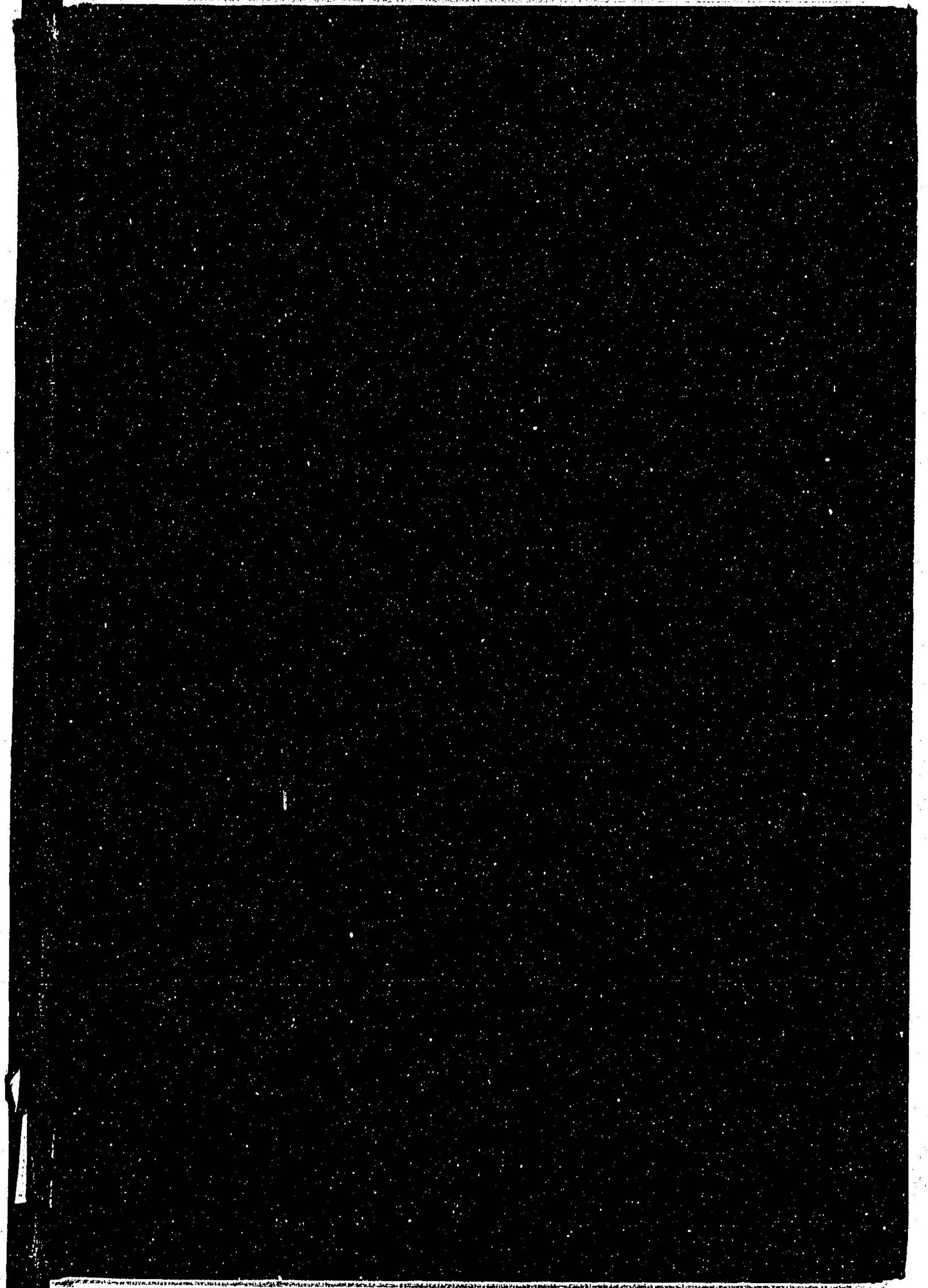
定價 金六拾錢





40
15







90  
15

022974-000-6

90-15

日本地理教科書

荒 泰治/編

M33

ADB-0914





